

【新刊案内】

- * 2025 年版 中国の水電解槽開発の現状と参入メーカー動向 3
- * 2025 年版 インド水素プロジェクトおよび水電解槽メーカー参入動向 3

【国内情報】

- P : トヨタ、独 cellcentric に出資。拘束力ある契約締結 4
- P : 田中貴金属、量子水素エネルギーを研究するクリーンプラネットへ出資 4
- P : NEDO、「水素社会モデル構築高度化技術開発・実証事業」実施体制を決定 5

【海外情報】

- P : 独 Mercedes-Benz、建設用 BEV 電動トラック「eArocs 400」の受注開始 7
- P : 独 MAHLE、大型 BEV 向け 130kW レンジエクステンダーを世界初公開 7
- N : 印 JK Cement、2027 年 3 月までにセメント輸送に 55 トン BEV 電動トラックを 150 台超導入... 8
- P : 独 MTU Aero Engines、水素燃料電池航空推進システムの燃料系システム試験を終了 9
- P : 米 Amazon、映画撮影現場で水素発電ユニット 3 基による電力供給を実施 9
- N : 韓国現代自動車グループ、2033 年開業の港湾アクセス鉄道に水素燃料電池列車導入を計画 10
- P : 英 Genevos、蘭 Koedood と船舶用水素燃料電池システム開発で提携 10
- N : デンマーク DSV、米テキサス～メキシコ間に BEV トラック 10 台導入 11
- P : 独バイエルン州、Siemens 製水素燃料電池列車 3 編成を 2026 年 12 月に本格投入 12
- N : スウェーデン Scania と MaserFrakt、水素燃料電池除雪車の実運用試験を開始 12
- P : 米デラウェア大学、PEM 触媒コーティング膜からイリジウム・白金を回収する技術を開発 13
- N : 独 RB12、RB12 線を走行する燃料電池列車がディーゼル運行に回帰 13
- N : 蘭 GL de Haan、MAN 水素エンジントラックを重量輸送に導入 14
- P : 独 Bosch、スペイン Alsa の協力を得て、190kW 燃料電池システムをマドリードのバスで実証 .. 14
- N : 韓国 KORAIL、2028 年に 1.2MW 水素燃料電池列車の営業運転を開始 15
- P : 米 Hyroad Energy、南カリフォルニアに液化水素モバイル水素ステーションを開設 15
- P : 米 Bloom Energy の 2026 年第 2 四半期決算、売上高は過去最高の 10 億 6,540 万ドル 16
- P : 豪 Woodside、2.6MW オンサイト水素製造・充填ステーションを 2026 年下半年に稼働 16
- N : ブラジル Convergase、水素貯蔵システム事業に参入を計画 17
- N : 韓国 : 2026 年 6 月末の自動車登録台数、BEV が 109.5 万台、水素燃料電池車は 4.8 万台 18
- P : 米 Clean Energy、OCTA の水素ステーション建設を 2,750 万ドル (44 億円) で受注 18
- N : 米 Cummins カミンズ、新型エンジン「X15」および「X10」のフル生産を来年に後ろ倒し 19

【参考資料】

- A : 中国の水素・燃料電池関連ニュース (2026 年 7 月 20 日～7 月 24 日) 20

【備考】

＊目次のタイトル頭に記事内容を区分するための略号を付します。略号の意味は下記のとおりです。

A：新聞、雑誌記者による解説記事

N：ニュース記事（記者会見、インタビュー記事、記者による取材記事、展示会等の取材記事など）

P：プレスリリース、およびプレスリリースをもとに書かれた記事

＊燃料電池の種類を示す主な略号は以下のとおり。

PEFC（PEM）：固体高分子形燃料電池

AFC：アルカリ形燃料電池

SOFC：固体酸化物形燃料電池

ALK：アルカリ型水電解

DMFC：ダイレクトメタノール形燃料電池

SOEC：固体酸化物電解

MCFC：溶融炭酸塩形燃料電池

AEM：アニオン（陰イオン）交換膜電解

＊為替レート換算（2026年7月～12月）

ドル 160 円（豪ドル、カナダドル、香港ドルなどの表示がない場合は 156 円を採用）

ユーロ 185 円

ポンド 216 円

元 24 円

ウォン 0.11 円

＊燃料電池関連サイトの紹介

<https://www.sustainable-bus.com/>

<https://www.fuelcellbuses.eu/>

<https://hydrogen-central.com/>

<https://www.euractiv.com/sections/hydrogen/>

<https://hydrogentoday.info/news-en>

<https://www.hydrogenfuelnews.com/>

<https://www.now-gmbh.de/projektfinder/> （NOW のプロジェクト）

【新刊案内】

*2025年版 中国の水電解槽開発の現状と参入メーカー動向

- ◆発刊：2024年11月8日
- ◆体裁：PDF版／ダウンロード版 A4判 368ページ+エクセルデータ
- ◆価格：CD-ROM版・ダウンロード版（本体価格220,000円+消費税）

◆本資料の特色

2024年11月に刊行する「中国の水電解槽開発の現状と参入メーカー動向」、中国の水電解槽開発メーカー134社を個票ベースでまとめた。調査内容はサンプル掲載した形式で134社を収載している。中国で開発が進んでいる「AEM電解」と「海水直接電解」に参入する企業と開発概況もまとめた。

*2025年版 インド水素プロジェクトおよび水電解槽メーカー参入動向

- ◆発刊：2025年5月9日
- ◆体裁：PowerPoint 31ページ
- ◆価格：CD-ROM版・ダウンロード版（本体価格95,000円+消費税）

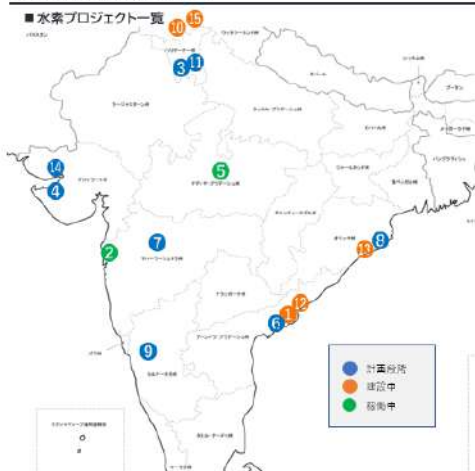
◆本資料の特色

最近最も注目されるインドの水素プロジェクト動向と世界の水電解メーカーのインド市場への展開とインド水電解企業の概要をコンパクトにまとめました。

1. インド水素関連概況
2. 国家水素グリーンミッション
3. インド水素プロジェクト動向
4. 海外水電解槽メーカー進出状況
5. インド水電解槽メーカー一覧

3.インド水素プロジェクト動向

★グリーン水素 ★アンモニア



#	企業名/プロジェクト名	電解容量
1	AM Green/カキナダプロジェクト★	1.3GW
2	Airox Nigen-インド原子力発電会社★	125kW
3	Haryana City Gas Distribution★	15MW
4	Essar★	1GW
5	GAIL★	10MW
6	Greenko★	1GW
7	Hysenco★	不詳
8	Hysenco★	250MW
9	Hero Future Energies★	不詳
10	Indian Oil★	1MW
11	Indian Oil★	50MW
12	NTPC/Purimadaka/グリーン水素ハブ★	3GW
13	Oclar Energy★	200MW
14	Reliance Industries★	不詳
15	Spray Engineering Devices★	30MW

- アーンドラ州およびオリッサ州の東海岸地帯にプロジェクトが集中し、建設が開始されたプロトタイプが多い
- 再生可能エネルギー資源が豊富なジャラート州およびラジャスタン州ではグリーン水素プロジェクト計画件数は伸びていない
- 現段階で稼働済みは#2, #5の2件

【国内情報】

2026.7.28 日経新聞、日刊工業、2026.7.27 トヨタプレスリリース、2026.7.27 FuelCellsWork

P：トヨタ、独 cellcentric に出資。拘束力ある契約締結

⇒トヨタ自動車プレスリリース <https://global.toyota.jp/newsroom/corporate/44689360.html>

トヨタ自動車は 2026 年 7 月、商用車大手の独 Daimler Truck、スウェーデン Volvo Group が出資する合弁会社 cellcentric に対し、対等な持ち分比率でトヨタも出資することに合意したと発表した。大型トラック向け燃料電池システムの開発や生産で協業する。cellcentric は Daimler と Volvo の燃料電池の開発・生産を統合するために 2021 年に設立された。トヨタは今回出資することで、cellcentric の技術を生かし、開発や生産などを一体的に運営する。3 社は 2026 年 3 月末、協業に向けた基本合意書を締結したと発表していた。当時は法的拘束力のない合意だったが、今回の合意で拘束力を有する出資契約の締結に至った。今後の取引完了には規制当局の承認が必要となる。出資額は非公表。

cellcentric は 2021 年設立、従業員 560 名超・特許約 700 件を持つ独立企業として、Daimler・

Volvo・トヨタ以外の顧客（バス・定置発電・鉄道・重機等）向けにも重量車両向け燃料電池システムの供給を継続する。次世代スタック「BZA375」は連続出力最大 375kW、重量 500kg 未満、寿命約 2 万 5,000 時間を目標とし、3 社は水素サプライチェーン全体の整備でも協調する方針。

Daimler Truck, Volvo Group and Toyota Motor Corporation Sign Binding Agreement for Toyota to Join Cellcentric as Equal Shareholder

⇒Volvo Group プレスリリース <https://www.volvogroup.com/en/news-and-media/news/2026/jul/toyota-motor-corporation--volvo-group-and-daimler-truck-have-signed-binding-agreement-for-toyota-to-join-cellcentric-as-equal-shareholder.html>

⇒cellcentric 技術情報 <https://www.cellcentric.net/en-us/en-us/technology>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/27/fuel-cells/daimler-truck-volvo-group-and-toyota-motor-corporation-sign-binding-agreement-for-toyota-to-join-cellcentric-as-equal-shareholder>

2026.8.3 化学工業日報、田中貴金属プレスリリース

P：田中貴金属、量子水素エネルギーを研究するクリーンプラネットへ出資

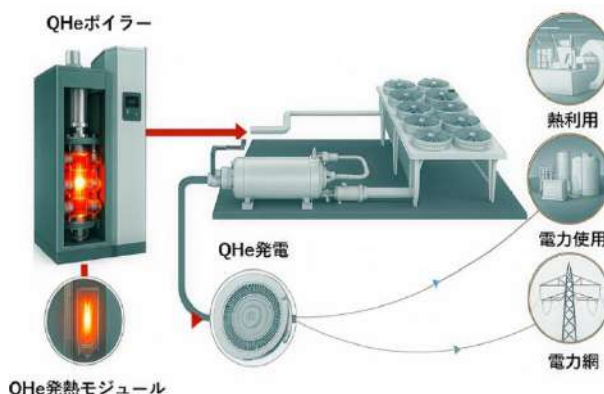
⇒田中貴金属プレスリリース https://tanaka-preciousmetals.com/jp/news/press_release/20260730-1.html?_gl=1*pu0p2r*_gcl_au*NzQ3NTA5NTQzLjE3ODU3NDMyNzE.*_ga*Mzc5NTAwNDgzLjE3ODU3NDMyNzE.*_ga_RF4FSW8S33*cze3ODU3NDMyNzAkczEkZzEkdDE3ODU3NDMyNzMkaiU3JGwwJGgw

⇒クリーンプラネット HP <https://www.cleanplanet.co.jp/ja/>

「田中貴金属は、ナノ金属材料を用いる次世代エネルギー技術である量子水素エネルギー（QHe）を研究開発するクリーンプラネット（本社：東京）へ出資した。クリーンプラネットの「QHe」技術に田中貴金属の貴金属材料開発技術を連携させることを視野に入れた支援で、将来的な技術開発や材料技術への応用につながる可能性のある知見の獲得を目指す。

量子水素エネルギー（QHe）は水素の量子拡散を利用した発熱技術で、ニッケルベースのナノ複合金属材料に吸蔵させた少量の水素を加熱することにより、水素が量子拡散し発熱反応を起こす。この反応のエネルギー密度はメタンや水素の燃焼などよりはるかに高いことから、次世代のクリーンエネルギー技術として注目されている。クリーンプラネットは、QHeを利用した熱発生方法の基本特許や、反応制御、ナノ複合金属材料の製造、熱利用アプリケーションなどの関連技術について特許を保有し、商業向けに開発・導入・量産する事業を展開している。

今後は、田中貴金属の表面処理技術や分析・評価技術などの知見も活用しながら両社でシナジー創出を図り、技術の性能や信頼性向上と、新たな製品・サービスの創出の可能性を探っていく。」（化学工業日報）



2026.7.30 NEDO プレスリリース

P：NEDO、「水素社会モデル構築高度化技術開発・実証事業」実施体制を決定

⇒NEDO プレスリリース https://www.nedo.go.jp/koubo/SE3_100001_00128.html

⇒テーマ概要 <https://www.nedo.go.jp/content/800059312.pdf>

NEDO は、「水素社会モデル構築高度化技術開発・実証事業」の公募を実施し、12 件の実施予定先を決定しました。

1. 件名

水素社会モデル構築高度化技術開発・実証事業

2. 概要

「水素社会」実現のため、一定の地域での水素サプライチェーンを構築する、利活用モデルや事業化モデル等のモデル構築を目指します。モデル構築に当たっては、事業成立性やその地域に普及すること、また、他地域への横展開を含む水素需要の創出、新たな地域産業創出などにつながることを重視し、水素関連分野の事業化の確度を高める技術開発と水素の製造及び貯蔵・輸送・利用までを含めた実証を組み合わせ、モデル確立についての調査、必要な技術開発・実証を支援します。

〔1〕調査フェーズ（水素製造・利活用ポテンシャル調査研究）

再エネ等の地域資源を活用した水素の製造、貯蔵、運搬、利活用に係る各設備や、それをつなぐインフラネットワークの整備を通じ、地域特性に応じて様々な需給を組み合わせた一定地域でのサプライチェーンのモデルについて、将来の事業性、経済性等の検証や、機器開発等につながる定量的なデータ取得などの調査・研究を行います。

〔2〕技術開発・実証フェーズ（水素社会モデル高度化技術開発）

再エネ等の地域資源を活用した水素の製造、貯蔵、運搬、利活用の各分野において、機器・設備の効率化、低コスト化、大規模化等のための技術開発や、事業性、経済性を確保するための工夫等を行

い、地域特性などに応じた様々な水素の需給とそれらを組み合わせることで、より社会実装に近いレベルで、事業成立性を確保できる一定地域でのサプライチェーンのモデル構築に向けた技術開発・実証を行います。

3. 実施予定先とテーマ

「水素社会モデル構築高度化技術開発・実証事業」

実施予定先一覧

〔1〕 調査フェーズ（水素製造・利活用ポテンシャル調査研究）

テーマ名	実施予定先
内陸地における工場の脱炭素化に向けた水素利活用モデルに関する調査	株式会社神戸製鋼所
駿河湾での粉体水素キャリアを活用した水上交通向け地域水素利活用モデル構築調査	静岡市、鈴与商事株式会社
水素化マグネシウムを活用した道内再エネ由来水素及び国産マグネシウムの一体的サプライチェーン構築に向けた調査	株式会社H2ほっかいどう、札幌市、千代田化工建設株式会社、T I S I 株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社トクヤマ、株式会社ドーコン、株式会社みずほ銀行
滋賀県米原市における地域産業と連携した水素製造・利活用に関する調査	関西電力株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社名城ナノカーボン
内陸部における商用車水素ステーション向けオンサイト水素製造・利活用ビジネスモデルの実現可能性調査	株式会社アイシン、ENEOS株式会社
三笠地域内における未利用石炭・バイオマス資源を活用した水素等サプライチェーンモデル構築に関する調査	エア・ウォーター北海道株式会社、三笠市、国立大学法人室蘭工業大学
富山県における廃棄物発電の余剰電力を活用した水素製造・利活用に向けた調査	北陸株式会社、株式会社アイザック、関西電力株式会社、住友電気工業株式会社
「みどりの森環境センター」の副生電力を活用したグリーン水素・アンモニア地産地消型サプライチェーン構築の実現可能性調査	株式会社タカフジ、大分市、大分県

〔2〕 技術開発・実証フェーズ（水素社会モデル高度化技術開発）

テーマ名	実施予定先
熱エネルギー消費が主体の工場の脱炭素化に向けた燃焼式工業炉での水素利活用の高度化	株式会社神戸製鋼所
ENEOS WOVEN CITY 水素ステーションを活用した水素供給システムの開発	ENEOS株式会社
鉄道による水素輸送の供給管理・環境価値管理システム開発	関西電力株式会社、N T T アノードエナジー株式会社、川崎重工業株式会社、パナソニックエレクトリックワークス株式会社、株式会社神戸製鋼所
豊富町未利用天然ガスを活用したDMR水素製造技術の高度化とCO2フリー水素サプライチェーンの確立	エア・ウォーター株式会社、戸田工業株式会社

【海外情報】

2026.7.23 FuelCellsWork、Daimler Trucks プレスリリース

P：独 Mercedes-Benz、建設用 BEV 電動トラック「eArocs 400」の受注開始

独 Mercedes-Benz Trucks（商用車製造）は 2026 年 4 月から欧州 13 市場で、建設用 BEV 電動トラック「eArocs 400」の受注を始めた。2026 年第 3 四半期にヴェルト工場（独）で量産を始める。207kWh の LFP 電池 2 基（計 414kWh）で連続出力 380kW・最大 450kW を出す。航続距離はミキサー約 200km、ダンプ約 240km、車両総重量 37/44t の 2 仕様で、8×4/4 など 4 種のホイールベースを設定する。最大 400kW の CCS2 充電で 10→80%を約 46 分とし、従来ディーゼル比でエネルギー効率を 50%以上高めた。

Mercedes-Benz eArocs 400: Battery Electric Construction Truck Available to Order Starting in April

⇒Daimler Trucks プレスリリース

<https://www.daimlertruck.com/en/newsroom/pressrelease/mercedes-benz-earocs-400-battery-electric-construction-truck-available-to-order-starting-in-april-53416423>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworld.com/2026/07/22/electric/mercedes-benz-earocs-400-battery-electric-construction-truck-available-to-order-starting-in-april>



2026.7.23 FuelCellsWork、MAHLE プレスリリース

P：独 MAHLE、「IAA Transportation 2026」で大型 BEV 向け 130kW レンジエクステンダーを世界初公開

独 MAHLE（自動車部品開発）は 2026 年 9 月 15～20 日開催の「IAA Transportation 2026」で、大型 BEV 電動トラック向け第 2 世代レンジエクステンダーを世界初公開する。エンジン駆動の高電圧発電機は出力 110/130kW、出力密度 7kW/kg 超で電池の約 3 分の 1 を置き換え、車軸で約 400kg、車両全体で約 600kg 軽量化し、電池 400km とレンジエクステンダー 400km で航続距離 800km 超を狙う。エンジン・熱管理・燃料タンク・排気処理を一体化し、バイオ燃料 HVO100 にも対応する。2026～2029 年に 35 超の車台へ展開する。

MAHLE Accelerates Electrification of Road Transport Sector

⇒MAHLE プレスリリース <https://www.mahle-powertrain.com/en/news-and-press/press-releases/mahle-accelerates-electrification-of-road-transport-sector-112576>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/22/electric/mahle-accelerates-electrification-of-road-transport-sector>



2026.7.24 FuelCellsWork、

N : 印 JK Cement、2027 年 3 月までにセメント輸送に 55 トン BEV 電動トラックを 150 台超導入
印 JK Cement（セメント製造）は Billion Electric Mobility（電動商用車フリート運営・eMaaS）と提携し、カルナータカ州ムッダプール工場を起点に重量 55t 級 BEV 電動トラックを導入した。第 1 弾として 20 台が稼働し、カルナータカ州、マハラシュトラ州、ゴア州のストックヤードへセメントを輸送する。2027 年 3 月までに 150 台超へ拡大する計画である。導入車両は Montra Electric 製

「Rhino 5538」で、280kW モーターと 282kWh リン酸鉄リチウム（LFP）電池を搭載する。航続距離は 4×2 仕様 198km、6×4 仕様 169km、充電時間は 20～100%で約 1 時間。ChargeZone（EV 充電事業）はカルナータカ州、マハラシュトラ州、ゴア州の沿線に充電網を整備する。



JK Cement Begins Rollout of More Than 150 Electric Trucks for Regional Cement Logistics

⇒ <https://www.renewableobserver.com/billion-electric-mobility-partners-with-jk-cement-to-deploy-150-heavy-duty-electric-trucks-3>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/23/electric/jk-cement-begins-rollout-of-more-than-150-electric-trucks-for-regional-cement-logistics>

2026.7.24 FuelCellsWork、MTU Aero Engines プレスリリース

P：独 MTU Aero Engines、水素燃料電池航空推進システムの燃料系システム試験を終了

独 MTU Aero Engines（航空エンジン大手）は、水素燃料電池航空推進システム「Flying Fuel Cell（FFC）」の開発で、液体水素供給系、気体水素供給系、空気供給系の試験を完了した。現在、350kW 級燃料電池スタックとシステム実証機の製作を進めており、2026 年中にミュンヘンで飛行条件を模擬した統合試験を開始する。欧州 HEROPS（Hydrogen-Electric Zero Emission Propulsion System）では、1.8MW 級システムを開発し、2～4MW 級への拡張性を実証するとともに、2035 年以降の地域航空機向け実用化を目指している。

Flying Fuel Cell: MTU Aero Engines Achieves Important Milestones

⇒MTU Aero Engines プレスリリース [https://www.mtu.de/newsroom/press/latest-press-](https://www.mtu.de/newsroom/press/latest-press-releases/press-release-detail/flying-fuel-cell-mtu-aero-engines-achieves-important-milestones/)

[releases/press-release-detail/flying-fuel-cell-mtu-aero-engines-achieves-important-milestones/](https://www.mtu.de/newsroom/press/latest-press-releases/press-release-detail/flying-fuel-cell-mtu-aero-engines-achieves-important-milestones/)

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/fuel-cells/flying-fuel-cell-mtu-aero-engines-achieves-important-milestones>



2026.7.24 FuelCellsWork、Amazon プレスリリース

P：米 Amazon、映画撮影現場で水素発電ユニット 3 基による電力供給を実施

米 Amazon MGM Studios（映像制作）は 2025 年春、ロンドン郊外の映画撮影拠点で、GeoPura（可搬型水素電源開発：Ballard 傘下）製水素発電ユニット（HPU）3 基を実運用した。水素発電ユニットは 100kW 燃料電池（Ballard 製）と 250kWh 電池を組み合わせ、ベースキャンプの電力とケータリング、出演者移動用 BEV の急速充電に用いた。

By the Power of Hydrogen: How Clean Tech Powered the 'Masters of the Universe' Set

⇒Amazon プレスリリース [https://sustainability.aboutamazon.com/stories/by-the-power-of-](https://sustainability.aboutamazon.com/stories/by-the-power-of-hydrogen-how-clean-tech-powered-the-masters-of)
[hydrogen-how-clean-tech-powered-the-masters-of](https://sustainability.aboutamazon.com/stories/by-the-power-of-hydrogen-how-clean-tech-powered-the-masters-of)

⇒GeoPura HPU 仕様 <https://www.geopura.com/products/hydrogen-powered-generators/hpu/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/energy-innovation/by-the-power-of-hydrogen-how-clean-tech-powered-the-masters-of-the-universe-set>



2026.7.24 FuelCellsWork、

N：韓国現代自動車グループ、2033 年開業の港湾アクセス鉄道に水素燃料電池列車導入を計画

韓国 現代自動車グループと韓国政府は、2026 年から約 9 兆ウォンを投資する「セマングム開発計画」の一環として、2033 年開業予定の群山・大野駅（Daeya）～セマングム新港間 48.3km の港湾アクセス鉄道に、水素燃料電池列車を導入する計画を検討している。車両は韓国 Hyundai Rotem（鉄道車両メーカー）が製造する見通しで、最高速度は 150～170km/h を計画するが、車両数、正式契約、事業費は未公表である。計画は、である。計画には、グリーン水素製造設備も含まれる。水電解設備は初期容量 200MW で、将来的に 1GW へ拡張する構想があり、水素製造能力は約 80t/日を計画する。太陽光発電設備には約 1.3 兆ウォン（1,430 億円）、水素製造設備には約 1 兆ウォン（1,100 億円）を投資し、水素燃料電池列車、燃料電池バス・トラック、水素パイプライン、AI データセンター向け燃料電池発電を組み合わせた水素都市の構築を目指す。



Hyundai Hydrogen Train Planned for Saemangeum Rail Link From 2033

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/clean-energy/hyundai-hydrogen-train-planned-for-saemangeum-rail-link-from-2033>

2026.7.24 FuelCellsWork、Genevos プレスリリース

P：英 Genevos、蘭 Koedood と船舶用水素燃料電池システム開発で提携

英 Genevos（船舶用燃料電池開発）と蘭 Koedood Marine Group（船舶推進システム）は、内航船・沿岸船向け水素燃料電池推進システムの共同開発・商用化に関する基本合意書（LOI）を締結した。

Koedood が保有する舶用水素技術と、Genevos の実用化済み燃料電池システム（小型船向け 30～200kW の「HPM-40」や 250kW の「HPM-250」をラインナップ）を組み合わせ、船主・造船所向けに実用性と拡張性を備えたゼロエミッション推進システムの展開可能性を共同で検討する。Koedood は、三菱重工業および蘭 TNO（応用科学研究機構）と水素エンジン開発を進めており、今回の協業では、その知見を生かして船舶向け燃料電池システムの適用を検証する。



Genevos and Koedood Marine Group Sign LOI to Collaborate on Maritime Hydrogen Fuel Cell Deployment

⇒Genevos プレスリリース <https://dtfconference.com/news/genevos-koedood-hydrogen-fuel-cells-inland-coastal-vessels>

⇒Genevos HPM 仕様 <https://www.genevos.com/marine-fuel-cell>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/fuel-cells/genevos-and-koedood-marine-group-sign-loi-to-collaborate-on-maritime-hydrogen-fuel-cell-deployment>

2026.7.24 FuelCellsWork、

N：デンマーク DSV、米テキサス～メキシコ間に BEV トラック 10 台導入

デンマーク DSV（物流大手）は、米 Allogic（物流事業者）、米 Greenspace E-Mobility（EV 充電インフラ開発）と提携し、テキサス州ダラス～サンアントニオ～ラレド間の州間高速道路「Interstate 35」で、中国 Windrose Technology（葦渡科技：大型電気トラックメーカー）のクラス 8 大型 BEV 電動トラック「E700」を 10 台を導入する。車両は 705kWh のリン酸鉄リチウム（LFP）電池を搭載し、航続距離は 400 マイル（約 644km）超、最大充電能力は約 870kW である。



DSV Backs 10-Truck Electric Freight Deployment on Texas–Mexico Corridor

⇒ <https://www.hylios.com/intelligence/dsv-orders-10-electric-trucks-for-us-mexico-freight-routes>

⇒ <https://www.electrivate.com/2026/07/23/dsv-orders-10-windrose-electric-trucks-for-us-mexico-freight/>

⇒参考（Windrose Technology（葦渡科技） <https://36kr.jp/458937/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/23/electric/dsv-backs-10-truck-electric-freight-deployment-on-texas-mexico-corridor>

2026.7.24 FuelCellsWork、ドイツ鉄道プレスリリース

P：独バイエルン州、Siemens 製水素燃料電池列車 3 編成を 2026 年 12 月に本格投入

独 Südostbayernbahn（鉄道運行）は Siemens Mobility 製の水素燃料電池列車「Mireo Plus H」3 編成を非電化路線ミュールドルフ～ブルクハウゼン間（約 25km）へ投入し、2026 年 8 月 10 日～9 月 6 日に試験・訓練運転を実施したうえで、12 月のダイヤ改正から時刻表に沿う本格運行を開始する。地産のグリーン水素（バイエルン化学産業地区）を利用する。列車は 2 両編成で、Ballard 製 200kW 級燃料電池モジュール 2 基を搭載する。



Hydrogen-Powered Passenger Train Enters Regular Commercial Service

⇒ドイツ鉄道プレスリリース（独語） <https://www.deutschebahn.com/de/presse/presse-regional/pr-muenchen-de/aktuell/presseinformationen/Aktuell-im-Testbetrieb-ab-Dezember-voll-im-Einsatz-Suedostbayernbahn-und-Siemens-praesentieren-neuen-Wasserstoffzug--13979284>

⇒Ballard モジュール発表 <https://www.prnewswire.com/news-releases/ballard-receives-order-for-fuel-cell-modules-to-power-trial-operation-of-siemens-mireo-plus-h-train-301334573.html>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/18/fuel-cells/wallbox-and-turning-point-energy-surpass-10-000-ev-chargers-deployed-across-saudi-arabia-r84723391>

2026.7.24 FuelCellsWork、

N：スウェーデン Scania と MaserFrakt、水素燃料電池除雪車の実運用試験を開始

スウェーデン Scania（商用車製造）と MaserFrakt（輸送・建設、トラック 600 台超・建機 500 台超を保有）は、ボーレンゲ地域の除雪・道路保守作業に水素燃料電池トラックを投入する実証試験を開始した。重量除雪は走行抵抗や油圧・暖房需要が大きく変動シフトも伴う高負荷運転であるため、航続距離・連続運転・給油・信頼性・運用費を検証する



Hydrogen Truck Begins Real-World Testing in Demanding Agricultural Operations

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/22/fuel-cells/scania-and-maserfrakt-put-hydrogen-snowplough-truck-into-real-world-swedish-trial>

2026.7.24 FuelCellsWork、デラウェア大学プレスリリース

P：米デラウェア大学、PEM 触媒コーティング膜からイリジウム・白金を回収する技術を開発

米デラウェア大学は、PEM 電解槽・燃料電池の使用済み触媒コーティング膜（CCM）からイリジウムと白金を分離回収する「スプレージェット法」を開発した。イソプロピルアルコールと水の混合液を噴射して触媒層と膜を分離する非破壊・無害の手法。従来の強酸処理や焼却と異なり有毒廃棄物を出さず、PFAS 系の膜（スタック費用の 20～30%を占める）も再利用可能な状態で回収できる。成果は International Journal of Hydrogen Energy に掲載された。

Cleaning up Hydrogen Energy

⇒デラウェア大学プレスリリース <https://www.udel.edu/udaily/2026/july/green-recycling-hydrogen-energy-materials/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/energy-innovation/cleaning-up-hydrogen-energy>

2026.7.27 FuelCellsWork、

N：独 RB12、RB12 線を走行する燃料電池列車がディーゼル運行に回帰

独 Rhein-Main-Verkehrsverbund（RMV：ライン・マイン地域公共交通連合）は、タウヌス地域の RB12（ケーニヒシュタイン～フランクフルト）線で運行していた水素燃料電池列車を、2026 年 6 月からディーゼル車両へ切り替えた。水素燃料電池列車は RB15 線（タウヌス鉄道：バート・ホンブルク～ブラントオーバーンドルフ）へ集中配備されるが、2022 年末の営業運転開始以来、車両稼働率や燃料補給、保守面で問題が続いている。RMV は運行の安定化を表明しているものの、遅延、運休、混雑、短編成化などに対する利用者の不満は続いている。Alstom（鉄道車両メーカー）は、現行世代の燃料電池は期待した信頼性に達していないことを認め、2026 年中に全車両へ新世代燃料電池を搭載する計画である。

RB12 Returns to Diesel Trains as Hydrogen Rail Reliability Questions Continue in Germany

⇒ <https://blackout-news.de/en/news/hydrogen-train-breakdowns-in-the-taunus-rb12-running-on-diesel-again/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/26/fuel-cells/rb12-returns-to-diesel-trains-as-hydrogen-rail-reliability-questions-continue-in-germany>



2026.7.28 FuelCellsWork、

N：蘭 GL de Haan、MAN 水素エンジントラックを重量輸送に導入

蘭 GL de Haan（特殊重量物輸送）は、独 MAN Truck & Bus（商用車製造）の水素内燃エンジントラック「hTGX」を 1 台導入し、機械移設、建設、鉄道、規格外重量物の輸送へ投入する。水素内燃エンジン「H45」は、16.8L 直列 6 気筒で出力 383kW

（520hp）、最大トルク 2,500Nm（900～1,300rpm）、6×2・6×4 仕様を選べる。航続距離は最大約 600km、水素充填は約 10～15 分。MAN Truck & Bus はオランダ、ドイツ、ノルウェー、アイスランドなど向けに水素内燃エンジントラック「hTGX」約 200 台を少量生産する計画。



Hydrogen Combustion Truck Enters Heavy and Specialised Transport Service

⇒参考 <https://www.man.eu/uk/en/about-us/experience-man/truckers-world/stories/a-truck-for-special-occasions-162368.html>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/22/clean-energy/gl-de-haan-deploys-hydrogen-combustion-man-htgx-for-heavy-and-special-transport>

2026.7.29 FuelCellsWork、Bosch プレスリリース

P：独 Bosch、スペイン Alsa の協力を得て、190kW 燃料電池システムをマドリードのバスで実証

独 Bosch（自動車部品大手）は、自社製燃料電池パワーモジュール「FCPM C190」を搭載したスペイン Irizar（バス・鉄道車両メーカー）製燃料電池バスによる実証運行を、スペイン Alsa（バス運行会社）の協力を得てマドリード市内で開始した。Bosch の燃料電池パワーモジュール「FCPM C190」は 2 基の燃料電池スタックを水平配置した出力 190kW のシステムで、水素充填時間は 10～15 分、航続距離は 1,000km 超。市内路線だけでなく都市間路線にも対応する。実証試験では長距離運行路線で耐久性と実運用性能を検証する。Bosch は 190kW「FCPM C190」のほか、100kW「FCPM C100」（都市バス向け）と 300kW「FCPM C300」（大型観光バス・大型トラック向け）の 3 種類の燃料電池パワーモジュールを展開している。



Hydrogen: New Bosch Fuel-Cell System Begins Test Operations in Madrid

⇒Bosch プレスリリース <https://www.bosch-presse.de/pressportal/de/en/hydrogen-new-bosch-fuel-cell-system-begins-test-operations-in-madrid-284032.html>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/fuel-cells/hydrogen-new-bosch-fuel-cell-system-begins-test-operations-in-madrid>

2026.7.29 FuelCellsWork、

N：韓国 KORAIL、2028 年に 1.2MW 水素燃料電池列車の営業運転を開始

韓国 KORAIL（韓国鉄道公社）と韓国鉄道技術研究院（KRRI：Korea Railroad Research Institute）は、総額 321 億ウォン（約 35 億円）を投じ、水素燃料電池列車の実証事業を 2027 年まで実施し、2028 年の営業運転開始を目指す。実証車は 2 両編成で、出力 1.2MW 燃料電池システムを搭載し、最高速度 150km/h（設計最高速度 165km/h）、航続距離は 600km 以上。候補路線は京元線（ヨンチョン～ペンマゴジ：21km）と教外線（テゴク～ウィジョンブ：30.3km）で、約 7 万 km の走行試験を実施する。ヨンチョン駅に水素充填ステーション（160kg/h×3 基、1,300kg/日）を整備する。一方、KRRI は液体水素機関車向け車載一体型液体水素供給システムを開発した。95kW 級燃料電池 4 基（合計 380kW）へ水素を供給する。700bar 圧縮水素方式に比べ航続距離を 1.6 倍、充填時間を 20%短縮する。



600 Km on One Fill: Korea's Hydrogen Train Era Accelerates — and a Liquid Hydrogen Locomotive Just Doubled the Range Target

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/27/fuel-cells/600-km-on-one-fill-korea-s-hydrogen-train-era-accelerates-and-a-liquid-hydrogen-locomotive-just-doubled-the-range-target>

2026.7.29 FuelCellsWork、Hyroad Energy プレスリリース

P：米 Hyroad Energy、南カリフォルニアに液化水素モバイル水素ステーションを開設

米 Hyroad Energy（水素商用車ソリューション）は、Taylor-Wharton（極低温・水素機器メーカー：Air Water America 傘下）および Tom's Truck Center（大型トラック販売・整備）と共同で、カリフォルニア州サンタフェスプリングスに液体水素モバイル水素ステーションを開設した。設備は液体水素タンク（1,000kg）、液体水素ポンプ、ディスペンサー、安全制御設備を一体化した移動式ユニットで、恒久型ステーション建設まで暫定インフラとして運用される。稼働開始後最初の 1 週間で 45 件の充填を実施し、充填時間は 25 分未満とディーゼルトラック並みの運用性能を示した。この水素ステーションは、Hyroad がカリフォルニア州とテキサス州で整備を進める水素供給網の一部であり、Hyroad はモバイル水素ステーションで早期に供給能力を確保しつつ、大型商用車向け定置型水素ステーションへ段階的に移行する方針である。



Hyroad Energy Deploys Hydrogen Refueling Station, Enabling Fuel Access for Southern California Trucking Fleets

⇒Hyroad Energy プレスリリース <https://www.hyroadenergy.com/post/hyroad-energy-deploys-hydrogen-refueling-station-enabling-fuel-access-for-southern-california-truck>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/fuel-cells/hyroad-energy-deploys-hydrogen-refueling-station-enabling-fuel-access-for-southern-california-trucking-fleets>

2026.7.29 FuelCellsWork、Bloom Energy プレスリリース

P：米 Bloom Energy の 2026 年第 2 四半期決算、売上高は過去最高の 10 億 6,540 万ドル

米 Bloom Energy (SOFC・SOEC メーカー) は、2026 年第 2 四半期決算を発表した。売上高は 10 億 6,540 万ドル (1,704 億 64 百万円) で前年同期比 165.5%増となり、四半期売上高として初めて 10 億ドル (1,600 億円) を突破した。製品売上高は 9 億 3,540 万ドル (1,496 億 64 百万円) で 215.4%増、売上総利益率は 33.4%、営業利益は 1 億 8,220 万ドル (291 億 52 百万円)。AI データセンター向け電源需要の拡大が業績を押し上げた。Bloom Energy は、2026 年通期売上高見通しを 39 億～42 億ドル (6,240 億円～6,720 億円) へ上方修正した。

Bloom Energy Reports Record Second Quarter 2026 Financial Results and Raises Full Year 2026 Guidance

⇒Bloom Energy プレスリリース

<https://www.businesswire.com/news/home/20260728460825/en/Bloom-Energy-Reports-Record-Second-Quarter-2026-Financial-Results-and-Raises-Full-Year-2026-Guidance>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/electrolyzer/bloom-energy-reports-record-second-quarter-2026-financial-results-and-raises-full-year-2026-guidance>

Summary of GAAP Financial Information

(\$000), except EPS data	Q2'26		Q1'26		Q2'25	
Revenue	\$	1,065,365	\$	751,054	\$	401,242
Cost of Revenue		709,793		525,510		294,119
Gross Profit		355,572		225,544		107,123
Gross Margin		33.4%		30.0%		26.7%
Operating Expenses		173,335		153,354		110,626
Operating Income (Loss)		182,237		72,190		(3,503)
Operating Margin		17.1%		9.6%		(0.9)%
Non-operating (Income) Expenses		(14,053)		1,537		39,116
Net Profit (Loss) to Common Stockholders	\$	196,290	\$	70,653	\$	(42,619)
GAAP EPS, Basic	\$	0.68	\$	0.25	\$	(0.18)
GAAP EPS, Diluted	\$	0.62	\$	0.23	\$	(0.18)

2026.7.29 FuelCellsWork、Woodside Energy プレスリリース

P：豪 Woodside、2.6MW オンサイト水素製造・充填ステーションを 2026 年下半期に稼働

豪 Woodside Energy (石油・ガス大手) は、西オーストラリア州ロッキンガム (Rockingham) に建設中の小規模なオンサイト水素製造・貯蔵・充填ステーション「Hydrogen Refueller @H2Perth」について、漏えい試験とコールドコミッショニング (Cold Commissioning) を完了した。2026 年第 3

四半期の運転開始、2026 年下半期の水素製造開始を目指す。設備は 2.6MW 水電解装置を採用し、水素製造能力は 235kg/日で、将来的に 1,000kg/日へ拡張可能である。BGC（建設資材）および Centurion（物流）と連携し、重量車、乗用車、チューブトレーラー向けに水素を供給する。BGC は 5~10 台の水素コンクリートミキサー車、Centurion は 2 台の水素トラクターヘッド導入を計画している。一方、Woodside の水素事業は見直しも進めており、米オクラホマ州の 60t/日グリーン水素計画は中止した。また、H2Perth 輸出プロジェクトは 2026 年 5 月に液体水素専用へ計画変更が承認され、シンガポール Keppel（インフラ・不動産大手）と 2030 年以降のデータセンター向け液体水素供給に関する条件付きオフテイク契約を締結している。

Woodside's Small, Honest Hydrogen Bet: Perth Refueller Nears Startup as Bigger US Projects Falter

⇒Woodside Energy プレスリリース https://www.woodside.com/docs/default-source/investor-documents/quarterly-and-half-yearly-pdfs-and-data-tables/2026/second-quarter-2026-report.pdf?sfvrsn=d05389b7_8

⇒西豪州政府プレスリリース <https://www.wa.gov.au/government/media-statements/McGowan-Labor-Government/%2410-million-to-fuel-new-renewable-hydrogen-transport-project-20220817>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/green-investment/woodside-s-small-honest-hydrogen-bet-perth-refueller-nears-startup-as-bigger-us-projects-falter>



2026.7.30 FuelCellsWork、

N：ブラジル Convergas、水素貯蔵システム事業に参入を計画

ブラジル **Convergas**（代替燃料システムメーカー）は、天然ガス・バイオメタン車向けシステム事業を基盤に、水素貯蔵システム市場へ参入する方針を明らかにした。**Convergas** は、Scania、Volkswagen、Mercedes-Benz、Iveco 向けに **200bar** 天然ガス貯蔵システムを OEM 供給するほか、ディーゼル車を天然ガス・バイオメタンとのデュアルフューエル化する「Diesel-Gas」システムを展開する。**Convergas** は、天然ガス・バイオメタン車向けシステム事業（高圧ガス貯蔵・配管・認証技術）を水素分野へ展開し、水素製造からモビリティ用途まで対応するシステムプロバイダーを目指す。

Convergas Expands Into Hydrogen Systems After Gas Truck Growth

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/h2/convergas-expands-into-hydrogen-systems-after-gas-truck-growth>



2026.7.30 FuelCellsWork、プレスリリース

N：韓国：2026年6月末の自動車登録台数、BEVが109.5万台、水素燃料電池車は4.8万台
韓国国土交通部によると、2026年6月末の自動車登録台数は2,667.6万台で、うち環境配慮型車は395.3万台（45.9万台・13.1%増）と全体の14.8%を占めた。BEVは1,095,218台（21.8%増）で全体の4.1%、内訳は国産車718,183台、輸入車377,035台。水素燃料電池車は4.8万台（6.9%増）だった。上期の新規登録85.7万台のうちBEVは19.9万台（23%）、環境配慮型車は49.4万台（57.6%）を占める一方、内燃エンジン車は29.7万台減、うちディーゼルは24.6万台減少した。

Korea Crosses One Million EVs: Registrations Up 21.8% as Diesel Sheds Nearly a Quarter-Million Cars

⇒国土交通統計データ（自動車登録台数）

<https://stat.molit.go.kr/portal/cate/statMetaView.do?hFormId=1244&hRsId=58>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/electric/korea-crosses-one-million-evs-registrations-up-21-8-percent-as-diesel-sheds-nearly-a-quarter-million-cars>

2026.7.30 FuelCellsWork、Clean Energy Fuels プレスリリース

P：米 Clean Energy、OCTA の水素ステーション建設を2,750万ドル（44億円）で受注
米 Clean Energy Fuels（代替燃料供給・水素ステーション建設）はオレンジ郡交通局（OCTA）から、カリフォルニア州ガーデングローブ車庫に整備する専用水素ステーションの設計・建設契約を2,750万ドル（44億円）で受注した。契約には、水素ステーションと関連設備の設計・建設に加え、運転・保守および液体水素の供給が含まれる。完成は2028年。オレンジ郡交通局（OCTA）は現在、水素燃料電池バス、BEV 電動バス、CNG バスを運行しており、水素燃料電池バスは10台が運行中で、水素ステーション完成までに40台を追加導入する計画である。

Clean Energy to Build New Hydrogen Station for Orange County Transportation Authority's Expanding Zero-Emission Bus Fleet

⇒Clean Energy Fuels プレスリリース <https://cleanenergyfuels.com/press-room/clean-energy-to-build-new-hydrogen-station-for-orange-county-transportation-authoritys-expanding-zero-emission-bus-fleet>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/electrolyzer/clean-energy-to-build-new-hydrogen-station-for-orange-county-transportation-authority-s-expanding-zero-emission-bus-fleet>

2026.8.3 日刊工業新聞、fleetowner

N : 米 Cummins カミンズ、新型エンジン「X15」および「X10」のフル生産を来年に後ろ倒し

⇒ <https://www.fleetowner.com/equipment/news/55394044/cummins-details-phased-rollout-for-2027-engine-line-extending-legacy-platforms>

米 Cummins（エンジン大手）は、米環境保護庁（EPA）が提案する NOx 規制の柔軟措置を活用し、2027 年モデルの新型エンジン「X15」および「X10」のフル生産の時期を後ろ倒しで、段階的に投入すると発表した。新型エンジンは環境性能を高めるとともに軽油、天然ガス、水素など複数の燃料に共通のエンジン構造で対応する「HELM プラットフォーム」を採用した。「X15」と「X10」はともに 2027 年 1 月に限定生産を開始し、「X15」は 2027 年第 4 四半期、「X10」は 2027 年第 3 四半期に本格生産へ移行する。また、中型車向け次世代 B シリーズは 2028 年 1 月に投入し、現行 B6.7 エンジンは 2027 年を通じて継続販売する。Cummins は、新型エンジンへの移行計画は EPA の最終規制内容に左右されると説明しており、規則が変更された場合は生産計画や投入時期を見直す可能性があるとしている。

【参考資料】

2026.7.27 FuelCellsWork、

A：中国の水素・燃料電池関連ニュース（2026年7月20日～7月24日）

国際氢能網（国际氢能网）が毎週まとめている中国の水素・燃料電池関連記事を、機械翻訳により紹介している。閲覧するには、FuelCellsWorksの年間購読契約が必要になる記事もある。

Fuel Cell and Hydrogen News Highlights From China: July 20-24, 2026

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/26/clean-hydrogen/fuel-cell-and-hydrogen-news-highlights-from-china-july-20-july-24-2-2026>

【新刊案内】

- * 2025 年版 中国の水電解槽開発の現状と参入メーカー動向 4
- * 2026 年版 世界の PEM 型水電解槽開発の現状と参入メーカー動向 4

【国内情報】

- P : JFE スチール、日本で初めてグリーン水素を使用した還元鉄試作に成功 5
- A : 水素・アンモニアの社会実装に向けた 当面の課題と今後の重点取組 6
- P : 京都大学、4 つのニッケル原子の協同作用で強固な炭素－水素結合を活性化 6
- P : 筑波大学：ホウ化水素シートの電極固定化技術により高効率な水素生成を実現 7
- P : 筑波大学：水素化チタンの水素放出温度を劇的に下げる鍵は「ナノサイズ化」 8
- P : 筑波大学：ホウ化水素ナノシートにおける層間水素間距離が分子状水素の生成を制御 9

【海外情報】

- P : 伊 Edison Energia、Sapio の 5MW 水電解設備に 50MW 再生可能電力を長期で供給 11
- N : 印 Advait、国富氢能から 1MW×23 基、5MW×4 基の組立キットを調達、自社工場で組み立て 11
- P : 独 Stadtwerke Düsseldorf、2MW PEM 電解槽の商業運転を開始 12
- P : ノルウェー GreenH、EU 支援を得てローガラン水素ハブに 12.5MW 水電解水素製造施設を導入 13
- P : 蘭 PosHYdon プロジェクト、北海の稼働プラットフォーム「Q13a-A」で洋上水素製造を実証 13
- N : 米 SoCalGas、Angeles Link 水素パイプライン建設計画を中止 14
- P : 韓国 LG Chem、PEM 電解用電極の寿命を 2 倍超に延伸 14
- P : 仏 RotH2、南アフリカとスペインから高圧水素ポンペを受注 15
- N : 独 Uniper、地下岩塩空洞での水素貯蔵実証で水素を初充填 15
- P : 豪 Orica、「Hunter Valley 水素ハブ」の施工管理業務を Duratec へ発注 16
- N : 韓国、主要港を水素・アンモニア拠点へ再編 17
- P : ギリシャ DESFA、570km 水素パイプライン詳細設計の入札を開始 17
- P : 豪 SolidHydrogen、台湾 Tellus Materials から PCS システムを初受注 18
- A : 米 DOE、地域水素ハブ 284 件の打切りは政治的判断、と連邦地裁提出文書で認める 18
- P : 韓現代自動車、直営資源循環型水素製造・充填拠点を開設、日量 500kg の水素製造。CO₂ も販売 19
- P : 米 USTDA、モロッコの年 56 万トンアンモニアプロジェクトの Pre-FEED を助成 20
- P : 韓現代自動車、ブラジルで南米水素ハブの構築を具体化 20
- N : 韓国・三陟市、2040 年に 4 万 m³超の液化水素輸入基地を計画 21

P : 独 Fraunhofer ISE、太陽光から水素へ 31.3%の変換効率を達成	21
N : 独 LIKAT など、ハイブリッド水電解による高効率水素製造技術を開発	22
A : 仏 Elogen、2026 年上期の電解槽売上が 10 万ユーロ。商業生産から R&D 中心へ事業を再編	22
N : 中国吉林電力、大安プラントから韓国へグリーンアンモニア 3,750t を出荷	23
P : 伊 Pietro Fiorentini など、次世代水電解装置開発プロジェクト「LEONE」を開始	24
P : 西バレンシア工科大学、マイクロ波による水分解を 400℃へ低温化	24
P : 西バレンシア工科大学、マイクロ波でメタン分解を 500℃へ低温化	25
P : ノルウェーYara、ノルウェーNEOM のグリーンアンモニアの世界販売・流通を担当	25
P : 米 Lydian、e-SAF 製造モジュール「PIVOT」の事業化で 4,300 万ドルを調達	26
A : ベトナム : 水素の可能性と、2050 年ネットゼロ目標達成へ投資を促進	27

【参考資料】

A : 中国の水素・燃料電池関連ニュース（2026 年 7 月 27 日～7 月 31 日）	28
N : マンスリーニュースレター「Fuel Cell and Hydrogen Energy Connection」2026 年 7 月号。	28
A : サラワク州の今（前編） エネルギー投資集積進む（マレーシア）	28
A : サラワク州の今（後編） エネルギー成長が産業牽引（マレーシア）	28

【備考】

＊目次のタイトル頭に記事内容を区分するための略号を付します。略号の意味は下記のとおりです。

A：新聞、雑誌記者による解説記事

N：ニュース記事（記者会見、インタビュー記事、記者による取材記事、展示会等の取材記事など）

P：プレスリリース、およびプレスリリースをもとに書かれた記事

＊燃料電池の種類を示す主な略号は以下のとおり。

PEFC（PEM）：固体高分子形燃料電池

SOFC：固体酸化物形燃料電池

DMFC：ダイレクトメタノール形燃料電池

MCFC：溶融塩形燃料電池

AFC：アルカリ形燃料電池

ALK：アルカリ形水電解

SOEC：高温水蒸気固体酸化物電解

AEM：アニオン（陰イオン）交換膜電解＊水素の分類

グリーン水素：再生可能エネルギーを利用して、水の電気分解で生成される水素。

ターコイズ水素：メタン熱分解により生成される水素で、固体炭素を副生する。

ブルー水素：主に天然ガスの水蒸気改質＋CO₂回収・貯蔵プロセス（CCS）で製造される水素。

グレー水素：主に天然ガスの水蒸気改質により製造される水素。副生する CO₂ は大気に放出される。

＊為替レート換算（2026年7月～12月）

ドル 160 円（豪ドル、カナダドル、香港ドルなどの表示がない場合は 156 円を採用）

ユーロ 185 円

ポンド 216 円

元 24 円

ウォン 0.11 円

＊燃料電池・水素エネルギー情報提供サイトの紹介

Sustainable-bus <https://www.sustainable-bus.com/>

FuelCellBus <https://www.fuelcellbuses.eu/>

Hydrogen-central <https://hydrogen-central.com/>

H2bulletin <https://www.h2bulletin.com/category/hydrogen-applications/>

H2-international <https://www.h2-international.com/>

Renewablesnow <https://renewablesnow.com/>

Hydrogenfuelnews <https://www.hydrogenfuelnews.com/>

【新刊案内】

*2025 年版 中国の水電解槽開発の現状と参入メーカー動向

- ◆発刊：2024 年 11 月 8 日
- ◆体裁：PDF 版／ダウンロード版 A4 判 368 ページ+エクセルデータ
- ◆価格：CD-ROM 版・ダウンロード版（本体価格 220,000 円+消費税）

◆本資料の特色 ⇒ <https://digital-research.co.jp/3329/>

2024 年 11 月に刊行する「中国の水電解槽開発の現状と参入メーカー動向」、中国の水電解槽開発メーカー134 社を個票ベースでまとめた。調査内容はサンプル掲載した形式で 134 社を収載している。中国で開発が進んでいる「AEM 電解」と「海水直接電解」に参入する企業と開発概況もまとめた。

*2026 年版 世界の PEM 型水電解槽開発の現状と参入メーカー動向

- ◆発刊：2026 年 6 月 26 日（ダウンロード版は 7 月 10 日）
- ◆体裁：A4 版 264 ページ（PDF）+エクセルファイル
 - ① 2026 年版 PEM 水電解槽_世界設置実績 2021-2025_v6.xlsx
 - ② 2026 年版 PEM 水電解槽_世界受注実績 2021-2025_v8.xlsx
- ◆価格：CD-ROM 版／ダウンロード版（本体価格 330,000 円+税込価格 363,000 円）

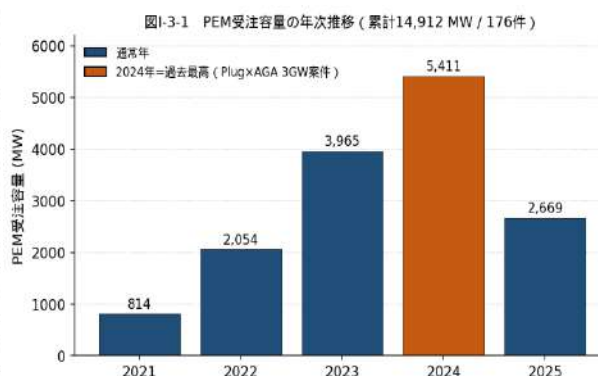
◆本資料の特色 ⇒ <https://digital-research.co.jp/4044/>

世界の主要 PEM 型水電解槽メーカー41 社+関連部材メーカー28 社（計 69 社）を対象とした網羅的調査を実施（2025 年 4 月～2026 年 5 月の最新データ）

- 設置実績・受注実績・年間生産能力の 3 指標を統一フォーマットで個票化
- 受注 14.9GW vs 稼働 0.72GW の構造的ギャップを分析
- 海外生産動向の最新進展を地域別に整理
- PEM 部材 4 階層（膜・触媒/CCM/MEA・GDL/PTL・アイオノマー）の主要 29 社を調査

表 I-2-4 PEM メーカー別設置容量年次推移（単位：MW、全期間累計）

順位	メーカー	～2020	2021	2022	2023	2024	2025	累計	シェア
1	ITM Power ^①	1.2	13.0	3.9	2.0	27.4	124.0	171.3	20.6%
2	Siemens Energy ^②	12.0	3.8	12.5	0.0	20.0	118.5	164.8	19.8%
3	Plug Power ^③	27.8	14.9	15.0	7.0	55.0	62.5	182.2	21.9%
4	Elbogen ^④	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	11.0	1.3%
5	Cummins（事業撤退表明） ^⑤	4.0	25.0	2.5	27.5	19.0	10.0	88.0	10.6%
6	FEST ^⑥	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	7.5	13.5	1.6%
7	カナデリア ^⑦	1.5	0.0	0.0	1.0	0.0	6.0	8.5	1.0%
8	Ohmium ^⑧	0.0	0.0	0.0	0.006	0.0	6.0	6.0	0.7%
9	Nel ^⑨	0.0	1.1	20.0	1.0	0.0	2.7	24.8	3.0%
10	Quest One（旧 H TEC） ^⑩	2.4	0.0	0.0	3.0	1.0	2.0	8.4	1.0%
11	H2B2 ^⑪	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	7.5	0.9%
—	その他 14 社 ^⑫	—	—	—	—	—	—	14.2	1.7%
—	不詳（中国 OEM 等） ^⑬	59.9	1.5	6.9	7.0	18.3	37.3	131.0	15.8%
—	合計 ^⑭	108.8	61.8	63.8	59.9	150.5	386.5	831.4	100.0%



【国内情報】

2026.7.31 NEDO プレスリリース、JFE スチールプレスリリース

P：JFE スチール、日本で初めてグリーン水素を使用した還元鉄試作に成功

⇒NEDO プレスリリースプレスリリース https://www.nedo.go.jp/news/press/AA5_101957.html

⇒JFE スチール <https://www.jfe-steel.co.jp/release/2026/07/260731.html>

JFE スチールは、NEDO「製鉄プロセスにおける水素活用」プロジェクトの「水素だけで低品位の鉄鉱石を還元する直接水素還元技術の開発／直接水素還元技術の開発」において、日本で初めてグリーン水素を用いた還元鉄の試作に成功した。この試作は、山梨県企業局が建設した米倉山電力貯蔵技術研究サイトでカナデビア製 1.5MW PEM 水電解設備で製造したグリーン水素の供給を受け、JFE スチール東日本製鉄所（千葉地区）の小型パイロットプラント（生産能力 15kg/h）において 2026 年 6 月 29 日から 7 月 1 日にかけてグリーン水素を用いた水素還元試験を行い、日本で初めて約 1 トンの還元鉄を製造し、グリーン水素を用いた鉄鉱石の安定した還元反応により還元鉄の製造が可能であることを確認した。

鉄鋼業は産業部門で二酸化炭素（CO₂）を排出する最大の産業で、日本全体の CO₂ 排出量の約 14%を占める。日本製鉄、JFE スチール、神戸製鋼所、金属系材料研究開発センター（JRCM）は 2022 年に「GREINS」を結成し、製鉄プロセスにおける水素活用プロジェクトで、CO₂ 排出量を飛躍的に低減する技術の開発に取り組んでいる。直接水素還元技術の開発では、規模や仕様の異なる 2 基の直接還元試験設備（シャフト炉）を建設し、2024 年度から直接水素還元技術の開発に取り組んでいる。



図.今回グリーン水素により試作した還元鉄（左）と直接還元試験設備（右）（JFE スチール東日本製鉄所）

A：水素・アンモニアの社会実装に向けた 当面の課題と今後の重点取組

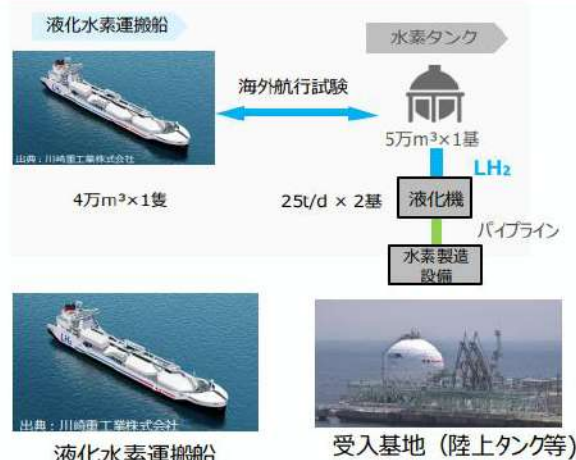
⇒ https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene_shinene/suiso_seisaku/pdf/017_t01_00.pdf

水素・アンモニアの社会実装に向けた課題と対応

- 水素・アンモニアの社会実装に向けた**最大の課題は、価格低減と需要創出**。現在、水素社会推進法に基づく事業組成や、グリーンイノベーション基金等の研究開発・実証により、**技術革新と事業スケールの両面から取組を推進中**。
- グリーンイノベーション基金事業の研究開発・実証においては、**プロジェクトのモニタリングやステージゲートを通じて継続的に進捗を確認**。FSや研究開発の進捗、市場環境の変化に応じた計画見直しを必要に応じて実施し、事業計画の変更や淘汰も含め、**社会実装に向けて取り組んでいる状況**。

グリーンイノベーション基金事業の進捗 (例：液化水素サプライチェーンの商用化実証)

- 当初、液化水素サプライチェーンの商用化実証は、**豪州ビクトリア州から液化水素を出荷し、川崎臨海部の受入基地に輸送する計画**だった。
- しかし、**豪州での許認可取得に必要な時間を考慮すると、2030年度までのプロジェクト完了が困難**なことが判明。
- また、液化水素関連の技術については、他国企業も開発開始を宣言するなど、**国際的な競争も激化**。
- 加えて、**豪州の人件費等のインフレや為替の影響により、事業費が著しく高騰**。可能な限り、**事業費を抑制する必要**もあった。
- これらの状況を勘案し、**技術を迅速に確立し、国際競争に勝つためにも、国内実証へと方針を切り替え、必要な実証を予算・期間内に完了できるよう変更した**。



(出所) 経済産業省 産業構造審議会グリーンイノベーション部会 エネルギー構造転換分野WG説明資料
資料9 説明資料 日本水素エネルギー株式会社・川崎重工株式会社
内閣官房 GX専門家ワーキンググループ (第14回) 資料4 川崎重工株式会社説明資料

6

P：京都大学、4つのニッケル原子の協同作用で強固な炭素－水素結合を活性化

⇒ 京都大学プレスリリース <https://www.jst.go.jp/pr/announce/20260729-2/pdf/20260729-2.pdf>

京都大学 化学研究所の大木 靖弘 教授、角南 康平 大学院生（研究当時）、田中 奏多 大学院生、山梨 遼太郎 博士研究員、檜垣 達也 助教（研究当時、現：東京都立大学）、伊豆 仁 助教らは、チャルマース工科大学 W. M. C. Sameera 研究員、京都大学 寺西 利治 教授、高畑 遼 助教、東京都立大学 山添 誠 司 教授、吉川 聡一 助教、筑波大学 二瓶 雅之 教授、志賀 拓也 准教授、京都大学 加藤 立久 研究員と共同で、4つのニッケル原子からなる新しい分子（ニッケルクラスター錯体）を開発し、安価で資源が豊富なニッケルを用いて、これまで困難と考えられてきた炭化水素の炭素－水素（C－H）結合を穏和な条件で活性化（切断）できることを明らかにしました。

炭化水素の C－H 結合は有機分子中に広く存在する強固な結合であり、その結合を直接活性化して有用な物質へ変換する技術は触媒化学における重要課題です。これまで、このような反応にはロジウムやイリジウムなどの希少で高価な貴金属が主に用いられてきました。一方、ニッケルは安価で資源が豊

富であるにもかかわらず、穏和な条件で炭化水素の C-H 結合を活性化できる例は極めて限られていました。

研究グループは、複数の金属原子が協力して電子を受け渡すクラスター錯体に着目し、その協同作用を利用した新しい分子の設計に取り組みました。独自に開発した合成法を用いて 4 つのニッケル原子を含む新しいクラスター錯体を合成したところ、ベンゼンやトルエンなどの芳香族炭化水素だけでなく、通常は反応性が低い n-オクタンなど飽和炭化水素の C-H 結合も 50℃ という穏和な条件で可逆的に活性化できることが判明しました。実験と理論計算の結果から、この特徴的な高い反応性は、4 つのニッケル原子が酸化還元を分担し協力することで生み出されることが明らかになりました。

本成果は、複数の金属原子を集積した分子が、従来のニッケル錯体には見られなかった新しい反応性を示すことを明らかにしたものです。安価で資源が豊富なニッケルを利用した新しい触媒の開発に加え、複数の金属原子が協力して働く分子の設計と機能開拓をさらに発展させる成果として期待されます。

本研究成果は、2026 年 7 月 29 日（英国夏時間）付で英国の国際学術誌「Nature Communications」にオンライン掲載されました。

2026.5.18 筑波大学プレスリリース

P：筑波大学：ホウ化水素シートの電極固定化技術により高効率な水素生成を実現

⇒筑波大学プレスリリース <https://tiar.centers.tsukuba.ac.jp/1776/>

◆研究の背景

水素は、脱炭素社会の実現に向けた次世代エネルギーとして注目されています。なかでも、軽量かつ高い水素含有率を有するホウ化水素（Hydrogen Boride: HB）シートは、水素の貯蔵・輸送・生成を担う新規材料として期待されています。

HB シートは外部から電子を供給することで効率的に水素を発生できることが知られていますが、実用的な電極反応系へ応用するためには、HB シートを電極表面へ安定的に固定化する必要があります。しかし、従来は固定化の安定性や電子移動効率に課題があり、水素生成性能の向上が求められていました。

◆研究内容

筑波大学ホウ化水素研究センター（HBRC）の研究グループは、HB シートをカソード（陰極）上へ高効率に固定化するため、複数の高分子バインダー材料を用いた固定化手法を検討しました。

研究では、HB シートとバインダーを混合した複合材料をカーボンペーパー電極へ塗布し、電気化学的な水素生成特性を比較評価しました。その結果、アラミド系バインダーを用いた場合に、HB シートの安定固定化と高い電子移動特性が両立されることを見いだしました。

◆主な成果

本研究により、以下の成果が得られました。

- ・アラミド系バインダーを用いることで、HB シートを電極表面へ均一かつ安定的に固定化することに成功

- ・電極から HB シートへの電子注入効率が向上し、水素生成反応が大幅に促進
- ・従来系と比較して高い水素発生性能を実現

本成果が評価され、英国王立化学会（Royal Society of Chemistry）刊行の学術誌 *Sustainable Energy & Fuels* において「HOT Articles」に選出

これらの成果は、HB シートを利用した高効率水素生成デバイス開発に向けた重要な基盤技術となります。

◆今後の展望

今回開発した固定化技術は、HB シートを用いた電解水素生成システムや水素エネルギーデバイスへの応用が期待されます。今後は、さらなる耐久性向上や大面積電極化を進めることで、実用的な水素製造技術への展開を目指します。

また、本成果はホウ化水素材料を活用したエネルギー変換・貯蔵技術の発展に寄与し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献することが期待されます。

2026.6.8 筑波大学プレスリリース

P：筑波大学：水素化チタンの水素放出温度を劇的に下げる鍵は「ナノサイズ化」

—表面酸化層の障壁を上回る効果を解明—

⇒筑波大学プレスリリース <https://tiar.centers.tsukuba.ac.jp/1926/>

◆研究の背景

チタン（Ti）およびその合金は、高い耐食性、生体適合性、優れた機械的強度を備えているため、航空宇宙、生物医学、エネルギー産業などで幅広く応用されています。特に水素化チタン（ TiH_2 ）は、水素を可逆的に吸蔵・放出できる安定な金属水素化物であり、水素貯蔵材料や触媒、発泡剤などとしての利用が期待されています。しかし、水素の吸蔵は材料の脆化や亀裂を引き起こし、機械的な故障につながる恐れがあるため、Ti 相内での水素の移動や放出挙動を理解することは、実用化において極めて重要です。これまで、粒子径や表面酸化層が水素放出に与える影響については理論的な計算やシミュレーションが先行しており、直接的な観察を含む実験的な裏付け、特に表面酸化層の具体的な役割についての包括的な理解が不足していました。

◆研究内容

本研究では、ボールミル粉碎された TiH_2 からの水素（ H_2 ）放出メカニズムを、以下の要素を系統的に分析することで調査しました。

- ・粒子径の影響: 結晶子サイズと粒子径の変化を分析。
- ・表面酸化層の影響: ボールミル後に意図的に再酸化させる手順を導入し、粒子径の縮小と酸化層の効果を切り分けて評価。
- ・ボールミル雰囲気の影響: 不活性なアルゴン（Ar）雰囲気と、窒化物を形成する可能性のある窒素（ N_2 ）雰囲気を比較。

◆主な成果

- ・サイズ縮小による放出温度の低下: ナノスケールでの結晶子・粒子径の減少が、水素放出の開始温度（onset temperature）および第 1 段階の放出温度を大幅に低下させることを明らかにしました。これ

は、粒子径が小さくなることで拡散距離が短縮され、表面反応が律速段階となるためです。

- ・表面酸化層の役割: 表面酸化層は水素の脱離障壁をわずかに高めるものの、粒子径縮小による温度低下効果に比べれば副次的な役割にとどまることが分かりました。

- ・放出段階のメカニズム解明: 水素放出は3つの段階を経て行われますが、第1段階は表面制御された脱離プロセスであるのに対し、第2・第3段階は表面反応ではなく、バルク内での分解、相転移、および水素拡散が組み合わさったプロセスによって制御されることが判明しました。

- ・酸化層の構造変化の直接観察: その場 TEM 観察により、表面酸化層は 400°C 以下ではアモルファス状態であり、500°C 付近で還元または結晶化することが確認されました。これが第1段階の放出終了と関連しています。

- ・雰囲気の影響: Ar 雰囲気での粉碎は N₂ に比べて粒子がより細くなり、放出温度も低くなります。N₂ 雰囲気では表面に TiO₂ や TiN が形成され、これが拡散を妨げたり粒子の再凝集を促したりすることが示唆されました。

◆今後の展望

本研究で得られた知見は、チタンベースの水素貯蔵材料の最適化に向けた貴重な洞察を与えるものです。ナノスケールでの構造制御と表面化学が熱力学的挙動にどのように影響するかという包括的なメカニズムが明らかになったことで、より効率的で高性能な水素貯蔵材料や機能性材料の設計指針となることが期待されています。また、表面の酸化状態を制御することで、水素放出特性を微調整できる可能性も示唆されています。

2026.3.3 筑波大学プレスリリース

P: 筑波大学: ホウ化水素ナノシートにおける層間水素間距離が分子状水素の生成を制御

⇒筑波大学プレスリリース <https://tiar.centers.tsukuba.ac.jp/1952/>

◆研究の背景

- ・水素社会の実現に向け、安全で軽量かつ効率的な水素キャリアが求められています。
- ・ホウ化水素 (HB) ナノシートは、8.5 wt % という高い水素密度を持ち、安全性と軽量性に優れた固体水素キャリアとして注目されています。
- ・HB ナノシートを加熱すると、363 K から 1473 K の広範囲で水素 (H₂) を放出しますが、特に 623 K 以下の低温域で見られる多峰性 (マルチモーダル) な放出メカニズムの詳細は未解明でした。

◆研究内容

- ・低温域での水素放出の原因として、加熱による「局所的な結合様式の変化」か、あるいは「層間の水素間距離 (d H...H)」のどちらが支配的であるかを検証しました。
- ・実験的アプローチ: 昇温脱離 (TPD) 法による動力学解析に加え、高圧水素雰囲気下 (最大 12 MPa) での加熱実験と赤外分光法 (FT-IR) を組み合わせ、水素欠損中の結合状態の安定性を評価しました。
- ・理論的アプローチ: 4 種類の積層構造モデルを想定し、層間の水素原子ペアの距離と数を系統的に算出しました。

◆主な成果

- ・低温域での多峰性水素放出は、結合様式の変化ではなく層間の水素間距離 ($d_{\text{H}\cdots\text{H}}$) の分布によって決定されていることを明らかにしました。
- ・FT-IR 測定により、水素が放出されても $\text{B}\cdot\text{H}$ および $\text{B}\cdot\text{H}\cdot\text{B}$ の結合様式は維持されることが確認され、結合変化説が否定されました。
- ・計算された水素間距離の分布が、実験の TPD プロファイル (3 つのピーク) と極めて良く一致することを示しました。
- ・Kissinger 解析により、放出ピークごとの活性化エネルギーは同等ですが、反応確率 (頻度因子) が水素間距離に依存して異なることが判明しました。

◆今後の展望

層間の幾何学的配置 (積層、ねじれ、歪み、あるいは層間への分子挿入など) を制御することで、水素放出機能を自由に調整・設計できる可能性が示されました。本知見は、オンデマンドで水素を放出する次世代の二次元水素貯蔵材料の開発に向けた、重要な設計指針となります。

【海外情報】

2026.7.24 FuelCellsWork、Sapio プレスリリース

P：伊 Edison Energia、Sapio の 5MW 水電解設備に 50MW 再生可能電力を長期で供給

伊 Edison Energia（電力・ガス販売）は Sapio（産業・医療ガス供給）と長期 PPA を締結し、2026 年 7 月 1 日からヴェネツィア近郊ポルト・マルゲーラの 5MW 電解槽（方式・メーカー不明）へ、水力・太陽光 8 設備・合計約 50MW の再エネ電力を供給する。同設備は最大 750t/年、初年度実績見込み 500t 以上の水素を 500bar で製造する。Sapio 設備と専用 2MW 太陽光への支援額は合計約 1,700 万ユーロ（約 31.5 億円）で、RFNBO グリーン水素認証の要件充足も図る。

Renewable Electricity Secured for New 5MW Green Hydrogen Production Facility

⇒Sapio プレスリリース（伊語） <https://www.sapio.it/edison-energia-e-sapio-firmano-contratto-ppa-off-site-pluriennale-per-la-fornitura-di-energia-rinnovabile-dedicata-alla-produzione-di-idrogeno-nel-nuovo-impianto-di-marghera/>

⇒Sapio 設備発表 <https://www.sapio.it/sapio-inaugura-il-primo-impianto-di-idrogeno-rinnovabile-a-500-bar-in-italia/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworld.com/2026/07/22/h2/edison-signs-renewable-power-deal-to-supply-sapio-s-new-5mw-hydrogen-plant-in-marghera>



2026.7.24 FuelCellsWork、

N：印 Advait、国富氢能から 1MW×23 基、5MW×4 基の組立キットを調達、自社工場で組み立て
印 Advait Greenenergy（グリーン水素・太陽光 EPC・蓄電池事業）と中国 Jiangsu Guofu Hydrogen Energy Equipment（江蘇国富氢能技術裝備：水電解槽・充填設備製造）は 2026 年 6 月 29～30 日、張家港市にある国富氢能の工場で 5MW（1,000Nm³/h）加圧式アルカリ水電解槽の工場受入試験を実施した。Advait Greenenergy はグジャラート州にある自社工場の組立能力を現在の 30MW から 100MW へ、さらに SIGHT 制度で選定された 300MW へ拡大し、長期的には年 1GW を目指す。Advait Greenenergy は国富氢能から 43MW 分（1MW×23 基、5MW×4 基）の組立キットを調達し、インドで技術移転と現地生産を進める。調達総額は約 510 万ドル（816 百万円）。

Advait Greenenergy Demonstrates 5MW Alkaline Electrolyser Under Industrial Operating Conditions

⇒ https://www.energetica-india.net/news/advait-greenenergy-demonstrates-industrial-scale-5-mw-electrolyser-to-drive-green-hydrogen-adoption?utm_source=chatgpt.com

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/electrolyzer/advait-greenenergy-demonstrates-5mw-alkaline-electrolyser-under-industrial-operating-conditions>



2026.7.24 FuelCellsWork、FEST プレスリリース

P：独 Stadtwerke Düsseldorf、2MW PEM 電解槽の商業運転を開始

独 Stadtwerke Düsseldorf（自治体エネルギー・水道事業）は 2026 年 7 月 17 日、デュッセルドルフのヘーアーヴェーク（Höherweg）で、FEST（電解槽）製 2MW PEM 水電解槽「gL400」の商業運転を開始した。設備はごみ発電由来電力で水素を製造し、隣接する H2 MOBILITY（水素ステーション運営）の施設へ直接水素を供給して、Rheinbahn（公共交通事業）が運営する燃料電池バスや地域の輸送・産業需要に対応する。総事業費は約 550 万ユーロ（約 10 億円）。



2MW Hydrogen Production Facility Enters Commercial Operation

⇒FEST プレスリリース https://fest-group.de/en/stadtwerke-duesseldorf-begins-operating-an-electrolyzer-from-fest/?utm_source=chatgpt.com

⇒Stadtwerke Düsseldorf プレスリリース（独語） https://www.swd-ag.de/ueberuns/presse/2026/20260717-einweihung-elektrolyseur/?utm_source=chatgpt.com

⇒FEST 案件仕様 <https://fest-group.de/en/2-mw-for-duesseldorfs-mobility/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/19/electrolyzer/dusseldorf-commissions-2-mw-electrolyser-to-supply-hydrogen-for-buses-and-industry>

2026.7.24 FuelCellsWork、GreenH プレスリリース

P：ノルウェーGreenH、EU 支援を得てローガラン水素ハブに 12.5MW 水電解水素製造施設を導入
ノルウェーGreenH（水素製造・供給事業）は、ローガラン（Rogaland）水素ハブの開発に対し、EU イノベーション基金から約 6 億ノルウェー・クローネ（約 99 億円）の支援を受ける。2030 年頃の稼働を予定する 12.5MW 水電解水素製造施設を導入し、グリーン水素を約 5t/日製造するとともに、将来の増設を可能にする。沿岸航路の船舶への燃料補給、地域産業、重量輸送に水素を供給する。GreenH はスラーゲンタンゲン（Slagentangen）、クリスチャンスン（Kristiansund）、サンネシェーン（Sandnessjøen）、ボードー（Bodø）、ハンメルフェスト（Hammerfest）でも水素製造を計画しており、ローガラン（Rogaland）水素ハブも沿岸水素供給インフラの一部となる。

GreenH Receives EU Funding for New Hydrogen Hub in Rogaland

⇒GreenH プレスリリース https://greenh.no/en/greenh-receives-eu-funding-for-new-hydrogen-hub-in-rogaland/?utm_source=chatgpt.com

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/news/greenh-receives-eu-funding-for-new-hydrogen-hub-in-rogaland>

2026.7.24 FuelCellsWork、PosHYdon プレスリリース

P：蘭 PosHYdon プロジェクト、北海の稼働プラットフォーム「Q13a-A」で洋上水素製造を実証
蘭 Eni Energy Netherlands（海洋石油・ガス開発）が運営するスヘフェニンゲン（Scheveningen）沖約 13km に位置する全面電化型天然ガス生産プラットフォーム「Q13a-A」を利用して、15 の企業・機関が参画するコンソーシアムによる洋上グリーン水素製造実証プロジェクト「PosHYdon」が洋上風力、水素製造、天然ガス生産を統合した世界初の実証を開始し、グリーン水素の製造に成功した。設備はノルウェーNel Hydrogen（水電解装置製造）製 1.25MW PEM 水電解槽で、海水を脱塩・純水化して最大 500kg/日の水素を製造し、天然ガスと混合して既存パイプラインで陸上へ輸送する。15 の企業・機関は風力出力変動への追従性、保守、費用、運転性能を検証し、2026 年 8～9 月に結果を分析して同年秋に公表する。



PosHYdon: First Production of Green Hydrogen on Operational North Sea Platform

⇒PosHYdon プレスリリース https://poshydon.com/en/poshydon-first-production-of-green-hydrogen-on-operational-north-sea-platform/?utm_source=chatgpt.com

⇒Nel プレスリリース https://nelhydrogen.com/press-release/nel-asa-nel-joins-poshydon-consortium/?utm_source=chatgpt.com

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/electrolyzer/poshydon-first-production-of-green-hydrogen-on-operational-north-sea-platform>

2026.7.24 FuelCellsWork、

N : 米 SoCalGas、Angeles Link 水素パイプライン建設計画を中止

米 SoCalGas（ガス公益事業）は、カリフォルニア州公益事業委員会（CPUC）が水素パイプライン「Angeles Link」第2段階の建設費用2億6,600万ドル（約426億円）を需要家料金で回収する申請を却下したことを受け、同計画の開発を中止した。第1段階では既に2,430万ドル（約39億円）を支払っており、2,470万ドル（約40億円）の料金回収を別途申請し審査中である。計画では年150万tの水素輸送能力を想定していたが、経路、総建設費、供給者、拘束力のある需要家契約はいずれも未確定のままだった。

SoCalGas Cancels Angeles Link Hydrogen Pipeline but Seeks Recovery of Early Development Costs

⇒ <https://www.foodandwaterwatch.org/2026/07/23/socalgas-quietly-cancels-angeles-link-project-amidst-strong-pushback/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/24/h2/socalgas-cancels-angeles-link-hydrogen-pipeline-but-seeks-recovery-of-early-development-costs>

2026.7.27 FuelCellsWork、プレスリリース

P : 韓国 LG Chem、PEM 電解用電極の寿命を2倍超に延伸

韓国 LG Chem（化学大手）は、PEM 水電解装置のイリジウム触媒を原子レベルで被覆し、触媒の溶出抑制と高分子膜との接着性を高める電極技術を開発した。イリジウム使用量を50%超削減しつつ、高電流密度での安定稼働時間を従来比2倍超に延ばし、連続工程による大面積電極の量産可能性も確認した。世界の電解槽メーカー各社と製品評価を進めており、成果は Nature Communications（2026年7月21日付）に掲載された。研究には KAIST（韓国科学技術院）の研究者も参加した。



LG Chem More Than Doubles Lifespan of Key Electrode for Green Hydrogen Production

⇒ <https://finance.biggo.jp/news/7a1a1052-0b07-4867-9741-b312b53495ca>

⇒ <https://www.mk.co.kr/jp/business/12107743>

⇒Nature Communications 論文 <https://www.nature.com/articles/s41467-026-75113-6>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/27/green-hydrogen/lg-chem-more-than-doubles-lifespan-of-key-electrode-for-green-hydrogen-production>

2026.7.27 FuelCellsWork、プレスリリース

P：仏 RotH2、南アフリカとスペインから高圧水素ポンペを受注

仏 ROTH2（超高圧ガス貯蔵システムメーカー）は、南アフリカとスペインで水素貯蔵システムを受注した。南アフリカでは、西ケープ大学が主導する「HySA プログラム」向けに、1,000bar・22 本の複合補強 Type II 鋼製ボンベ（総容量 1,100L）を搭載した貯蔵ラックを納入した。スペインでは、ARPA（モバイルエネルギーシステムメーカー）向けに、550bar・53L×46 本（総容量 2,438L）ラック 2 基と、1,000bar・50L×16 本（総容量 800L）ラック 2 基を納入した。ROTH2 は 2024 年からフランスで唯一、1,000bar 対応の Type II 鋼製複合補強ボンベを製品化している。

Hydrogen Storage Specialist Secures Two Major Commercial Contracts

⇒ https://www.actusnews.com/fr/roth2/cp/2026/07/22/roth2-poursuit-son-developpement-a-l-international-avec-deux-nouvelles-commandes-de-solutions-tres-haute-pression?utm_source=chatgpt.com

⇒RotH2 水素シリンダー <https://roth2.com/bouteilles-dhydrogene/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/26/h2/hydrogen-storage-specialist-secures-two-major-commercial-contracts>



2026.7.27 FuelCellsWork、

N：独 Uniper、地下岩塩空洞での水素貯蔵実証で水素を初充填

独 Uniper（電力・エネルギー大手）は、ニーダーザクセン州 Krummhörn（クルムヘルン）自治体の Upleward（ウプレワルト）地区にある水素パイロット岩塩空洞で、初めて水素を充填し、実証運転へ移行する。天然ガス貯蔵施設の既設 K6 坑井を活用して造成した空洞は、高さ約 30m、直径 16m、容積約 3,000m³で、約 50 万 Nm³（約 1.8GWh 相当）の水素を貯蔵できる。充填時は空洞内の塩水を水素で置換し、その後に実証運転を開始する。同プロジェクトでは、配管、バルブ、ポンプ、坑口設備などの水素適合性や耐久性を検証する。

Uniper は 2023 年 4～6 月に初回気密試験、2024 年に空洞造成、2024 年 10 月に水素による第 2 回気密試験を完了し、2025 年 1 月～2026 年 1 月には既設天然ガス配管の水素対応改修・認証を実施した。2025 年 12 月には水素乾燥設備など地上設備を完成させており、実証結果を基に商業規模への拡

張を検討する。LBEG は Uniper Energy Storage に Krummhörn I 鉱区の 50 年間の採掘権を付与しており、将来の大規模水素貯蔵拠点としての発展を目指す。

Uniper Moves Toward First Hydrogen Filling at Krummhörn Pilot Cavern in Upleward

⇒Krummhörn プロジェクト <https://www.uniper.energy/de/hydrogen-pilot-cavern>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/26/h2/uniper-moves-toward-first-hydrogen-filling-at-krummhorn-pilot-cavern-in-upleward>

2026.7.28 FuelCellsWork、Orica プレスリリース

P : 豪 Orica、「Hunter Valley 水素ハブ」の施工管理業務を Duratec へ発注

豪 Orica（化学・火薬メーカー）は、「Hunter Valley 水素ハブ（HVHH）」の施工管理業務を Duratec（建設・インフラ・設備保全）へ発注した。「Hunter Valley 水素ハブ」は 50MW PEM 水電解装置（PlugPower 製）を設置し再生可能水素を約 4,700t/年製造する。水素は約 720m の専用パイプラインを介して Orica のアンモニア工場へ供給する。これにより天然ガス原料の約 7.5%を代替し、約 2 万 6,600t/年の低炭素アンモニアを生産する計画である。2026 年 7 月 1 日に最終投資決定（FID）を完了し、2029 年初頭の操業開始を目指す。

Duratec Lands Construction Management Role at Orica's Hunter Valley Hydrogen Hub

⇒Orica プレスリリース <https://www.orica.com/en/resource-hub/news/2026/orica-reaches-final-investment-decision-on-hunter-valley-hydrogen-hub>

⇒PlugPower プレスリリース（2026.7） <https://www.ir.plugpower.com/press-releases/news-details/2026/Plug-Wins-50MW-Electrolyzer-Order-as-Oricas-Hunter-Valley-Hub-Becomes-the-Largest-Australian-Renewable-Hydrogen-Project-to-Reach-FID/default.aspx>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/28/news/duratec-lands-construction-management-role-at-orica-s-hunter-valley-hydrogen-hub>



2026.7.28 FuelCellsWork、

N：韓国、主要港を水素・アンモニア拠点へ再編

韓国 海洋水産部は、「第4次港湾基本計画（2026～2030年）改定版」を策定し、蔚山、唐津（Dangjin）、大山（Daesan）、釜山、浦項、泰安の主要港を、水素・アンモニアを中心とするクリーンエネルギーハブへ転換する方針を示した。蔚山港では、従来の「北東アジア石油ハブ」構想を見直し、7万 DWT 級の船舶が接岸できる岸壁を2バースと同3万 DWT 岸壁1バースを備える大規模アンモニアターミナルを整備する。また既存液体貨物ターミナルを6万 DWT×2バースから10万 DWT×1バースと4万 DWT×1バースへ再編する。唐津港では、水素・アンモニア輸入基地として3万 DWT 岸壁1バースと5万 DWT 岸壁1バースを新設し、大山港では石炭岸壁を7万 t 級アンモニア対応岸壁へ改修して韓国東西発電のアンモニア混焼に対応する。釜山港は LNG バンカリング基地を水素・アンモニア対応へ拡張し、泰安港では洋上風力支援岸壁に1,789億ウォン（197億円）を投資する。

Korea Rewrites Its Ports: Ulsan Drops "Oil Hub," Becomes a Hydrogen and Ammonia Terminal

⇒ <https://www.mof.go.kr/doc/ko/selectDoc.do?bbsSeq=9&docSeq=67502&menuSeq=375>

⇒参考

<https://www.mof.go.kr/page/en/selectPage.do?menuSeq=1588&pageSeq=1017&listUpdtDt=2026-08-03++10%3A00>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/27/h2/korea-rewrites-its-ports-ulsan-drops-oil-hub-becomes-a-hydrogen-and-ammonia-terminal>

2026.7.28 FuelCellsWork、DESFA プレスリリース

P：ギリシャ DESFA、570km 水素パイプライン詳細設計の入札を開始

ギリシャ DESFA（ガス・水素輸送網運営）は、コリントスのアギイ・テオドリ（Agioti Theodoroi）からブルガリア国境までを結ぶ水素パイプライン「H2DRIA」の詳細設計を、上限 860 万 EUR（約 15.9 億円）、期間 16 カ月で入札にかけた。全長約 570km を既設高圧ガス管に並行して新設し、初期輸送能力 80GWh/日、総事業費 10 億 EUR（約 1,850 億円）、2029 年の運用開始を予定する。水素をアテネ、コリントス、テッサロニキの工業地帯へ供給し、ブルガリア、イタリア、将来的には北マケドニアへの輸出も見込む。8 カ国の TSO が 2,854km を整備する「SEEHyC」回廊のギリシャ区間に相当する。

DESFA Launches €8.6 Million Tender for Greece's Hydrogen Pipeline Design

⇒DESFA プレスリリース <https://www.desfa.gr/en/innovation-green-gases/participation-in-projects-and-groups/%CE%B5%CF%83%CF%89%CF%84%CE%B5%CF%81%CE%B9%CE%BA%CE%AE-%CF%85%CF%80%CE%BF%CE%B4%CE%BF%CE%BC%CE%AE-%CF%85%CE%B4%CF%81%CE%BF>

<https://fuelcellsworld.com/2026/07/28/clean-energy/desfa-launches-8-6-million-tender-for-greece-s-hydrogen-pipeline-design/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworld.com/2026/07/28/clean-energy/desfa-launches-8-6-million-tender-for-greece-s-hydrogen-pipeline-design/>

2026.7.28 FuelCellsWork、SolidHydrogen プレスリリース

P：豪 SolidHydrogen、台湾 Tellus Materials から PCS システムを初受注

豪 SolidHydrogen（水素貯蔵技術）は、台湾 Tellus Materials（水素システム供給）から、金属水素化物により水素の精製・圧縮・貯蔵を 1 台で同時に行う PCS システムを初受注した。従来これら 3 工程は水素総コストの最大 3 分の 2 を占めるが、同社は最大 10 分の 1 へ低減できるとし、700bar 高圧ガス比で 3 倍の体積貯蔵密度、1 工程で 99.999%の純度、常温運転、1 万サイクルの寿命、100%リサイクル可能を掲げる。



SolidHydrogen and Tellus Materials Sign a First Commercial Order for a New Combined Hydrogen Purification, Compression and Storage System (PCS)

⇒SolidHydrogen プレスリリース <https://www.solidhydrogen.tech/post/solidhydrogen-and-tellus-materials-sign-first-commercial-order-for-a-combined-hydrogen-purification>

⇒Tellus Materials 固体水素貯蔵 <https://www.tellusmaterials.com/pages/tellus-materials-h2-solidhydrogen>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworld.com/2026/07/28/clean-energy/solidhydrogen-and-tellus-materials-sign-a-first-commercial-order-for-a-new-combined-hydrogen-purification-compression-and-storage-system-pcs>

2026.7.28 FuelCellsWork、プレスリリース

A：米 DOE、地域水素ハブ 284 件の打切りは政治的判断、と連邦地裁提出文書で認める

米 U.S. Department of Energy（エネルギー省）は 2026 年 7 月 15 日付の連邦地裁への裁判提出文書で、2025 年 10 月に打ち切った 284 件の助成事業（ARCHES および PNWH2 を含む）は、事業内容や実績、コスト削減などを理由に選定したものではなかったと認めた。また、1 件を除き対象事業は 2024 年米大統領選でカマラ・ハリス氏を支持し、民主党系上院議員 2 人を擁する州に所在していたと説明した。カリフォルニア州の地域水素ハブ「ARCHES」は 2023 年 10 月に全米 7 件の地域水素ハブの一つとして選定され、2024 年 7 月に DOE が 12 億ドル（1,920 億円）の助成契約を締結していた。総事業費は 126 億ドル（約 2 兆円）であったが、助成打ち切り後に事業は停止し、常勤職員を全員解雇した。ワシントン州・オレゴン州・モンタナ州の 3 州にまたがる地域水素ハブ「PNWH2」も約

10 億ドル（1,600 億円）の助成対象であった。なお、DOE は 2025 年 5 月に 2,300 件超の助成金のうち 624 件を見直し対象としたが、実際に打ち切られたのは 284 件であった。

DOE Admits in Court Filing: California's \$1.2 Billion Hydrogen Hub Was Cut for Political Reasons, Not Performance

⇒ <https://www.latimes.com/environment/story/2026-07-28/trump-administration-targeted-california-other-blue-states-for-clean-energy-cuts>

⇒ <https://rbnenergy.com/daily-posts/analyst-insight/california-pacific-northwest-hydrogen-hubs-lost-funding-due-politics>

⇒カリフォルニア州 <https://oag.ca.gov/news/press-releases/attorney-general-bonta-files-lawsuit-against-trump-administration-illegally>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/28/h2/doe-admits-in-court-filing-california-s-1-2-billion-hydrogen-hub-was-cut-for-political-reasons-not-performance>

2026.7.29 FuelCellsWork、現代自動車プレスリリース

P：韓現代自動車、直営資源循環型水素製造・充填拠点を開設、日量 500kg の水素製造。CO₂も販売
韓現代自動車は、清州（Cheongju）の下水処理場に直営の資源循環型水素製造・充填拠点「HTWO ENERGY Cheongju」を開設した。隣接する下水処理場から日量 4,000Nm³のバイオガスを受け入れ、硫化水素と水分を除去してバイオメタンへ精製した後、Hyundai Rotem 製の水蒸気改質設備（全国 14 カ所の納入実績に基づく）で水素 500kg/日を製造し、FCEV 約 100 台または燃料電池バス約 30 台へ供給する。改質で副生する CO₂は放出せず液化炭酸として回収・精製し、食品・飲料の炭酸添加やドライアイス向けに販売する。地域の他の水素充填所へ供給する「マザーステーション」も兼ねる。2030 年までに日量 2t へ増強する。



Inside HTWO ENERGY Cheongju: Hyundai's First Self-Operated Hydrogen Station Turns Sewage Into Fuel — and Turns a Profit on the CO₂, Too

⇒現代自動車プレスリリース

<https://www.hyundai.com/content/hyundai/worldwide/en/newsroom/detail/0000001227.html>

⇒HTWO 事業情報 <https://www.htwo.hyundai.com/en/worldwide/our-business>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/27/electrolyzer/inside-htwo-energy-cheongju-hyundai-s-first-self-operated-hydrogen-station-turns-sewage-into-fuel-and-turns-a-profit-on-the-co2-too>

2026.7.29 FuelCellsWork、U.S. Trade and Development Agency (USTDA) プレスリリース

P : 米 USTDA、モロッコの年 56 万トンアンモニアプロジェクトの Pre-FEED を助成

米 U.S. Trade and Development Agency (USTDA : 米国貿易開発庁) は、モロッコ ORNX Laayoune 1 SASU (米 Ortus、スペイン Acciona、独 Nordex が設立したグリーンアンモニア事業 JV) との間で、モロッコ南部ラーユーン (Laayoune) で計画中の大規模アンモニア製造プラントの Pre-FEED (基本設計前調査) 実施に関する助成契約を締結した。Pre-FEED (基本設計前調査) は米 Kellogg Brown & Root (KBR : エンジニアリング) を中心に、GE Vernova (エネルギー機器)、Electric Hydrogen (PEM 水電解)、Terabase Energy (エネルギーソフトウェア) が担当し、Electric Hydrogen 製水電解装置の適用性、電力供給方式、設備構成、事業性を評価する。完成後のアンモニア生産能力は 56 万 t/年を見込む。Pre-FEED 完了後に FEED (基本設計) および最終投資決定 (FID) へ進む計画であり、モロッコ南部におけるアンモニア産業の育成と米国技術の導入を目的とする。USTDA は初期技術調査を支援することで、米国企業による設備・技術の採用とプロジェクト資金調達を後押しする。

USTDA Supports Major Ammonia Project in Morocco's Southern Provinces

⇒U.S. Trade and Development Agency (USTDA) プレスリリース <https://ustda.gov/ustda-supports-major-ammonia-project-in-moroccos-southern-provinces/>

⇒Electric Hydrogen 技術情報 <https://eh2.com/plants-at-work/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/clean-energy/ustda-supports-major-ammonia-project-in-morocco-s-southern-provinces>

2026.7.29 FuelCellsWork、現代自動車プレスリリース

P : 韓現代自動車、ブラジルで南米水素ハブの構築を具体化

韓現代自動車は、ブラジルで水素製造から商用トラックでの利用までを結ぶ南米水素ハブを構築する方針を示した。7 月 28 日にサンパウロで開かれた韓国・ブラジル産業円卓会議で説明したもので、2024 年に約束した 11 億ドル (約 1,760 億円) の投資を具体化する。

Hyundai Motor Group to Build South America Hydrogen Hub in Brazil

⇒現代自動車プレスリリース <https://www.hyundaimotorgroup.com/en/news/hyundai-motor-group-executive-chair-euisun-chung-charts-mid-to-long-term-growth-strategy-in-brazil>

⇒ (日本語記事) <https://finance.biggo.jp/news/d10fee11-606a-468a-ae4a-63d7322d0e22>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/fuel-cells/hyundai-motor-group-to-build-south-america-hydrogen-hub-in-brazil>

2026.7.29 FuelCellsWork、

N：韓国・三陟市、2040 年に 4 万 m³超の液化水素輸入基地を計画

韓国 江原特別自治道は、国土交通部の支援を受け、三陟市（Samcheok）で液体水素輸入ターミナル建設に向けた技術開発を開始した。事業には GS Engineering & Construction（建設）、HD Hyundai Engineering & Construction（建設）、Korea Gas Corporation（KOGAS：ガス公社）、Korea Institute of Industrial Technology（韓国生産技術研究院）など 14 機関が参画する。第 1 段階（～2029 年）では、200m³（約 14t）液体水素を貯蔵する平底円筒形タンクと 2 インチの積込アームを国産化・実証する。第 2 段階では実証設備を大型化し、第 3 段階（～2040 年）には、三陟市に 4 万 m³超の商業用液体水素貯蔵設備と輸入ターミナルを建設する計画である。三陟市は 2024 年に韓国初の水素ハブの一つに選定されている。

Samcheok's Three-Stage Bet: South Korea Begins Building Toward a 40,000 M³ Liquid Hydrogen Import Terminal by 2040

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworx.com/2026/07/27/h2/samcheok-s-three-stage-bet-south-korea-begins-building-toward-a-40-000-m-liquid-hydrogen-import-terminal-by-2040>



2026.7.29 FuelCellsWork、Fraunhofer ISE プレスリリース

P：独 Fraunhofer ISE、太陽光から水素へ 31.3%の変換効率を達成

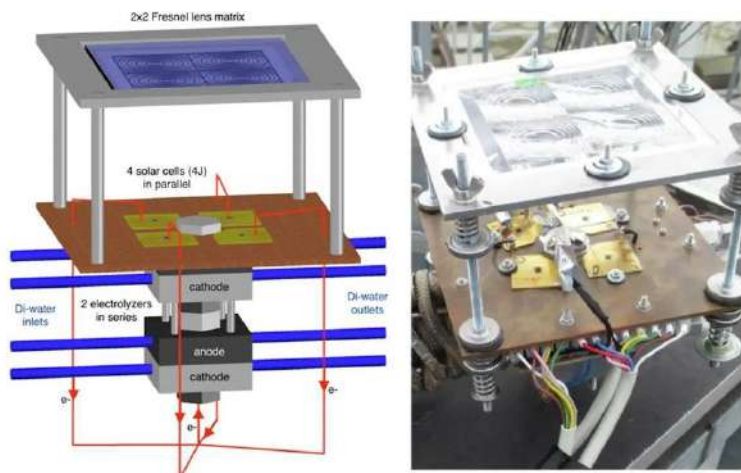
独 Fraunhofer ISE（太陽エネルギー研究機関）は、集光型 III-V 多接合太陽電池を直列接続し、2 セル構成の PEM 電解槽へ直接つなぐモジュールで、太陽光から水素への変換効率 31.3%を屋外実証した。集光レンズの面積は 64cm²、太陽電池の開放電圧は 4V 超で、太陽電池と電解槽の動作点を整合させることで電力変換を省き、変換損失を回避した。同研究所は実用化に向け、スピンオフ企業「Clearsun Energy」を設立予定で投資家を募集している。

Fraunhofer ISE Achieves 31.3% Solar-To-Hydrogen Efficiency

⇒Fraunhofer ISE プレスリリース <https://www.ise.fraunhofer.de/en/press-media/news/2026/efficient-production-of-solar-hydrogen-through-direct-coupling-of-concentrating-solar-cells-and-electrolyzer.html>

⇒Fraunhofer 研究論文 <https://publica.fraunhofer.de/entities/publication/ce3ec691-6bdb-463b-8823-9f5f61f0c620>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/clean-energy/fraunhofer-ise-achieves-31-3-percent-solar-to-hydrogen-efficiency>



2026.7.29 FuelCellsWork、

N：独 LIKAT など、ハイブリッド水電解による高効率水素製造技術を開発

独 Leibniz Institute for Catalysis（LIKAT：触媒研究機関）とリトアニア Center for Physical Sciences and Technology（物理科学技術センター）は、ハイブリッド水電解による高効率水素製造技術を共同研究している。研究では、水電解アノードで酸素ではなく糖製造廃棄物などのバイオマスを触媒酸化し、水素と同時に酢酸塩やギ酸塩などの有用化学品を製造することで、水電解全体の効率向上を目指す。研究では、コバルト・ニッケル・鉄を用いた電極触媒を評価し、2026年3月にはドイツ・ベルリンの放射光施設 BESSY で軟 X 線解析を実施して触媒反応機構を調査した。成果は 2026 年 9 月開催の「German Chemical Society（GDCh）」電気化学部会年次大会でポスター発表を予定している。

Next-Generation Electrolysis Study Explores More Efficient Hydrogen Production

⇒ <https://idw-online.de/en/news875177>

⇒Leibniz Institute for Catalysis <https://www.catalysis.de/en/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/28/clean-energy/next-generation-electrolysis-study-explores-more-efficient-hydrogen-production>

2026.7.29 FuelCellsWork、GTT プレスリリース

A：仏 Elogen、2026 年上期の電解槽売上が 10 万ユーロ。商業生産から R&D 中心へ事業を再編

仏 GTT（Gaztransport & Technigaz：LNG 極低温タンク製造）の子会社 Elogen（PEM 水電解装置）は、事業内容を研究開発（R&D）へ転換した結果、2026 年上期の水電解事業売上高が 10 万ユーロ

ロ（19 百万円）と前年同期の 250 万ユーロ（463 百万円）から大幅に減少した。設備投資額も 170 万ユーロ（315 百万円）で前年同期比 93%減となり、2026 年第 1 四半期の新規受注はゼロであった。Elogen は 2025 年、2024 年の EBITDA 損失 3,300 万ユーロ（61 億円）と受注低迷を受け、ヴァンドーム（Vendôme）で計画していた水電解装置ギガファクトリー建設を中止し、商業生産から R&D 中心への事業再編を実施した。一方、既受注案件として、蘭 CrossWind 向け 2.5MW PEM 水電解装置を納入し、2026 年にはスロバキア RoyalStav（エンジニアリング・建設）向け 1MW 水電解装置を納入予定である。

Elogen's Electrolyser Revenue Falls to €0.1 Million as GTT's Core LNG Business Carries the Group

⇒GTT プレスリリース <https://www.gtt.fr/news/first-half-2026-results-orderbook-high-historical-levels-strong-results-annual-objectives>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworx.com/2026/07/29/green-investment/elogen-s-electrolyser-revenue-falls-to-0-1-million-as-gtt-s-core-lng-business-carries-the-group>



2026.7.29 FuelCellsWork、プレスリリース

N：中国吉林電力、大安プラントから韓国へグリーンアンモニア 3,750t を出荷

中国 Jilin Electric Power（吉林電力）は 2026 年 7 月、吉林省大安市のプラントと製造したグリーンアンモニア 3,750 トンを江蘇省の連雲港から韓国へ本船渡し（FOB）で出荷した。大安プラントは風力発電 700MW、太陽光発電 100MW、蓄電池 40MW/80MWh と水電解槽を組み合わせ、生産能力はグリーン水素 3.2 万 t/年、アンモニア 18 万 t/年に達する。アルカリ電解槽 1,000Nm³/h×39 基と PEM 電解槽 200Nm³/h×50 基を併用したハイブリッド電解システムを採用した。アルカリ電解槽は LONGi Hydrogen 15 基、SANY Hydrogen 8 基などが供給する。

World's Largest Green Ammonia Shipment Sails From China to South Korea

⇒SANY Hydrogen Da'an Project <https://www.sanyhydrogenenergy.com/projects/da-an-wind-and-solar-green-hyd.html>

⇒LONGi Hydrogen Da'an Project <https://www.longi.com/en/news/global-hydrogen-project/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/29/clean-energy/world-s-largest-green-ammonia-shipment-sails-from-china-to-south-korea>



2026.7.29 FuelCellsWork、パドヴァ大学プレスリリース

P : 伊 Pietro Fiorentini など、次世代水電解装置開発プロジェクト「LEONE」を開始

伊 Pietro Fiorentini（ガス・エネルギー機器）を中心に、Athena（シール・ガスケット）、2RZ（産業用自動化）、パドヴァ大学、UniSMART（技術移転機関）の5機関は、次世代水電解装置開発プロジェクト「LEONE（LEAn Optimisation of Novel Electrolysers）」を開始した。水電解スタックと補機類（BoP）の高性能化・低コスト化・高信頼化を目指す。実施期間は30か月。プロジェクトでは、スタック部品、シール、水管理、補機システム、組立工程を改良するとともに、パドヴァ大学は白金やイリジウムなどの貴金属・希少金属の使用量削減・代替を目的とした電極触媒・高性能電極を開発する。

Veneto Bets on the Boring Part of Hydrogen: A Five-Partner Project to Make Electrolysers Simpler, Cheaper, and Less Reliant on Platinum

⇒パドヴァ大学プレスリリース <https://www.chimica.unipd.it/siamo-partner-del-progetto-leone>

⇒「LEONE」プロジェクトのHP（伊語） <https://www.unismart.it/progetto-leone/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/28/h2/veneto-bets-on-the-boring-part-of-hydrogen-a-five-partner-project-to-make-electrolysers-simpler-cheaper-and-less-reliant-on-platinum>

2026.7.30 FuelCellsWork、プレスリリース

P : 西バレンシア工科大学、マイクロ波による水分解を400℃へ低温化

スペイン・バレンシア工科大学（UPV）とCSIC（国立研究機関）は、マイクロ波に応答する酸化セリウム系の酸化還元材料を設計し、水から水素を製造する化学サイクルの反応温度を従来の1,300℃から400℃へ引き下げた。酸化セリウムの母材へ添加元素をドーピングすることで、酸素を高速のパルスで制御しながら放出でき、材料の耐久性・安定性も確認した。電極を接触させずマイクロ波で直接エネルギー

ギーを供給するため工程を簡素化でき、効率向上も見込む。成果は Advanced Energy Materials (2024 年) に掲載された。

Spanish Researchers Advance Materials that Improve the Production of Hydrogen From Water From Microwave Radiation

⇒プレスリリース <https://dimas.itaca.upv.es/materials-developed-to-improve-hydrogen-production-from-water-using-microwave-radiation/>

⇒研究論文 <https://doi.org/10.1002/aenm.202401443>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/h2/spanish-researchers-advance-materials-that-improve-the-production-of-hydrogen-from-water-from-microwave-radiation>

2026.7.30 FuelCellsWork、バレンシア工科大学プレスリリース

P：西バレンシア工科大学、マイクロ波でメタン分解を 500℃へ低温化

スペイン・バレンシア工科大学（UPV）と CSIC（国立研究機関）は、マイクロ波を触媒へ直接照射してメタンを水素と固体炭素へ分解する手法を開発し、従来メタン分解には 900～1,000℃超の温度が必要だったが、マイクロ波を使用することで 500℃でメタン転換率最大 80%、水素選択率 100%を得た。反応器全体を加熱せず触媒だけを選択的に加熱するためエネルギー損失を抑えられる。副生する固体炭素はナノファイバーなどの形態で得られ、電池、スーパーキャパシタ、センサー向けの材料として利用できる。5 年以上の研究成果で、ACS Sustainable Chemistry & Engineering に掲載された。

They Manage to Produce Clean Hydrogen More Efficiently Thanks to Microwave Energy

⇒バレンシア工科大学プレスリリース <https://www.itaca.upv.es/dimas-itaca-and-csic-research-produce-clean-hydrogen-more-efficiently-using-microwave-energy/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/clean-energy/they-manage-to-produce-clean-hydrogen-more-efficiently-thanks-to-microwave-energy>

2026.7.30 FuelCellsWork、Yara プレスリリース

P：ノルウェーYara、ノルウェーNEOM のグリーンアンモニアの世界販売・流通を担当

ノルウェーYara（肥料・アンモニア流通大手）は米 Air Products（産業ガス）と、サウジアラビア「NEOM」グリーン水素プロジェクトで製造されるグリーンアンモニアについて、本船渡し（FOB）で購入し自社網で世界販売する販売・流通契約を締結した。Air Products は全量を 30 年間引き取る唯一の契約者である。Yara は船 12 隻と輸入ターミナル 18 カ所を持つ流通網の担い手としてプロジェクトに加わる形で、Air Products は自前で流通網を構築する必要がなくなる。「NEOM」グリーン水素プロジェクトは NEOM・Air Products・ACWA Power の合弁 NGHC が運営し、太陽光発電 2.2GW（パネル 560 万枚超）と風力発電 1.6GW（風車 250 基超）で計約 4GW、thyssenkrupp nucera 製

2GW 超のアルカリ電解槽により水素最大 600t/日、アンモニア最大 120 万 t/年を製造し、2027 年の商業生産を目指している。

The World's Largest Green Hydrogen Project Finds Its Delivery Network: Yara to Distribute NEOM's Ammonia Worldwide

⇒Yara プレスリリース <https://www.yara.com/corporate-releases/update-on-u.s.-ammonia-project-and-capital-allocation/>

⇒Yara プレスリリース <https://www.yara.com/corporate-releases/air-products-and-yara-in-advanced-negotiations-to-partner-on-low-emission-ammonia-projects/>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/h2/the-world-s-largest-green-hydrogen-project-finds-its-delivery-network-yara-to-distribute-neom-s-ammonia-worldwide>

2026.7.30 FuelCellsWork、Lydian プレスリリース

P : 米 Lydian、e-SAF 製造モジュール「PIVOT」の事業化で 4,300 万ドルを調達

米 Lydian（合成航空燃料開発）は、Breakthrough Energy Ventures を主導投資家とするシリーズ A で 4,300 万ドル（約 69 億円）を調達した。調達資金は、CO₂と水素から e-SAF を製造するモジュール型プラットフォーム「PIVOT™」の事業化に充てる。PIVOT は独自の反応器、触媒、プロセス設計、ソフトウェア、補機類（BoP）を標準モジュール化し、設備投資を従来技術比 50%超削減、ライフサイクル GHG 排出量を最大 95%削減するとともに、プロジェクト期間を最大 2 年短縮できるとしている。Lydian はボストンの研究開発拠点でトン級パイロット設備の試運転を実施中で、2028 年に商業実証設備、2030 年に初の商業プラント稼働を目指す。

Lydian Raises \$43 Million Series A Led by Breakthrough Energy Ventures to Deliver Cost-Competitive Synthetic Aviation Fuel at Commercial Scale

⇒Lydian プレスリリース <https://www.prnewswire.com/news-releases/lydian-raises-43-million-series-a-led-by-breakthrough-energy-ventures-to-deliver-cost-competitive-synthetic-aviation-fuel-at-commercial-scale-302838553.html>

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/07/30/fuel-cells/lydian-raises-43-million-series-a-led-by-breakthrough-energy-ventures-to-deliver-cost-competitive-synthetic-aviation-fuel-at-commercial-scale>



2026.7.26 Vietnam.vn

A：ベトナム：水素の可能性と、2050年ネットゼロ目標達成へ投資を促進

⇒ <https://www.vietnam.vn/ja/tiem-nang-hydrogen-va-co-hoi-gop-suc-cho-muc-tieu-net-zero-2050>

⇒ <https://www.vietnam.vn/ja/nang-luong-hydrogen-don-bay-thuc-day-viet-nam-huong-toi-nen-cong-nghiep-khong-phat-thai>

⇒ <https://www.vietnam.vn/ja/nang-luong-hydrogen-can-them-cu-hich-chinh-sach>

⇒ <https://www.vietnam.vn/ja/bo-cong-thuong-thuc-day-hoan-thien-khung-chinh-sach-cao-dong-luc-phat-trien-nganh-cong-nghiep-hydrogen>

⇒ <https://www.vietnam.vn/ja/can-co-che-giup-cac-du-an-hydrogen-tiep-can-von-xanh>

エネルギー転換と 2050 年までの温室効果ガス排出量実質ゼロ達成に向けたベトナムの道のりにおいて、水素は新たな道を切り開いている。

7月 29 日に開催された水素エネルギー・ゼロエミッション産業未来フォーラムにおいて、専門家たちは、ベトナムには水素、特に再生可能エネルギー源から生産されるグリーン水素の開発にとって多くの好ましい条件が揃っているという点で満場一致で合意した。

しかし、この可能性はまだ始まったばかりであり、水素がカーボンニュートラルの目標に大きく貢献するためには、実際の生産能力へと転換する必要がある。

ベトナムにおけるグリーン水素開発の最も重要な基盤の一つは、比較的豊富な再生可能エネルギー資源である。ベトナムクリーンエネルギー協会の副会長であるファム・ホアン・ルオン准教授は、ベトナムは太陽光発電と風力発電の潜在力のおかげで、グリーン水素開発において多くの利点を持っていると考えている。 [\(つづきを読む\)](#)

【参考資料】

2026.8.3 FuelCellsWork、

A：中国の水素・燃料電池関連ニュース（2026年7月27日～7月31日）

国際氢能網（国际氢能网）が毎週まとめている中国の水素・燃料電池関連記事を、機械翻訳により紹介している。閲覧するには、FuelCellsWorksの年間購読契約が必要になる記事もある。

Fuel Cell and Hydrogen News Highlights From China: July 27-31, 2026

⇒FuelCellsWork <https://fuelcellsworks.com/2026/08/01/clean-energy/fuel-cell-and-hydrogen-news-highlights-from-china-july-13-july-17-2-2026-e48226240>

2026.8.3 全米燃料電池・水素エネルギー協会

N：マンスリーニュースレター「Fuel Cell and Hydrogen Energy Connection」2026年7月号。

米燃料電池・水素エネルギー協会（[The Fuel Cell and Hydrogen Energy Association](https://fchea.org/)）が発刊するマンスリーニュースレターの2026年7月号が発刊になりました。あらかじめ登録しておくと、毎月メールで配信してくれます。大半のニュース記事は「FuelCellWeekly」と「HydrogenWeekly」です。記事にしております。

Fuel Cell and Hydrogen Energy Connection - July 2026

⇒ <https://fchea.org/>

⇒マンスリーニュースレター購読申込 <https://fchea.org/media-center/press-releases/>

2026.7.9 JETORO 地域・分析レポート

A：サラワク州の今（前編） エネルギー投資集積進む（マレーシア）

⇒ <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2026/05598cd2cc38684a.html>

マレー半島とボルネオ島（東マレーシア）で構成される。政治・経済の中心は前者にあるが、近年、後者も存在感を増してきている。特に、ボルネオ島のサラワク州は、日本企業をはじめ各国のエネルギー企業を誘致し、地域のクリーンエネルギー拠点として発展させる方針だ。このように注目が高まるサラワク州の状況を、エネルギーを中心に、前後編2回に分けて報告する。本稿では、サラワク州政府の特徴、エネルギー政策、投資環境上のメリット、デメリットを紹介する。後編では、企業のプロジェクト紹介など進出動向に焦点を当てる。前編は州の概況やエネルギー政策を中心に概観する。

[\(つづきを読む\)](#)

2026.7.31 JETORO 地域・分析レポート

A：サラワク州の今（後編） エネルギー成長が産業牽引（マレーシア）

⇒ <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2026/511da260f8a1a4e6.html>

エネルギー供給に比較優位を持つサラワク州では、再生可能エネルギーや水素などの新エネルギー関連プロジェクトが既にいくつか始動しており、現地企業だけでなく日系企業を含む外資系企業が関与

している。こうしたエネルギー産業の強みは、半導体や電気自動車（EV）などの関連産業をも引き寄せている。同州への進出にあたっては、マレー半島部とは異なる特殊性もあるため、現地事情に通じたパートナーと組むことが円滑な交渉に不可欠となる。[\(つづきを読む\)](#)

【新刊案内】

2026 年版 中国 P2X プロジェクトリスト	4
--------------------------------	---

【中国の水素エネルギー・燃料電池情報】

P : 内蒙古華電、微生物タンパク製造プロジェクトを推進.....	8
N : 東営市で風力太陽光発電連携グリーンメタノール統合プロジェクトが調印.....	8
P : 中国、再生可能エネルギー発展第 15 次 5 カ年計画を発表.....	8
A : 中国政府、再エネ 5 カ年計画発表。2030 年までに太陽光・風力で発電量 30%確保.....	9
P : 穩石氫能、オランダ向け AEM 水素製造装置を追加受注.....	10
P : 山東省、「新エネルギー分野シーン構築実施方案」を公布	11
N : 大維能源、年産 50 万 t グリーンメタノール実証プロジェクトを実施	12
N : 佳邑華氫、高純度水素充填システムを発表.....	12
N : 内モンゴル自治区、グリーン水素プロジェクト 3 件が相次ぎ承認	13
N : 北奔重汽、300kW 水素燃料電池大型トラクターが完成.....	13
N : 吉利汽車、瀋陽でメタノール新エネルギー車生産拠点を稼働.....	14
N : 青海省の高地「太陽光・水素・蓄電統合プロジェクト」、累計発電量 42.4 億 kWh を達成	15
N : 海暉新能源、シリコン系セパレータ採用の水素燃料電池システムを発表	15
N : 大陸制氫、3,000Nm ³ /h 級アルカリ型電解槽を発表	16
N : 中集安瑞科、水素含有ガス発電用動力モジュールを発表.....	16
N : 中国電建北京院、包頭市九原区の年産 7,366t グリーン水素プロジェクト承認取得.....	16
A : 2026 年、中国の国有資本による水素産業への参入が加速	17
A : 水素内燃エンジンの実用化が加速：主要開発動向と燃料電池との比較.....	19
A : PEM 水電解装置市場、実証から実需へ：2026 年は受注拡大と市場構造の転換が進展	20
N : 浙江省、車両用メタノール燃料供給拠点を整備	22
A : 2026 年 7 月 20 日～24 日の水素エネルギー関連入札・落札状況	23
A : 2026 年 7 月第 3 週の水素エネルギー関連政策動向	24
N : 明陽氫能、電解槽技術が評価され中国潜在ユニコーン企業に 2 年連続認定	26
N : 派瑞氫能、エクアドルで水素製造設備の改修・増設案件を獲得.....	26
N : 石化機械、中原油田向け 1,000Nm ³ /h 級 PEM 水電解設備の BOP 一式を受注	27
N : 氫羿能源、シリーズ B で数千万元を調達。PEM/AEM 水電解装置の生産能力拡大へ.....	27
N : 氫羿能源、東風汽車研究院向け PEM 水電解水素製造統合システムを出荷	28
N : 国家能源集団、江蘇省如東で洋上太陽光・水素・蓄電一体化プロジェクトを稼働.....	28
N : 呂梁市、水素ステーション網を大幅拡充 2035 年までに計 82 カ所へ.....	29
N : 派瑞氫能、河北省の水素エネルギー設備実証・検証プラットフォームに採択.....	30

N：中国能建、年産 50 万トン級グリーン燃料実証プロジェクトの建設開始	30
P：広東石化、水素回収装置で累計 102 億 Nm ³ の高純度水素を供給	31
A：中国水素業界が低迷する中、国有資本が水素分野への投資を加速	31
P：中広核新能、総合エネルギー島陸上試験基地（二期）の環境影響評価を公示	32
A：AI データセンター向け電源市場が拡大 SOFC など定置用燃料電池に新たな商機	32
P：中国石化、水素設備製造拠点を整備 PEM・ALK 電解槽計 2.75GW の生産能力を構築へ	33
P：国家電投、世界最大規模の単一ロットでグリーンアンモニアを韓国へ輸出	33
N：中国石化青島製油所、藍昆氫能と海上浮体式太陽光によるオフグリッド水素製造実証を推進	34
N：海珀特、燃料電池大型トラック「H49」の生産ラインを増強	35
N：江蘇省、研究開発から実証まで一体化した水素産業エコシステムを構築	35
N：研易氫能動力、航空機向け液冷燃料電池システムの開発加速へ 数千万元を調達	36
P：山西省朔州市、水素産業の実用化を加速 4 年以内に燃料電池大型トラック 1,000 台を普及	37
A：中国グリーンアンモニア産業、本格普及へ 輸出拡大と国内需要育成が課題	37
N：中国石化、烏蘭察布—京津冀水素輸送パイプライン天津区間の入札開始	39
N：中国能建、甘肅省蘭州新区でグリーン水素製造実証を本格展開	39
N：氫楓能源、湖北省・京港澳高速の大悟サービスエリア向け水素供給設備を納入	40
N：新疆・伊吾県、副生水素を活用した水素製造・充填拠点を拡充	40
N：華電集団、中国初の高圧・長距離グリーン水素パイプラインが建設終盤	41
N：陝西氫能、300 億元超を投じ定辺県でグリーン水素産業基地を建設	42
N：雷動智創、山西省初の大規模オフグリッド水素製造プロジェクト向け整流システムを受注	42
N：貴州省、30 万 t/年メタノール改修・再稼働プロジェクトの環境評価を受理	43
A：中国、全国総合実証都市クラスター選定を前に地方水素政策が加速	43
N：中国・潍柴動力、ベトナムで 5 つの技術戦略を発表、東南アジアのグリーン大型車市場を狙う ..	45
A：国家エネルギー局、「エネルギー分野 省エネルギー・炭素排出量削減行動計画」を発表	45

【参考資料】

A：遼寧省、「海洋経済発展」に関する 5 カ年規画を発表、2030 年までに海洋生産総額 8,000 億元 ..	47
--	----

＊略号について：目次のタイトル頭に記事内容を区分するための略号を付します。略号の意味は下記のとおりです。

A：新聞、雑誌記者による解説記事

N：ニュース記事（記者会見、インタビュー記事、記者による取材記事、展示会等の取材記事など）

P：プレスリリース、およびプレスリリースをもとに書かれた記事

＊燃料電池の種類を示す主な略号は以下のとおり。

PEFC（PEM）：固体高分子形燃料電池

AFC：アルカリ形燃料電池

SOFC：固体酸化物形燃料電池

ALK：アルカリ形水電解

DMFC：ダイレクトメタノール形燃料電池

SOEC：固体酸化物電解

MCFC：溶融炭酸塩形燃料電池

AEM：アニオン（陰イオン）交換膜電解

＊為替レート換算（2026年7月～12月）

ドル 160 円（豪ドル、カナダドル、香港ドルなどの表示がない場合は 156 円を採用）

ユーロ 185 円

ポンド 216 円

元 24 円

ウォン 0.11 円

＊中国の水素エネルギー・燃料電池関連サイトの紹介

https://www.china5e.com/new-energy/hydrogen/index_2.html

<http://www.mrhcn.cn/evzhuananyongche/>

<http://www.h2media.cn/>

<http://h2.china-nengyuan.com/>

<https://qn.bjx.com.cn/>

<https://www.gg-lb.com/>

<https://www.xnyauto.com/>

<https://newenergy.in-en.com/>

<https://www.ofweek.com/hydrogen/>

<http://www.trendbank.com/>

<http://www.qingyunlian.com/portal.php>

<http://www.zhongqinghulian.com/>

<https://spc.jst.go.jp/index.html> （科学技術振興機構・サイエンスポータルチャイナ：日本語）

【新刊案内】

2026 年版 中国 P2X プロジェクトリスト

◆発刊：2026年4月6日

◆体裁：Excel ファイル

◆購入形式：ダウンロード版／CD-R 版

◆価格：本体価格 90,000 円＋消費税（10%）

■ 本資料の特色

- 中国の Power to X プロジェクトの概要を各種資料からデジタルリサーチが独自に収集・増補・補完した 2025 年 12 月末現在の最新のプロジェクトデータを、計画が発表された年ごとにまとめたエクセルファイルで提供します。収録プロジェクト数は 438 件。

プロジェクトの計画発表の年	件数
2021 年までに計画が発表されたプロジェクト	50
2022 年に計画が発表されたプロジェクト	37
2023 年に計画が発表されたプロジェクト	76
2024 年に計画が発表されたプロジェクト	125
2025 年に計画が発表されたプロジェクト	150

● プロジェクトデータのサンプル

[illegible]

- エクセルファイルデータは、お客様ご自身で情報の付加、追加分析・スクリーニングが可能です。

● 調査項目

- (1) 正式なプロジェクト名（簡体字）
- (2) プロジェクト名称
- (3) プロジェクトの実施場所（省・都市など）
- (4) プロジェクト主導企業・参加企業・団体など
- (5) 水電解槽のタイプ
- (6) 水電解槽の容量（水素製造量・消費電力など）
- (7) 水電解槽メーカー
- (8) 施設の建設規模、水素生産能力など設備概要
- (9) 用途・最終製品の生産量

- (10) フェーズ・段階
- (11) 投資額
- (12) 再生可能エネルギーの種類
- (13) 再生可能エネルギーの容量
- (14) 特記事項
- (15) プロジェクトのサイト HP
- (16) 参考になるプロジェクト情報のアドレス

●サンプルデータ：2025 年に発表されたプロジェクト事例

1. 磴口陝耀氢能新能源有限公司風力太陽光発電・水素製造統合プロジェクト

- ・実施場所：内モンゴル自治区バヤンノール市磴口県
- ・参加企業：磴口陝耀氢能新能源有限公司
- ・水電解槽のタイプ：アルカリ型（1000Nm³/h×44 台）
- ・年間水素生産量：22448.8 万 Nm³
- ・用途：化学品原料
- ・段階・フェーズ：2025.1 承認／2025.4 着工
- ・投資額：30.17 億元（603 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量：風力発電（300MW）＋太陽光発電（200MW）
- ・参考 URL：https://finance.sina.com.cn/roll/2025-01-15/doc-inee2nmc7919111.shtml?utm_source=chatgpt.com

2. 中碳航投ホルチン右翼前旗風力太陽発電・水素・アンモニア・メタノール統合プロジェクト

- ・実施場所：（内モンゴル自治区ヒンガン盟ホルチン右翼前旗ヒンガン盟経済技術開発区）
- ・参加企業：中碳航投新能源（興安盟）有限公司
- ・水電解槽のタイプ：アルカリ型（110000Nm³/h）
- ・年間水素生産量：4.48 万 t
- ・用途：アンモニア生産（年産 25 万 t）
- ・段階・フェーズ：2025.1 承認
- ・投資額：6 億元（120 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量：風力発電＋太陽光発電
- ・参考 URL：<https://www.bhi.com.cn/News/ShowDetails.aspx?columns=6&id=90056557>

3. 晋儲（烏拉特中旗）新能源有限公司ガンツモッド口岸加工園區グリーン電力水素製造プロジェクト

- ・実施場所：内モンゴル自治区バヤンノール市ウラド中旗ガンツモッド口岸加工園區
- ・参加企業：晋儲（烏拉特中旗）新能源有限公司
- ・水電解槽のタイプ：アルカリ型
- ・年間水素生産量：
- ・用途：年間水素生産量 6 万 t
- ・段階・フェーズ：2025.1 承認

- ・投資額：57 億元（1,140 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量：
- ・参考 URL：

https://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzA5NzMwODcyMA==&mid=2650396991&idx=2&sn=b1a6e02b81c392ff3d25878a1bdb686b&chksm=88afa060bfd829766707dcd31c5cc25d7543b5eb19263287d72710958361d0b9915644af4207&scene=27

4. 内モンゴル宝豊風力太陽光発電・水素製造プロジェクト 1 期水電解水素製造工程

- ・実施場所：内モンゴル自治区オルドス市ウーシン旗蘇里格経済開発区
- ・参加企業：内蒙古宝豊煤基新材料有限公司
- ・水電解槽のタイプ：アルカリ型（120000Nm³/h）
- ・年間水素生産量：6.09 万 t
- ・用途：オレフィンプロジェクトに原料として供給。グレー水素を代替
- ・段階・フェーズ：2025.3 承認／2025.4 着工
- ・投資額：18.3574 億元（366 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量：風力発電（500MW）／太陽光発電（500MW）
- ・参考 URL：

https://mp.weixin.qq.com/s?__biz=MzA3OTU0MTgwMw==&mid=2652166885&idx=5&sn=12a0d2f78a74d01b5c1f556de1963e15&chksm=85c97a706b9a30ddd2b6360e54286daed51da890dc94a3ed30bfe22b1677b12033223957b258&scene=27

5. 水木明拓グリーン水素由来 80 万 t グリーンアンモニア製造実証プロジェクト

- ・実施場所：内モンゴル自治区包頭市ダルハンムミンガン巴潤工業園区
- ・参加企業：水木明拓（達茂）氫能源科技有限公司
- ・水電解槽のタイプ：
- ・年間水素生産量：
- ・用途：アンモニア生産（年産 80 万 t）
- ・段階・フェーズ：2025.3 承認
- ・投資額：24 億元（480 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量：
- ・参考 URL：

https://mp.weixin.qq.com/mp/wappoc_appmsgcaptcha?poc_token=HBHq1WmjgBtSVycEdfaPDie9ayRiyd_opOfzDzbK&target_url=https%3A%2F%2Fmp.weixin.qq.com%2Fs%3F__biz%3DMzA5NzMwODcyMA%3D%3D%26idx%3D2%26mid%3D2650398549%26sn%3D49f223707859256613a9683a00aa1b7c

6. ウラド後旗 500MW 風力発電・水素製造・アンモニア合成実証プロジェクト

- ・実施場所：内モンゴル自治区バヤンノール市ウラド後旗工業園区
- ・参加企業：烏拉特後旗元氫風能有限公司
- ・水電解槽のタイプ：

- ・年間水素生産量： 2.4 万 t
- ・用途：アンモニア生産（年産 17 万 t）
- ・段階・フェーズ：2025.3 承認
- ・投資額：16.21 億元（324 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量： 風力発電（500MW）
- ・参考 URL：<https://caifuhao.eastmoney.com/news/20250327143829827071780>

7. アロン旗風力発電・水素製造統合プロジェクト水素製造プラントプロジェクト

- ・実施場所：内モンゴル自治区フルンボイル市アールン旗工業園區
- ・参加企業：晋儲（阿榮旗）新能源有限公司
- ・水電解槽のタイプ： 174000Nm³/h
- ・年間水素生産量： 4.7 万 t / 水素貯蔵能力 70t
- ・用途：
- ・段階・フェーズ：2025.3 承認
- ・投資額：45 億元（900 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量： 風力発電
- ・参考 URL：https://www.sohu.com/a/874442579_121682800?utm_source=chatgpt.com

8. 齊齊哈爾瀚雅氫醇新能源有限公司風力発電・水素製造・グリーンメタノール合成統合（化学工業）プロジェクト

- ・実施場所：黒竜江省チチハル市訥河經濟開發区
- ・参加企業：齊齊哈爾瀚雅氫醇新能源有限公司
- ・水電解槽のタイプ：
- ・年間水素生産量：
- ・用途：メタノール生産（年産 62 万 t） / SAF 生産（年産 4 万 t）
- ・段階・フェーズ：2025.1 承認
- ・投資額：84.29 億元（1,685 億円）
- ・使用エネルギー・発電容量： 風力発電
- ・参考 URL：<https://www.ne21.com/com/liuyingli/article/itemid-217114.html>

【中国の水素エネルギー・燃料電池情報】

2026-07-24 北極星氢能網、赤峰市プレスリリース

P： 内蒙古華電、微生物タンパク製造プロジェクトを推進

⇒<https://news.bjx.com.cn/html/20260724/1505807.shtml>

⇒赤峰市プレスリリース

https://www.chifeng.gov.cn/zwgk/xxgkzl/fdzdgknr/zdxmjs/zdxmjsxx/202607/t20260723_2795780.html

内蒙古華電蒙東有限公司は、総投資額 7.18 億元（約 172.3 億円）で、73.25MW の風力・太陽光発電・蓄電統合システムと、水素製造・貯蔵設備、微生物タンパク製造設備を組み合わせたプロジェクトを推進する。独自技術を活用し、グリーン水素と工業排ガス中の二酸化炭素を原料として微生物発酵により飼料用タンパクを製造し、低炭素微生物タンパク技術の工業化・大規模商業化を目指す。プロジェクト完成後は、年間約 4.5 万 t の二酸化炭素を利用して年間 1.5 万 t の微生物タンパクを生産する計画である。製品は細胞壁破碎処理後、粗タンパク含有率 65～70%、タンパク消化率 91.3%を実現し、輸入高品質魚粉に匹敵する品質を有する。プロジェクトは 2026 年 11 月着工、2028 年 6 月完成・稼働を予定し、全面稼働後は年間生産額 1.95 億元（約 46.8 億円）、年間納税額約 3,000 万元（約 7.2 億円）を見込む。（出典）北極星氢能網（北极星氢能网）

2026-07-23 北極星氢能網

N： 東営市で風力太陽光発電連携グリーンメタノール統合プロジェクトが調印

⇒<https://news.bjx.com.cn/html/20260723/1505582.shtml>

⇒<https://news.dongyingnews.cn/system/2026/07/23/010893762.shtml>

2026 年 7 月、山東省東営市の東営経済技術開発区において、風力太陽光発電連携グリーンメタノール統合プロジェクトの調印式が行われた。大唐山東発電有限公司、国網電力工程研究院有限公司、国網山東省電力公司、中集安瑞科控股有限公司（中集安瑞科）などが参加し、東営市の風力太陽光発電資源と工業園區のインフラを活用したグリーンメタノール産業プロジェクトを共同で推進することで合意した。プロジェクトでは、新エネルギーによるグリーン水素、グリーンアンモニア、グリーンメタノールなどの産業化を進めるほか、グリーン化学工業や水素系エネルギー産業を育成し、東営市の新型エネルギー経済実証区の形成を目指す。（出典）北極星氢能網（北极星氢能网）

2026-07-23 国際氢能網、中国政府プレスリリース

P： 中国、再生可能エネルギー発展第 15 次 5 カ年計画を発表

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446350.shtml>

⇒中国政府プレスリリース https://www.gov.cn/lianbo/202607/content_7076401.htm

中国国家發展改革委員会と国家能源局は 2026 年 7 月、「再生可能エネルギー發展第 15 次 5 年計画」を公布し、2030 年までに全国の再生可能エネルギー由来水素製造規模を 200 万 t とする目標を示した。風力太陽光発電資源、炭素源、水資源、輸送・充填インフラなどを総合的に考慮し、グリーン水素、グリーンアンモニア、グリーンメタノールの生産拠点を配置する。東北地域では域外供給型、甘肅・寧夏・内蒙古・陝西・山西の黄河流域、華北北部、天山山脈北麓などでは近隣利用型の生産拠点を重点的に整備する。風力太陽光発電による水素製造では、弱連系型とオフグリッド型を奨励し、貯蔵・輸送体系や港湾・空港のグリーン燃料供給インフラも構築する。工業分野ではグリーン水素・アンモニア・メタノールの大規模利用や天然ガスへの水素混合を推進し、交通分野では水素、メタノール、アンモニア、持続可能な航空燃料などの供給・利用拡大を図る。

(出典) 国際氢能網 (国際氢能网)

2026.7.27 sustainablejapan

A: 中国政府、再エネ 5 年計画発表。2030 年までに太陽光・風力で発電量 30%確保

⇒ <https://sustainablejapan.jp/2026/07/27/china-renewable-energy-4/128607?amp>

⇒ 「再生可能エネルギー發展第 15 次 5 年計画」

https://www.ndrc.gov.cn/xxgk/zcfb/tz/202607/t20260723_1406641.html

中国国家發展改革委員会と中国エネルギー局は 7 月 23 日、「再生可能エネルギー發展第 15 次 5 年計画」を 7 月 6 日付けで発出した。再生可能エネルギーを中核的なエネルギー源として位置づける国家計画を示した。

同計画では、再生可能エネルギーを太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、地熱発電、太陽熱発電、水力発電等と定義。原子力発電は含まない。その上で、2030 年までに、再生可能エネルギー消費量を標準炭換算で約 18 億 t、発電設備容量を約 35 億 kW、年間発電量を約 6 兆 kWh まで拡大する目標を設定した。そのうち、風力発電・太陽光発電の設備容量を、全体の 50%以上となる 28 億 kW 以上、年間発電量は総発電量に占める割合を 30%以上とする 4 兆 kWh 以上を目指す。

水力発電は 5.7 億 kW (そのうち揚水発電は 1.6 億 kW)、太陽熱発電は 1,500 万 kW、海洋エネルギー発電は 40 万 kW とする目標を設定。これにより、非電力利用を 2025 年比 1.5 倍の約 1.5 億 t 標準炭とし、再生可能エネルギー由来の水素生産量を 200 万 t 以上へ拡大する。

発電設備の拡大では、集中型と分散型、陸上と海上、現地消費と地域外送電を組み合わせる。「三北」と呼ばれる華北、東北、西北地域では、砂漠、ゴビ、荒漠地帯を中心に風力・太陽光基地を建設し、期間中に 3.7 億 kW 以上を追加。新疆ウイグル自治区、黄河上流、河西回廊、黄河の「几字湾」、冀北、松遼、チベット等で大規模発電所を形成し、送電網整備、現地産業、砂漠化対策を一体化する。

洋上風力発電については、期間中に約 1 億 kW を新規着工し、2030 年の累積設備容量を 1 億 kW 以上とする。渤海、黄海、東海、南海の沿岸及び遠洋海域で開発を進め、洋上太陽光発電、海洋牧場 (マリンランディング)、海水淡水化、海洋油田、海底データ処理設備等との複合利用も推進する。

水力発電は、水力発電の調整能力と風力発電・太陽光発電を組み合わせた「水・風・光一体型基地」を主要流域に整備する。中東部・南部では、工業団地、鉱区、交通インフラ、公共建築、住宅、

農村等を活用して分散型再生可能エネルギーを 3 億 kW 以上追加する。建物一体型太陽光発電、ゼロカーボン道路、農村風力・太陽光等を普及させ、土地や空間の複合利用を図る。さらに、バイオマス発電の熱供給型への転換、太陽熱発電の規模拡大、潮流、波力、海洋温度差等の海洋エネルギーの実証・商用化も進める。

再生可能エネルギーのベース電源化については、2030 年までに、蓄電設備を含めた複数の発電設備を組み合わせ、風力・太陽光の全国平均保証出力を 8%、夏冬の夕方の需要ピーク時における発電量比率を 20%以上とし、5 年間で 3 億 kW 以上の確実なピーク供給能力を確保する。新設する大型風力・太陽光発電所の保証出力は原則 10%以上とし、条件の整った案件では 20%超を推奨する。発電所には電圧、周波数、慣性等を支える能力を持たせ、既存設備についても系統対応性能を改修する。これらとともに、風力発電と太陽光発電の併設、太陽熱やバイオマスとの協調運用、蓄電設備の活用を進め、揚水発電は期間中に約 1 億 kW を新規稼働させる。一方、需要側でも工場やデータセンターの柔軟な運転、価格による需要移行、仮想発電所、車両と電力網の双方向連携、グリーン電力直結、スマート・マイクログリッドを普及させる。

非電力利用では、再生可能エネルギーを産業用燃料、原料、熱源として利用する。風力・太陽光資源、水資源、炭素源、輸送条件を考慮してグリーン水素、アンモニア、メタノールの生産基地を配置し、港湾や空港に貯蔵、輸送、充填設備を整える。工業分野では太陽熱集熱、蓄熱、電気炉等による熱供給を進め、住宅や建築物では「風力・太陽光+蓄熱式電気ボイラー」やヒートポンプを活用する。バイオマスについては、農林廃棄物や生ごみからの熱供給、バイオ天然ガス、バイオディーゼル、非食料由来エタノール、持続可能な航空燃料への利用を拡大する。地熱についても、浅層地熱の集団利用と中深層地熱の段階的利用を進め、地下環境への影響を最小化する。

消費側では、重点産業に再生可能エネルギー電力の最低消費比率を課し、対象分野を段階的に広げる。非電力利用についても将来的に対象とする考え。さらに、グリーン電力証書、グリーン電力認証、住民向け料金メニュー等を通じて自発的な再生可能エネルギー消費を促し、公共機関、主要企業、多国籍企業、大規模イベントによる利用拡大を図る。

技術・産業政策では、AI による気象・発電予測、複数電源の統合運用、系統形成型技術、極端気象への耐久性を重点的に強化する。高性能風車、浮体式洋上風力、ペロブスカイト積層型太陽電池、高揚程揚水設備、グリーン水素・アンモニア・メタノール、地熱、海洋エネルギー等の研究と国産化を進めつつ、退役設備のサーキュラーエコノミー利用や標準・認証制度も整える。企業には、予測精度や市場取引能力を高め、長期電力購入契約などを活用した市場型運営への転換を求める。

2026-07-24 国際氢能網、穩石氢能プレスリリース

P： 穩石氢能、オランダ向け AEM 水素製造装置を追加受注

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446353.shtml>

⇒穩石氢能プレスリリース <https://wenstoneh2.com/newsinfo/11259629.html>

深圳穩石氢能科技有限公司（穩石氢能）は 2026 年 7 月 22 日、オランダ向け AEM 水素製造装置 3 台を出荷した。これは欧州市場で初となる追加受注案件であり、最新設計を採用した第 2 世代（2.0）製品を納入する。新型装置は現地農場向けに制御性能、熱マネジメント、熱電併給システムを最適化

しており、2023 年以降の累計商用運転時間 20,000 時間で得られた実運転データを基に、材料、電池スタック、製造プロセス、システム統合制御などを改良した。

穏石氢能は kW 級から MW 級までの製品を展開し、欧州の農場、家庭用エネルギー貯蔵、小規模工業団地などの分散型市場に対応する。今回導入するシステムは、農場の余剰太陽光発電でグリーン水素を製造・貯蔵し、燃料電池で発電するとともに排熱を畜舎や温室へ供給する熱電併給システムを採用し、総合効率 90%以上に達するとしている。

欧州でのリピート受注は、中国製 AEM 水電解装置が実証段階から商業化段階へ移行したことを示す事例と位置付けられており、同社は今後も欧州の分散型グリーン水素市場への展開を加速する方針である。（出典）国際氢能網（国際氢能网）

2026-07-24 国際氢能網、山東省プレスリリース

P： 山東省、「新エネルギー分野シーン構築実施方案」を公布

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446371.shtml>

⇒山東省プレスリリース http://nyj.shandong.gov.cn/art/2026/7/20/art_100393_10312676.html

山東省能源局は 2026 年 7 月、「山東省新エネルギー分野シーン構築実施方案」を公布し、グリーン水素・グリーンアンモニア・グリーンメタノールの産業化を重点施策に位置付けた。風力太陽光発電、バイオマス、水資源に恵まれた地域で「グリーン電力―グリーン水素―グリーンアンモニア／グリーンメタノール」の産業チェーンを構築し、グリーン化学原料や持続可能な航空燃料の大規模生産を進める。鉄鋼、石油化学、建材、非鉄金属などではグリーン電力、電化、グリーン水素への転換を推進する。また、高速道路沿線に太陽光発電、蓄電、充電、バッテリー交換、水素充填を統合した拠点を整備する。さらに、原子力による水素製造や、排熱、排圧、余剰ガスの循環利用も促進する。省級の代表的応用シーンとして、水素エネルギー関連プロジェクト 10 件も選定した。

	プロジェクト名	事業主体	重点分野	所在市
1	海水水素製造・臨港産業マルチエネルギー連携コア技術パイロット実証プロジェクト	山東日照大旺清潔能源有限公司	クリーンエネルギー高効率開発・利用シーン	日照市
2	青島華電水素系海上総合エネルギー島プロジェクト	華電山東新能源有限公司	新エネルギー多元転換シーン	青島市
3	国家電投蔵馬 50MW グリーン電力水素製造プロジェクト	国電投（山東）新能源開発有限公司	新エネルギー多元転換シーン	青島市
4	オフグリッド型水素・電力連携スーパー蓄電・超急速充電統合実証プロジェクト	煙台東徳実業有限公司	新エネルギー多元転換シーン	煙台市

5	山東裕龍石化グリーン電力水素製造プロジェクト	山東裕龍石化有限公司	新エネルギー多元転換 シーン	煙台市
6	グリーン電力・グリーン水素重化学工業園 区エネルギー連携実証プロジェクト	国網山東省電力公司	新エネルギー多元転換 シーン	東営市
7	日照市グリーン水素チェーンハイエンド化 学産業園「電源・送電網・負荷・蓄電」統 合プロジェクト	清能鏈綠色化学（日照） 有限公司	新エネルギー多元転換 シーン	日照市
8	山科融発年産 2 万 t グリーン水素・メタノ ール統合実証プロジェクト	山東山科融発中試基地有 限公司	新エネルギー多元転換 シーン	日照市
9	山東省威海市乳山グリーン水素製造・貯 蔵・利用ゼロカーボンエネルギー融合実証 プロジェクト	乳山市發展改革局	新エネルギー多元転換 シーン	威海市
10	金風緑能化工山東昌邑年産 50 万 t グリー ンメタノールプロジェクト	金風緑醇化工（昌邑）有 限公司	新エネルギー多元転換 シーン	濰坊市

（出典）国際氢能網（国際氢能网）

2026-07-24 国際氢能網

N：大維能源、年産 50 万 t グリーンメタノール実証プロジェクトを実施

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446372.shtml>

⇒https://k.sina.cn/article_5953466437_162dab0450670b4b9e.html

張掖市大維能源有限公司（大維能源）は 2026 年 7 月、中国化学工程成達公司（成達公司）と「工業排ガス資源化利用と再生可能エネルギーによるグリーン水素・グリーンメタノール製造実証プロジェクト」の契約を締結し、着工会議を開催した。同プロジェクトは、製鉄所排ガスとグリーン水素を組み合わせたグリーンメタノール製造プロジェクトで、甘肅省張掖市経済技術開発区循環経済実証園区に建設される。成達公司の独自低圧メタノール合成技術と 10,000Nm³/h 級の水電解水素製造装置を採用し、風力太陽光発電由来のグリーン水素と精製した工業排ガスからグリーンメタノールを製造する。完成後は年産 50 万 t の生産能力を形成する計画である。調印後には、新エネルギー・冶金・化学工業の統合プロセス、主要技術、設計工程、施工計画などについて協議し、今後の推進体制を確認した。（出典）国際氢能網（国際氢能网）

2026-07-28 国際氢能網

N：佳邑華氫、高純度水素充填システムを発表

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446373.shtml>

佳邑華氫科技有限公司（佳邑華氫）は、大型高速高純度水素充填システム「JH-PureFast 45」を発表した。スキッド型の一体構造を採用し、昇圧、4段階精製、インテリジェント冷却、安全インターロック、流量計測の 5 つの機能を一体化した。出口水素純度 99.999%以上を維持しながら、40L・15MPa

（20MPa 対応）の標準水素ポンペを 45 分以内で充填できる。20 本のポンペを同時充填できるほか、コリオリ質量流量計による高精度制御や、防爆中央制御画面、多重安全インターロックを備え、無人運転にも対応する。用途として、水素ステーション、工業ガス充填センター、水素燃料電池車両向けポンペ充填、グリーン水素プロジェクト、非常用・移動式水素供給設備などを想定しており、高速充填による設備稼働率向上と水素供給インフラの効率化を図る。

（出典）国際氢能網（国際氢能网）



2026-07-23 碳索氢能網

N：内モンゴル自治区、グリーン水素プロジェクト 3 件が相次ぎ承認

⇒<https://h2.solarbe.com/news/20260723/50026357.html>

内モンゴル自治区でグリーン水素関連プロジェクト 3 件が相次いで承認され、総投資額は 48 億元（1,152 億円）を超えた。7 月 16 日、中国電建集団北京勘测設計研究院有限公司による九原区水素製造・貯蔵統合実証プロジェクトが承認された。包頭市九原区で総額 14.69 億元（約 352 億円）を投じ、年産 7,366t の水素製造設備や 16.89 万 Nm³ の水素貯蔵設備、水素技術研究開発センターなどを整備する。7 月 20 日、俊瑞緑氢能源（察哈爾右翼後旗）有限公司による年産 8 万 t グリーンアンモニア生産拠点プロジェクトが承認された。ウランチャブ市チャハル右翼後旗で総投資額 9.05 億元（約 217 億円）の年産 8 万 t グリーンアンモニアプロジェクトを建設する。上流の風力太陽光発電・水素製造統合プロジェクトから供給されるグリーン水素を利用する。7 月 22 日、中煤緑能科技（烏蘭察布）有限公司による商都県 120 万 kW 水素由来グリーン燃料グリッド接続型グリーン電力直結プロジェクトが承認された。総投資額は 24.26 億元（約 582 億円）で、水素製造ステーションや工場、付帯施設を整備する。（出典）碳索氢能網（碳索氢能网）

2026-07-23 国際氢能網

N：北奔重汽、300kW 水素燃料電池大型トラクターが完成

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446366.shtml>

⇒<https://h2.in-en.com/html/h2-2446368.shtml>

2026 年 7 月、北奔重型汽車集團有限公司（北奔重汽）と上海重塑能源科技有限公司（重塑能源）が共同で開発した、300kW 水素燃料電池大型トラクターが完成した。このトラックは、300kW 燃料電池システムと駆動用バッテリーを組み合わせたデュアル動力システムを採用し、燃料電池エネルギーマネジメント技術により水素供給と動力配分をリアルタイムで最適化する。燃料電池の最高効率率は 65.9%、耐久寿命は 15,000 時間で、49t 積載の長距離輸送や山岳・鉾山区間でも高い走行性能を発揮する。6-in-1 統合電気制御システムやデュアルモーター、専用変速機を組み合わせ、電気制御効率 98%を実現するとともに、水素消費量と運行コストを低減する。水素貯蔵システムは 35MPa・タイプ III 炭素繊維複合材タンク 6 本を搭載し、総貯蔵量 56.16kg、15~20 分での水素充填と 400km 超の航続距離を実現した。熱マネジメントでは電動駆動システム、駆動用バッテリー、燃料電池スタックの 3 系統に、それぞれ独立した液冷式熱マネジメントシステムを採用し、-35℃から高温環境まで安定した出力を維持する。さらに、軍用 NG09 大型車プラットフォームをベースとした高強度 3 層フレームや軽量構造、モジュール化設計、3 段階防振サスペンションを採用することで、高い積載性能と耐久性を確保し、運行・保守コストの低減を図っている。（出典）国際氢能網（国際氢能网）



2026-07-24 全球氢能網

N：吉利汽車、瀋陽でメタノール新エネルギー車生産拠点を稼働

⇒<http://h2.china-nengyuan.com/news/252514.html>

⇒<https://cj.sina.com.cn/articles/view/7879776594/1d5abd95201901r91o>

瀋陽吉利汽車有限公司は東北地域初のメタノール新エネルギー車生産拠点として瀋陽スマート工場を稼働させた。工場の設計生産能力は年産 30 万台で、EV、ハイブリッド車、メタノール車などを生産する。量産中の「銀河星耀 6EF」は 1.5L メタノール専用エンジンを搭載したプラグインハイブリッド車で、メタノール、電力、ガソリンの使用に対応し、マイナス 40℃でも安定始動が可能。メタノール消費量は 100km 当たり 2.8L、走行コストは 1km 当たり 0.2 元未満としている。瀋陽市では 20 カ所以上のメタノール充填ステーションが稼働しており、2026 年末までに 50 カ所へ拡充する計画。吉利汽車は中国石油や瀋陽燃気と連携し、燃料供給網やサプライチェーンを整備することで、東北地域初のメタノール自動車産業チェーンの構築を進める。（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-24 全球氢能網

N： 青海省の高地「太陽光・水素・蓄電統合プロジェクト」、累計発電量 42.4 億 kWh を達成

⇒<http://h2.china-nengyuan.com/news/252479.html>

⇒https://epaper.tibet3.com/qhrb/html/202607/24/content_278815.html

海西モンゴル族チベット族自治州エネルギー局によると、中国初の高地における太陽光発電・水素・蓄電統合プロジェクトの累計発電量が 42.4 億 kWh に達した。同プロジェクトは青海省デリンハ市に位置し、総投資額 48 億元（約 1,152 億円）。合計 100 万 kW の太陽光発電設備に加え、3MW の水素製造ステーション、330kV 昇圧変電所、270MW/1,080MWh の蓄電所を整備している。大規模太陽光発電、グリーン水素製造・貯蔵・利用を統合した「電源・送電網・需要・蓄電・水素」一体型エネルギーシステムを構築し、高地でのグリーン水素製造や再生可能エネルギーの有効利用に関する実証を進めている。（出典）全球氢能網（全球氢能網）

2026-07-24 全球氢能網

N： 海卓新能源、シリコン系セパレータ採用の水素燃料電池システムを発表

⇒<http://h2.china-nengyuan.com/news/252476.html>

⇒<https://finance.sina.com.cn/roll/2026-07-24/doc-iniiwvke9233528.shtml>

浙江海卓新能源科技有限公司（海卓新能源）は 2026 年 7 月、上海国際低空経済博覧会でドローン専用燃料電池システム「硅翼シリーズ」を発表した。同製品は中小型物流ドローンや巡視ドローン向けで、閉陰極構造と独立冷却風路を採用し、電池スタック出力 3.6kW、システム出力 3kW、電池スタック重量 2.5kg 未満、システム重量 6kg 未満を実現した。従来の閉陰極空冷式水素燃料電池は、重量や容積、環境適応性の面で課題があったが、海卓新能源は独自のシリコン系セパレータ技術により、材料、構造、製造プロセスの面から電池スタックを再設計し、高集積電力制御システムを開発した。電気化学性能と放熱性能を維持しながら、電池スタック、電力制御装置、冷却部品の小型・軽量化を実現し、ドローンのほか、ポータブル電源、バックアップ電源、分散型水素発電などへの展開も可能としている。

また、星展測控、聯合飛機、日本 IAE drone、天能氢能、文景能源と戦略提携を締結し、25kg 級水素ドローン 1,000 機規模の導入、大型水素ドローンの共同開発、日本市場やアジア市場での水素ドローン・水素発電事業、世界での分散型水素発電プロジェクトを推進する。これにより、同社はシリコン系セパレータ技術の商業化とグローバル展開を加速する。（出典）全球氢能網（全球氢能網）



2026-07-24 全球氢能網

N：大陸制氢、3,000Nm³/h 級アルカリ型電解槽を発表

⇒<http://h2.china-nengyuan.com/news/252457.html>

⇒<https://economy.enorth.com.cn/system/2026/07/22/059589826.shtml>

天津市大陸制氢設備有限公司（大陸制氢）は 2026 年 7 月、定格水素製造能力 3,000Nm³/h のアルカリ型電解槽 ALK FDQ-3000/1.6 を発表した。単槽当たりの水素製造能力は従来製品の 3 倍で、必要設備台数や工場用地、付帯設備投資を削減できるため、大型の風力太陽光発電による水素製造プロジェクトに適する。定格運転時の直流消費電力は 4.3kWh/Nm³ 未満で、中国国家標準の 1 級エネルギー効率基準に適合する。また、負荷調整範囲を従来の 30% 下限から 25~120% へ拡大し、再生可能エネルギーの出力変動への追従性を向上させたことで、グリーン電力の消費拡大や出力抑制の低減、大型実証プロジェクトの長期安定運転に対応する。大陸制氢は、本製品を通じて風力太陽光発電による大型水素製造市場への展開を加速する方針である。（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-24 全球氢能網

N：中集安瑞科、水素含有ガス発電用動力モジュールを発表

⇒<http://h2.china-nengyuan.com/news/252455.html>

⇒https://k.sina.com.cn/article_5953466437_162dab0450670b4di2.html

中集安瑞科傘下の中集安瑞科能源系統（上海）有限公司と山東科美動力科技有限公司（山東科美）は 2026 年 7 月、水素含有ガス発電用動力モジュール「CIMC-16V-HEG」を発表し、市場協力協定を締結した。この製品は、両社が共同で設立した研究センターが開発したもので、工業副生の水素含有排ガス、天然ガスへの水素混合、純水素、バイオマス由来水素リッチガス、コークス炉ガスなどを利用する発電用途に対応する。逆火、ノッキング、シリンダー出力の不均衡、発電効率の低さなど、水素含有排ガス発電における技術課題を解決し、安全性と運転効率を向上させた。中集安瑞科は発電事業を成長分野と位置付け、工業排ガス利用発電やエネルギーの製造から利用までを含む総合ソリューションを展開している。新製品は SL 低炭素エネルギーステーションシステムや、中集安瑞科が推進する鉄鋼・コークス統合クリーンエネルギー事業にも採用され、工業副生の水素含有ガスの高付加価値利用と分散型エネルギーシステムの普及を促進する。（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-06-11 OFweek 氢能網

N：中国電建北京院、包頭市九原区の年産 7,366t グリーン水素プロジェクト承認取得

⇒<https://www.ofweek.com/hydrogen/2026-07/ART-180820-12000-30695670/html>

⇒<https://www.ne21.com/news/show-229185.html>

内モンゴル自治区は 2026 年 7 月、中国電建集団北京勘测設計研究院有限公司（北京院）が包頭市九原区で推進する水素製造・貯蔵統合実証プロジェクトを承認した。総投資額は 146,953 万元（約 352

億円)で、2026年10月着工、2028年12月の完成・稼働を予定している。プロジェクトでは年産7,366tのグリーン水素製造設備、16.89万Nm³の水素貯蔵設備に加え、水素製造試験プラットフォーム、水素貯蔵・圧縮エリア、水素品質検査センター、水素エネルギー技術研究開発センターなどを整備する。生産した水素は化学工業や水素交通向けに供給する。

中国電建はグリーン水素プロジェクト投資とEPC総請負を柱に、水素製造から貯蔵・輸送、利用までを含むバリューチェーンを展開している。現在、内モンゴル自治区、甘粛省、湖北省、江西省などで少なくとも10件のグリーン水素プロジェクトを推進しており、海外ではウズベキスタン・タシケントのグリーン水素プロジェクトも進めている。2025年は戦略的新興産業への新規投資比率が70%超、新規契約額比率が50%超となった。売上高は6,456.04億元(約15兆4,945億円)であった。2026年第1四半期の売上高は1,452.37億元(約3兆4,856億円)、1～5月の新規契約額は4,155.08億元(約9兆9,721億円)となった。海外事業では、2025年の売上高が22.49%増、純利益が68.4%増、2026年1～5月の海外新規契約額は34.18%増となった。(出典)OFweek氢能網(OFweek氢能网)

2026-07-23 高工氫電網

A：2026年、中国の国有資本による水素産業への参入が加速

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/MnXoFbkv8GepQGjVszSVvw>

2026年に入り、中国では国有資本による水素産業への参入が急速に拡大しており、水素業界における新たな潮流となっている。国有資本の参入形態は、大きく二つに分けられる。一つは、全額出資または共同出資による子会社の設立や関連事業の開始を通じて、水素バリューチェーンへ直接参入する動きである。もう一つは、株式取得や増資などを通じて、既存の技術系民間企業やスタートアップへ出資し、その成長を支援する動きである。2026年に確認された主な事例を表1、表2に示す。

表1 国有資本による水素関連子会社の設立・新規事業参入状況

時期	企業名	出資・設立主体	主な事業・特徴
	江蘇馭氫氢能科技有限公司	揚州経済開発区科技招商中心有限公司(60%、揚州緑投集団傘下の国有企業)、天合元氫(揚州)科技有限公司(40%)	水素関連技術事業を展開。
	濰坊市国和能源有限公司	濰坊燃気集団(67.5%)、山東安喬氢能科技有限公司(32.5%) 濰坊燃気集団は濰坊国金能源有限公司傘下で、実質支配者は濰坊市寒亭区国有資産運営中心	新エネルギー技術の研究開発、水素ステーション向け水素充填・貯蔵設備の販売などを手掛ける。
	中能建(酒泉)新能源有限公司	中国電力工程顧問集団有限公司(90%、中国能源建設(中国能建)傘下)、巨靈新能源(酒泉)有限公司(10%)	発電事業、水素ステーション向け水素充填・貯蔵設備の販売、送電事業などを展開。

時期	企業名	出資・設立主体	主な事業・特徴
6 月	広安能投氢能科技有限公司	広安能源投資有限公司（45%、市属国有企业）、広安玖源綠色化工有限公司（35%）、成都泰坦弘正科技有限公司（20%）	工業副生水素の活用、新エネルギー技術開発、水素装置製造、水素充填・貯蔵設備の運営、エネルギー貯蔵技術サービスなどを推進し、「広安ゼロカーボン水素実証基地」の構築を目指す。
5 月	南網能源公司（水素事業開始）	中国南方電網有限責任公司傘下。実質支配者は国務院国有資産監督管理委員会（国資委）	グリーン電力由来水素事業を正式に開始。多エネルギー協調利用やグリーン発展に対応した水素利用製品・サービスの開発と産業基盤整備を推進。
4 月	中煤（綏徳）新能源有限公司	中煤能源が間接 100%出資。中煤能源は国資委所管の中央企業	風力発電、バイオマスエネルギー、発電技術、エネルギー貯蔵技術、水素ステーション向け水素充填・貯蔵設備販売などを展開。
4 月	臨沂鋼投氢能科技有限公司	臨沂鋼投新能源有限公司が 100%出資。同社は国有企业である臨沂鋼鉄投資集団有限公司傘下	水素関連事業を展開。
4 月	華能登峰工投（寧都）新能源有限責任公司	華能国際電力股份有限公司、寧都県登峰工業投資有限責任公司（県財政局 100%出資の国有資産運営会社）	再生可能エネルギー事業に加え、水素ステーション向け水素充填・貯蔵設備販売を中心に、水素インフラ事業へ参入。
4 月	重慶沙興鉅能能源有限公司	重慶沙興能源有限公司（51%）、中国石化販売股份有限公司（49%）	エネルギー事業を展開し、水素分野への参入を推進。

表 2 国有資本による水素技術系民営企業・スタートアップへの出資状況

対象企業	出資主体（国有資本）	概要
協氫（上海）新能源科技有限公司	成都交通投資集団有限公司傘下の成都交投資本管理有限公司	池州新興産業投資集団が保有する協氫新能源株式約 3%を成都交投資本が取得。
瀚氫動力（珠海）科技有限公司	合肥産投集団傘下の創新投資・産投資本、および廬陽科創集団	A++ラウンドで数千万元（2.4 億円以上）を調達。合肥市国有資本の主要投資プラットフォームが共同出資し、水素関連技術企業への投資を強化した。
鷺島氢能	廈門市国有資本系産業基金	A+ラウンドを完了。廈門市国有資本系産業基金が新たに出資し、技術開発の高度化と生産能力拡大を支援した。
上海安池科技有限公司	青島市系国有投資プラットフォームの新泊控股集团、誠志股份、華徳資本（産業投資ファンド経由）	A+ラウンドを完了。青島市系国有投資プラットフォームを中心とする産業投資ファンドが出資し、成長資金を供給した。

（出典）高工氫電網（高工氢电网）

A：水素内燃エンジンの実用化が加速：主要開発動向と燃料電池との比較

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/-4hSc-rbeD6hWX_LBdLhEg

2026 年は、水素内燃機関の開発・実用化が重量級商用車や内陸河川船舶を中心に大きく進展した。中国メーカーは既存のディーゼルエンジン技術を活用した低コスト化を強みに実用化を進める一方、海外メーカーは既存車両の改造による導入を推進している。さらに、船舶分野でも実証プロジェクトが始動しており、水素内燃機関の適用分野は着実に広がりつつある。主な開発事例を表に示す。

企業	製品・プロジェクト	主な内容・特徴	開発・導入状況
潍柴動力	水素内燃機関「WP15」	中国の「国 6」排出ガス規制の全ての主要認証を取得した重量級水素内燃機関。排気量 14.6L、最大出力 600 馬力、最大トルク 2,800N・m、最高熱効率 46.8%。部品の 90%以上をディーゼルエンジンと共通化し、製造コストを抑制。	実用化段階。
一汽解放	水素内燃機関「CA6HV3」	CO ₂ 排出ゼロと超低排出ガスを両立。窒素酸化物（NO _x ）排出量は国 6 規制値の 5%に抑制。幹線物流や重積載走行などを含む 10 万 km の実車走行試験を完了。	実証・検証を完了。
玉柴氢能	水素内燃機関シリーズ（「YCK06H」など）	小型・中型車向け 6L から大型車向け 15L まで製品を展開。既存ディーゼルエンジン生産ラインを活用でき、新工場建設は不要。従来型トラックや建設機械の低炭素化を支援。	2026 年 7 月、水素内燃エンジン RE「YCK06H」が量産供給可能となったことを公表。環境衛生車向けは 2026 年中に量産出荷開始、大型トラック向けは 2027 年に本格量産予定。
ダイムラー トラック、 KEYOU (ドイツ)	水素内燃機関トラクター「Actros」	ディーゼルエンジンプラットフォーム「Actros」、「OM471」をベースに水素内燃機関へ改造。350bar 高圧気体水素タンクを採用し、航続距離約 650km。既存車両を活用することで開発期間・コストを削減。	2027 年に 40 トン級水素内燃機関トラクターを投入予定。
華燦科船舶 技術（上海）	「水素内燃機関＋有機液体水素キャリア（LOHC）」船舶用動力システム	華燦科船舶技術が主導し、玉柴など数十社が共同開発。常温では可燃性を持たない有機液体水素キャリア（LOHC）を採用、港湾での燃料補給や船上貯蔵の安全性を向上。	2026 年 6 月、上海紅旗造船所でシステムを完成し、実証船の建造を開始。

企業	製品・プロジェクト	主な内容・特徴	開発・導入状況
武漢市（設計プロジェクト）	2,000 トン級水素内燃機関電気推進輸送船	水素内燃機関と電気推進を組み合わせた内陸河川向け輸送船を設計。	2026 年に設計を開始。 2028 年の進水を予定。

水素内燃機関と燃料電池の比較

水素内燃機関はエネルギー効率では、現時点で水素内燃機関は燃料電池に及ばない。車載用燃料電池システムの効率は一般に約 55%、先進製品では 60%を超える一方、水素内燃機関の最高熱効率は 46.8%程度である。同じ距離を走行する場合、水素内燃機関は燃料電池より約 20%多くの水素を消費するため、水素価格が高止まりすれば燃料コスト面で不利となる。

一方、水素内燃機関の最大の強みは導入コストの低さである。既存のディーゼルエンジンをベースとするため、玉柴や濰柴動力などでは従来の生産ラインや部品を 90%以上共用できるとしており、新たな設備投資を最小限に抑えられる。この結果、エンジンコストは同出力の燃料電池システムの約 3 分の 1～2 分の 1 に抑えられる。また、燃料電池より水素純度への要求が低く、工業副生水素や精製度の低い水素も利用できるため、燃料調達コストの低減も期待される。

一方で、技術面では課題も残る。窒素酸化物（NOx）はほぼゼロまで低減できるものの、後処理装置は依然必要であり、水素脆化、逆火、エンジンオイルの乳化など耐久性に関わる課題については、現在の約 10 万 km 規模の実証では十分とは言えず、長期運用データの蓄積が求められる。また、熱効率の向上余地は燃料電池ほど大きくない。

政策面でも、水素内燃機関は中国の新エネルギー車や水素関連政策の重点対象には位置付けられておらず、燃料電池車のような補助金や優遇措置を十分に受けられないことから、普及は企業の自主的な投資に依存している。

今後は両技術が競合するというより、用途によって使い分けられるとみられる。燃料電池は長距離物流や旅客輸送、小型船舶など高効率・長航続距離が求められる用途に適する一方、水素内燃機関は鉱山、内陸河川航運、短距離重量物輸送など、コスト重視で既存設備を活用しやすい分野への導入が期待される。2027 年前後には量産車の本格投入が見込まれており、今後は信頼性の向上とコスト低減が、水素内燃機関の普及を左右する鍵となる。（出典）高工氫電網（高工氢电网）

2026-07-25 高工氫電網

A：PEM 水電解装置市場、実証から実需へ：2026 年は受注拡大と市場構造の転換が進展

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/CKAUmfrF9OOc6T97Nx0m_g

2026 年、PEM 水電解装置市場は受注拡大局面を迎えている。しかし、受注の内容を詳しく見ると、従来の実証プロジェクト中心から、経済性を重視した実需型案件へと需要構造が変化していることが分かる。

これまで PEM 水電解装置は、小規模な研究開発用途や、水素関連政策を背景とした実証事業、あるいは国有エネルギー企業による先行投資が中心であった。しかし、一部では設備が十分に稼働せず、「建設されたものの活用されない」ケースも少なくなかった。

2026 年の受注を牽引しているのは、大きく三つの市場である。第一は海外市場である。氫輝能源のルーマニア向け 15MW システム、鏵徳氫能源のスペイン向け 100kW システム、Plug Power のデンマーク Power-to-X (PtX) プロジェクトなどは、いずれも風力・太陽光発電と組み合わせたグリーン水素製造を目的としており、水素の利用先も明確であることから、実需に基づく案件となっている。

第二は、高度製造業やエネルギー多消費産業における「自家消費型」の用途である。半導体や人工ダイヤモンド分野では、高純度水素を必要とする製造工程向けに国産 PEM 装置の導入が進んでおり、一部では投資回収期間が 2 年以内まで短縮されている。また、横山石炭火力発電所では、PEM 水電解装置を用いて発電機冷却用水素を自家製造し、外部調達を代替することで、安全性の向上と経済性の両立を実現している。

第三は、水素ステーションなどの交通インフラ向けである。国富氫能が受注した山東高速サービスエリア向け PEM 水素製造設備は、水素高速道路実証プロジェクトの一環として導入され、設備の耐久性や運転データの蓄積にも寄与している。また、インド向け大型電解槽輸出契約も、新興国でグリーン水素インフラ整備が本格化しつつあることを示している。

こうした変化の背景には、PEM 水電解装置のコスト低減がある。イリジウム使用量の削減や膜電極・プロトン交換膜の国産化、生産規模の拡大により、システム価格は大幅に低下している。その結果、応答性の高さという PEM の特長が再評価され、変動型再生可能エネルギーとの親和性を生かした用途で競争力を高めている。

一方で、PEM 市場が回復基調にあるとはいえ、装置メーカーの収益改善はなお限定的である。例えば、Nel は PEM 事業の受注を大きく伸ばしたものの、売上規模は依然として小さい。

2026 年における主な PEM 水電解装置の受注・導入事例

企業	案件・製品	主な内容・特徴	進捗・実績
氫輝能源	15MW 級 PEM 水電解水素製造システム（ルーマニア向け）	15MW システム（5MW×3 基）をルーマニアのグリーン水素プロジェクト向けに出荷。BriLyzer®R シリーズ PEM 電解槽を採用し、モジュール化設計により MW 級から 100MW 級まで柔軟に拡張可能。風力・太陽光発電と組み合わせたグリーン水素製造に利用。	中国製 PEM 水素製造システムとして過去最大規模の輸出案件。欧州大型グリーン水素プロジェクトへシステム一括供給する初の事例。
ノルウェー Nel（）	PEM 電解槽事業	2026 年第 2 四半期の新規受注額は約 2,360 万米ドルで前年同期比 224%増、前四半期比 171%増。このうち 96%を PEM 電解槽が占めた。PEM 事業売上高は 1,000 万米ドルで前四半期比 31%増。	PEM 電解槽需要の回復を背景に受注・売上とも拡大。一方、アルカリ水電解事業の売上は前年同期比 14%減。

企業	案件・製品	主な内容・特徴	進捗・実績
Plug Power	5MW PEM 電解槽「GenEco」(デンマーク)	デンマーク・エスビャウの Måde Power-to-X (PtX) プロジェクト向け 5MW PEM 電解槽「GenEco」の設置、試運転、性能試験、引き渡しを完了。	デンマーク初期の PtX プロジェクトの一つとして水素製造を開始。世界 6 大陸で 70 基以上の GenEco システムが稼働中。
東方電気集団	PEM 水電解水素製造システム(横山石炭火力発電所向け)	火力発電所の発電機冷却用水素を供給する国産 PEM 水素製造システムを自主開発・一括納入。	2026 年 6 月、168 時間連続フル負荷試運転を完了し正式運転を開始。中国初の発電所冷却用水素向け純国産 PEM システムとして実用化。
鏵徳氢能源	100kW 級 PEM 水電解水素製造システム(スペイン向け)	100kW 級 PEM システムをスペイン向けに出荷。現地グリーンエネルギープロジェクトで高純度グリーン水素を供給予定。	製造・試運転を完了し、スペインへ出荷。欧州の水素インフラ整備とエネルギー転換を支援。
国富氢能	インド向け電解槽供給、山東高速 PEM 実証プロジェクト	インドの Advait Greenergy 向けに 1MW 電解槽組立キット 23 基、5MW キット 4 基を受注。山東高速サービスエリア水素ステーション(二期)向け PEM 水電解水素製造設備を受注。	インド向け大型輸出契約を締結するとともに、中国国内では高速道路ゼロカーボンサービスエリア向け PEM 水素製造実証プロジェクトを受注。

(出典) 高工氢電網(高工氢电网)

2026-07-25 氢能匯

N: 浙江省、車両用メタノール燃料供給拠点を整備

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/EI0Ke948Yb2nRW9bWxQNMw>

⇒ <https://news.bjx.com.cn/html/20260727/1505967.shtml>

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446375.shtml>

浙江省当局は 2026 年 7 月、浙江省衢州市龍游県で浙江賽孚能源科技有限公司が計画する M100 車両用メタノール燃料(メタノール 100%燃料)の調製・貯蔵・輸送プロジェクトと、車両用メタノールガソリン(M15、M30 など)およびアルコール系液体燃料の貯蔵・輸送一体化プロジェクトの事業登録を承認した。

本プロジェクトは、総投資額 3.5 億元(84 億円)で、「浙江省グリーンメタノール・水素燃料新エネルギー産業園」の中核事業として整備される。車両用メタノール燃料やメタノールガソリンの調製・貯蔵・物流・配送機能を一体化した供給拠点を構築し、年間 30 万トンの M100 車両用メタノール燃料の調製・貯蔵・輸送設備に加え、年間 10 万トンのメタノールガソリンおよびアルコール系液体燃料の

貯蔵・中継施設を整備する。これにより、浙江省におけるメタノール自動車向け燃料の安定供給体制を強化するとともに、グリーンメタノール燃料の普及を支える物流インフラの整備を進める。

（出典）氫能匯（氢能汇）

2026-07-26 氫能匯

A：2026年7月20日～24日の水素エネルギー関連入札・落札状況

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/T86yHS6mMGdEQN-zBV07Rg>

◆落札案件

No.	発注者	案件	電解槽タイプ	案件種別	省	落札企業
1	延長物資	燃気集団向け PEM 水電解水素製造設備調達	PEM	水素製造設備	陝西	興燃科技
2	中国石化	中石化氫能機械（武漢）2026～2027 年度 PEM 水素製造電源装置調達	PEM	水素製造電源装置	湖北	雷動智創
3	国投	雅砻江両河口グリーン水素エネルギープロジェクト実現可能性調査	—	グリーン水素プロジェクト（水電解水素製造設備、水素充填設備、水素貯蔵設備、水素エネルギー貯蔵設備、有機液体水素キャリア（LOHC）システムなどを新設）	四川	中国電建成都院
4	氨邦科技	国家重点研究開発計画「石炭由来水素／アンモニア高効率・クリーン燃焼技術」プロジェクト向け液体アンモニア調達	—	液体アンモニアプロジェクト（300MW 発電ユニットにおけるアンモニア混焼試験を実施）	安徽	江蘇安德福
5	北方希土	内蒙古希奥科貯氫合金 2026 年両極開放型空冷 270W 燃料電池システム調達	—	燃料電池（陰極閉式空冷式 270W 燃料電池システム 3,000 セット）	内モンゴル	上海星瀚氫動科技
6	雲韜氫能	2026 年燃料電池スタック生産ライン設備調達	—	燃料電池	広東	緑保科技
7	伊寧市聯創城市建设	新疆伊犁州伊寧市グリーン水素エネルギー革新応用プロジェクト向け燃料電池ダンプトラック調達	—	燃料電池車（31 トン級、定格出力 150kW の燃料電池ダンプトラック 35 台）	新疆ウイグル	質子汽車

◆入札案件

No.	発注者	案件	案件・種別	省	入札内容
1	中国能建	瀋陽市風力・水素融合パイ オグリーンメタノール実証 プロジェクト化学工業エリ ア建築・設備設置工事	グリーンメタノールプロジェクト（10 万 t/年のグリーンメタノール、30 万 t/年の SAF、10 万 t/年のグリーンアンモニアの 生産を計画）	遼寧	化学工業エリアの 建築・設備設置工 事
2	国家能源 集团	龍源電力龍源（張掖）新能 源 張掖カーボンニュート ラル産業基地・風力・水素 製造・貯蔵一体化プロジェ クト向け水素貯蔵タンクお よび付帯設備	水素貯蔵タンク （プロジェクトを通じて 22,000Nm ³ /h の アルカリ水電解水素製造システム （1,000Nm ³ /h×3、2,000Nm ³ /h×8、 3,000Nm ³ /h×1）、1,000m ³ ・設計圧力 3MPa の球形水素貯蔵タンク 4 基）を導 入し、2,000Nm ³ /h の水電解水素製造実証 試験プラットフォーム（1,000Nm ³ /h のア ルカリ水電解水素製造システム 1 基、 500Nm ³ /h の PEM 水電解水素製造システ ム 1 基、20MPa の水素貯蔵システムを含 む）を構築）	甘肅	1,000m ³ 、設計圧 力 3MPa（G）の 球形水素貯蔵タン ク 4 基と関連付帯 設備
3	国家能源 集团	龍源電力龍源（張掖）新能 源 張掖カーボンニュート ラル産業基地・風力・水素 製造・貯蔵一体化プロジェ クト向けスクリー式水素 圧縮機および付帯設備	水素圧縮機	甘肅	11,000Nm ³ /h の一 次水素圧縮機 2 基 と関連付帯設備

（出典）氫能匯（氫能汇）

2026-07-26 氫能匯

A：2026 年 7 月第 3 週の水素エネルギー関連政策動向

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/y082RiBrHQ2YuaWW_kk4CQ

◆国家政策

No.	管轄部門	政策	主な内容
1	發展改革委員会、能源局	第 15 次五カ 年再生可能エ ネルギー發展 計画	・2030 年までに再生可能エネルギー由来の水素製造能力を年間 200 万トンとする。 ・グリーン水素、グリーンアンモニア、グリーンメタノール産 業を計画的に配置する。

No.	管轄部門	政策	主な内容
			・風力・太陽光資源、炭素源、水資源を総合的に活用し、輸送・充填・積替えインフラと連携した生産拠点を整備する。 ・地域の需要に応じた風力・太陽光・水素・アンモニア・メタノール一体型プロジェクトの建設や、弱連系・独立系による再エネ水素製造を奨励する。

◆地方政策

No.	地域	政策	主な内容
1	京津冀地域 (北京・天津・河北)	燃料電池車向け カーボンクレジット 算定基準	北京市・天津市・河北省は共同で地方標準「京津冀カーボンインセンティブ事業排出削減量算定技術規範（燃料電池車）」を制定した。2026年10月1日に施行され、京津冀地域における燃料電池車のカーボンインセンティブ事業の設計・建設・運営に適用される。
2	四川省	新エネルギー貨物車普及促進策	2027年12月31日まで、新エネルギー貨物車（ETC搭載）は省内高速道路料金を20%割引とするほか、燃料電池トラックは高速道路通行料を全額免除する。
3	上海市	グリーン電力直接供給推進策	工業団地、ゼロカーボン団地、配電網などでグリーン電力の直接供給を推進する。特にグリーン水素・グリーンアンモニア・グリーンメタノールやデータセンターなどの新興・未来産業を優先的に支援する。
4	山東省	新エネルギー分野シナリオ構築 実施計画	「グリーン電力―グリーン水素―グリーンアンモニア／グリーンメタノール」の産業チェーン構築を推進し、グリーン化学原料やSAF（持続可能な航空燃料）の大規模生産を促進する。石炭化学・製鉄分野での利用拡大や、沿海部での洋上風力による水素・アンモニア・メタノール製造、海運向けグリーン燃料供給（バンカリング）を推進する。
5	山西省呂梁市	水素ステーション配置計画 (2025～2035年)	「呂梁市水素ステーション配置特別計画（2025～2035年）」の意見募集を開始した。現在稼働中の14カ所に加え、新たに68カ所を整備し、計82カ所の水素ステーション網を構築する計画である。
6	浙江省	新技術・新製品・新シナリオ 実証推進計画	再生可能エネルギーを活用した水素製造プロジェクトの整備を推進し、グリーン水素、グリーンアンモニア、グリーンメタノールの大規模生産を促進する。水素系化学原料やグリーン燃料への転換を進めるほか、安全を前提に水素・アンモニア・メタノール混焼の活用シナリオを産業・民生分野で検討する。

（出典）氫能匯（氢能汇）

2026-07-27 北極星氢能網

N：明陽氢能、電解槽技術が評価され中国潜在ユニコーン企業に 2 年連続認定

⇒ <https://news.bjx.com.cn/html/20260727/1505950.shtml>

明陽氢能は 2026 年 7 月、江蘇省無錫市で開催された「2026 潜在ユニコーン企業發展大会」において、長城戦略諮詢が発表した「GEI 中国潜在ユニコーン企業研究報告 2026」で、2 年連続となる「中国潜在ユニコーン企業」に選出された。

同社は、電解槽のコア技術を全て自社開発・自社管理している点が評価され、グリーン水素製造装置分野を代表する高成長企業として位置付けられた。潜在ユニコーン企業は、設立年数、資金調達状況、企業価値、技術革新、事業分野などの厳格な基準を満たす未上場企業から選定される。

報告によると、2025 年は全国で 796 社が選出され、そのうち 17.3%が水素エネルギーや量子技術などの将来産業に属し、78%が発明特許を保有している。明陽氢能は、ALK、PEM、AEM の 3 種類の水電解技術をすべて保有する数少ない企業であり、2026 年上半期には受注拡大や海外市場開拓、技術開発の各分野で成果を上げた。今後も自主技術開発を推進し、高効率な水素製造装置を通じて脱炭素化とクリーンエネルギーの普及に貢献する方針である。（出典）北極星氢能網（北極星氢能网）

2026-07-27 北極星氢能網

N：派瑞氢能、エクアドルで水素製造設備の改修・増設案件を獲得

⇒ <https://news.bjx.com.cn/html/20260727/1505949.shtml>

⇒

https://mp.weixin.qq.com/s?_biz=MzI0NjA5OTQ0Ng==&mid=2654554177&idx=2&sn=ec50ce8251b53ce2da340e8d4bac8432&chksm=f38d0105fd66afc41a528aaf4125568739b4824f6df1bafa423e1b0e2368861d19836af94dc1&scene=27

中船集団第七一八研究所傘下の中船（邯鄲）派瑞氢能科技有限公司（派瑞氢能）は 2026 年 7 月、エクアドルの既存顧客から、水素製造設備の改修・更新と生産ライン増設向け新規設備の 2 件の受注を獲得した。同社が 2004 年に同顧客へ納入した水電解式水素製造装置は、納入以来 22 年間にわたり故障ゼロで安定稼働を続け、海外の厳しい環境下でも高い信頼性、耐久性、環境適応性を実証してきた。また、長年にわたる技術支援により、顧客は設備の自主運用・保守体制を確立し、低コストで安定した操業を実現している。こうした実績と信頼関係を背景に、既存設備の更新と生産能力拡大という重要案件を派瑞氢能へ一括発注した。今回の受注は、中国製グリーン水素製造装置の長期信頼性と国際競争力を示す事例となるものであり、派瑞氢能は今後も高性能・高信頼性の水素製造設備と充実した海外サービスを通じて、世界のグリーン水素産業の発展とエネルギー転換に貢献していく方針である。（出典）北極星氢能網（北極星氢能网）

2026-07-27 国際氢能網

N：石化機械、中原油田向け 1,000Nm³/h 級 PEM 水電解設備の BOP 一式を受注

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446384.shtml>

⇒ <https://stock.10jqka.com.cn/20260726/c678438243.shtml>

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252559.html>

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/RgAglpIKkPOaeCv5ivC_u

中国石化傘下の石化機械は 2026 年 7 月、中原油田の 1,000Nm³/h 級 PEM 水電解水素製造実証プロジェクト向けに、電解槽周辺設備（BOP）一式を受注した。同設備は、中国石化によるグリーン水素の大規模製造を支える中核設備として活用される。

受注した BOP 設備は、定格水素処理能力 1,000Nm³/h 以上、運転負荷 10～125%の範囲で運転可能であり、風力・太陽光発電など出力変動の大きい再生可能エネルギーに対応できる。設備は、電解槽設置エリア、気液分離システム、純水精製装置、水素精製システムを一体化し、自動制御システムによりリアルタイム監視、自動制御、故障自己診断機能を備える。

石化機械は、アルカリ水電解装置および PEM 水電解装置の設計・製造に関する中核技術を保有しており、今回の受注は、中国製グリーン水素製造設備による大規模グリーン水素製造ソリューションの実用化を示す事例として位置付けられる。（出典）国際氢能網（国际氢能网）



石化機械製のコンテナ型 PEM 水電解設備用 BOP

2026-07-27 国際氢能網

N：氢羿能源、シリーズ B で数千万元を調達。PEM/AEM 水電解装置の生産能力拡大へ

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446382.shtml>

北京氢羿能源科技は 2026 年 7 月、陝西双能研究院を戦略的パートナーとして迎え、数千万元（2.4 億円以上）規模のシリーズ B 資金調達を実施した。

同社は設立当初から中国科学院系投資機関の中科創星の出資を受け、PEM 水電解装置の材料、主要部品、設備の研究開発から量産までを一貫して手掛ける企業へと成長した。現在は、触媒、2 万 m²規模の膜電極（MEA）、100MW 級電解槽、水素精製設備の生産体制を整備し、ISO 認証および CE 認証を取得している。また、8,100cm²超の大面積膜電極、電流密度 4A/cm²（1.8V）、単一スタック当たり 600Nm³/h の水素製造能力を実現し、低貴金属化や耐久性向上などで業界をリードしている。

今回調達した資金は、超低貴金属触媒、高性能膜電極、超高压電解槽など次世代技術の研究開発と量産化に充当される予定であり、PEM/AEM 水電解装置の生産能力を 1GW、膜電極の生産能力を 10 万㎡へ拡大する計画である。さらに、グリーン水素、グリーンメタノール、グリーンアンモニア、SAF（持続可能な航空燃料）分野への展開を加速し、水素エネルギー産業の発展を目指す。

（出典）国際氢能網（国际氢能网）

2026-07-27 国際氢能網

N：氢能能源、東風汽車研究院向け PEM 水電解水素製造統合システムを出荷

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446381.shtml>

北京氢能能源科技は 2026 年 7 月、東風汽車研究院向けにカスタマイズした PEM 水電解水素製造統合システムを出荷した。同システムは、モジュール設計の採用により柔軟な導入・拡張を可能とするとともに、高い水素製造効率による運用コストの低減と、全工程を対象としたインテリジェント監視による安定運転を実現する。設備は、PEM 電解槽、水ガス分離装置、水素精製装置、純水循環システム、固体水素貯蔵装置、燃料電池、統合制御システム、安全・防爆システムなどで構成される。今回の出荷は、同社のシステム統合能力やカスタマイズ対応力、プロジェクト遂行能力を示す成果であり、今後も一体型ソリューションと全ライフサイクルにわたるサービスを通じて、水素エネルギー技術の実用化と産業のグリーン化を推進していく方針である。（出典）国際氢能網（国际氢能网）



氢能能源による東風汽車研究院向け PEM 水電解水素製造統合システム

2026-07-27 全球氢能網

N：国家能源集团、江蘇省如東で洋上太陽光・水素・蓄電一体化プロジェクトを稼働

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252603.html>

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/ut6ihud-6SJzIBOwHSLxHg>

国家能源集団は 2026 年 7 月、江蘇省如東県洋口港で建設を進めていた「洋上太陽光・水素・蓄電一体化」プロジェクトの運転を開始した。なお、本プロジェクトの EPC（設計・調達・建設）総請負は、中国化学工程第十一建設有限公司（十一化建）が担当した。

同プロジェクトは、国家の第 3 期大規模太陽光発電基地重点プロジェクトに位置付けられるとともに、中国最大の設備容量を有する洋上太陽光・水素・蓄電一体型プロジェクトである。総設備容量は 40 万 kW で、60MW/120MWh の蓄電システム、毎時 1,500Nm³のグリーン水素製造設備、220kV 昇圧変電所を併設し、太陽光発電、蓄電、水素製造を一体的に運用する。年間発電量は約 4 億 6,800 万 kWh に達し、約 20 万世帯分の年間電力需要を賄うとともに、年間 30 万トン超の CO₂排出削減を見込む。また、年間 482 トンのグリーン水素を製造し、長江デルタ地域の水素ステーションへ供給することで、グリーン水素の大規模利用を支える計画である。（出典）全球氢能網（全球氢能网）



如東県洋口港における「洋上太陽光・水素・蓄電一体化」プロジェクトの現場

2026-07-27 全球氢能網

N：呂梁市、水素ステーション網を大幅拡充 2035 年までに計 82 カ所へ

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252571.html>

⇒ <https://finance.sina.com.cn/wm/2026-07-24/doc-iiiiwzsa9349746.shtml>

山西省呂梁市住宅・都市農村建設局は 2026 年 7 月、「呂梁市水素ステーション配置計画（2025～2035 年）（意見募集稿）」を公表し、パブリックコメントの募集を開始した。

同市ではすでに 14 カ所の水素ステーションが運営されており、重点地域をカバーする供給ネットワークを構築している。計画では 2035 年までに新たに 68 カ所を整備し、水素ステーション数を計 82 カ所へ拡大する方針である。2026～2030 年の第 1 段階では 50 カ所を新設し、孝義市を中心に化学工業団地や主要交通拠点、県市中心部を重点的に整備することで、市全域をカバーするネットワークの骨格を形成する。2031～2035 年の第 2 段階では、さらに 18 カ所を新設し、郷鎮部や省道沿線への配置を拡充するとともに、広域水素供給回廊を整備し、市内および域外を走行する燃料電池車両にも対応可能な水素供給ネットワークの構築を目指す。

（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-27 全球氢能網

N：派瑞氢能、河北省の水素エネルギー設備実証・検証プラットフォームに採択

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252569.html>

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/gMMpoCeFYRx0Y2SfGnyMdQ>

河北省科学技術庁は 2026 年 7 月、中船（邯鄲）派瑞氢能科技（派瑞氢能）が申請した「河北省水素エネルギー設備実証・検証プラットフォーム」を、2026 年度科技成果実証・検証プラットフォーム事業として採択した。同プラットフォームは、アルカリ、PEM、AEM 水電解水素製造装置および関連システムを対象に、実証試験、技術移転、プロセス最適化、性能評価・検証などの技術サービスを提供する。

派瑞氢能は、親会社である中国船舶集団第七一八研究所が有する国家級・省級の研究開発・計量試験拠点を活用し、過去 3 年間で 39 件の実証試験サービスを実施したほか、豪州やブラジル向け水素製造ステーションの設計案件も受注している。今後は、京津冀地域における新エネルギー設備の研究開発・事業化拠点としての機能強化を目指す。（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-27 全球氢能網

N：中国能建、年産 50 万トン級グリーン燃料実証プロジェクトの建設開始

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252565.html>

⇒

https://mp.weixin.qq.com/s/?_biz=MzkyMDg3MzA5NA==&mid=2247494692&idx=2&sn=ecd09d1ce182378b9b1744dbb0c35eb3&chksm=c0d70c042425acea071dd3cf82c7366e94ea6544af904df1af5f7ff32def9b539c07eb32d64c&scene=27

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252536.html>

中国能源建設集団（中国能建）傘下の中電工程は 2026 年 7 月 22 日、遼寧省瀋陽市康平生物化工産業園で建設を進める中国初の年産 50 万トン級「風力・太陽光発電、水素製造、バイオマス利用を融合したグリーン燃料実証プロジェクト」において、第 1 期となる年産 10 万トンのグリーンメタノール製造設備の本体工事に着手した。

同プロジェクトは総計 50 万トンのグリーン燃料生産基地の建設を計画しており、2GW の集中型風力発電設備を併設するほか、年間 300 万トンの地域バイオマスを利用する。事業は 3 段階で進められ、第 1 期でグリーンメタノール 10 万トン、第 2 期で SAF（持続可能な航空燃料）30 万トン、第 3 期でグリーンアンモニア 10 万トンの生産能力を整備する。風力・太陽光由来の電力で製造したグリーン水素と、バイオマスガス化による合成ガスを原料として低炭素燃料を製造することで、再生可能エネルギーとバイオマスを組み合わせた循環型のグリーン燃料サプライチェーンの構築を目指す。

（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-27 中国能源網、中国石油プレスリリース

P：広東石化、水素回収装置で累計 102 億 Nm³の高純度水素を供給

⇒ <https://www.china5e.com/news/news-1206942-1.html>

⇒ 中国石油プレスリリース

<https://www.cnpc.com.cn/cnpc/jtxw/202607/1081955674854fa39c6c156f51bc134a.shtml>

中国石油傘下の広東石化は 2026 年 7 月、水素回収装置からの累計外販水素供給量が 102 億 Nm³に達したと発表した。同装置は、自社の精製工程で発生するブローオフガスやテールガスに含まれる低濃度水素を精製・回収し、水素パイプラインへ供給する中核設備である。脱硫工程や PSA（圧力変動吸着）装置の運転条件を最適化したことで、水素回収率を設計値の 90%から最高約 95%へ向上させ、生産能力と運転安定性を高めた。回収・精製した純度 99.99%以上の高純度水素は、自社設備で利用するほか、石化団地内の他企業にも安定供給しており、産業排ガス由来の水素資源の有効利用と循環利用の推進に貢献している。（出典）中国能源網（中国能源网）

2026-07-27 OFweek 維科網

A：中国水素業界が低迷する中、国有資本が水素分野への投資を加速

⇒ <https://www.ofweek.com/hydrogen/2026-07/ART-180824-12003-30695825.html>

中国の水素業界が調整局面にある中、国有資本による水素関連企業への出資や新会社設立が加速している。

予見エネルギーによると、成都交投資本は協氢新能源の株式 3.23%を取得したほか、合肥産投は廬陽科創集団と共同で瀚氢動力へ出資した。また、厦門火炬創投は驚島氢能、青島新泊控股は上海安池科技、中国石化資本は佛吉亜氢能へ 3 億元を戦略投資するなど、国有資本による投資が相次いでいる。

北極星氢能網の集計によると、2026 年上半期には中国の水素分野で 25 件を超える出資・戦略投資案件が実施され、第 1 四半期には水素関連企業 12 社が新設された。重慶市では総投資額 83 億元（1,992 億円）超の水素プロジェクト 37 件が公表され、吉林・重慶水素産業発展基金（総額 20 億元（480 億円））も設立された。

一方、2026 年上半期の燃料電池車の生産・販売はそれぞれ前年比 62%減、43.7%減となり、グリーン水素・アンモニア・メタノールプロジェクトの新規認可件数も 43%減少した。電解槽は供給過剰による価格下落が続くなど、業界全体は低迷している。

それにもかかわらず、国有資本は水素産業への投資を拡大している。その狙いは、短期的な収益ではなく、水素ステーション、輸送パイプライン、貯蔵設備などの水素インフラの主導権確保にあるとみられる。2026 年に設立された国有企業系の水素関連会社の多くは、水素ステーション向け設備や水素貯蔵設備の販売を事業範囲に含めており、水素インフラ整備を重点分野に位置付けている。

また、「第 15 次五カ年計画」では、水素とグリーン燃料が非化石エネルギー供給体系に初めて組み込まれ、2030 年までに再生可能エネルギー由来の水素製造能力を年間 200 万トンへ拡大する目標が掲げられた。さらに、全国炭素排出権取引市場の対象が石油化学・化学業界へ拡大されたことで、大手企業によるグリーン水素需要の増加も期待されている。

国有資本の参入は業界再編を加速させる可能性がある」と指摘されている。技術力の高い企業は資金や市場を獲得できる一方、競争力の低い企業は淘汰される可能性が高く、2026 年末までに水素関連企業の約 40%が市場から退出するとの見方もある。また、国有資本はエネルギー、化学、交通、鉄鋼など複数業界にまたがる事業基盤を持つことから、「水素+化学」「水素+鉄鋼」「水素+交通」といった産業融合を推進する原動力になると分析されている。(出典) OFweek 維科網 (OFweek 维科网)

2026-07-27 氢能匯、汕尾市生態環境局プレスリリース

P：中広核新能源、総合エネルギー島陸上試験基地（二期）の環境影響評価を公示

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/5p_4PZat8BrR2JfWYLCOQg

⇒ 汕尾市生態環境局プレスリリース

https://www.shanwei.gov.cn/swhbj/459/wgk/glgk/content/post_1263804.html

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446395.shtml>

広東省汕尾市生態環境局は 2026 年 7 月、「総合エネルギー島陸上試験基地プロジェクト（二期）」の環境影響評価書を公表した。同プロジェクトは、中広核新能源（陸豊）が陸豊市碣石鎮で建設を進めるもので、500Nm³/h 級アルカリ水電解（ALK）装置と 200Nm³/h 級 PEM 水電解装置を導入し、年間 70 万 Nm³の水素製造能力を整備する。また、水素貯蔵能力は 1,050kg とし、燃料電池や水素ディスプレイなどの水素利用・供給設備に加え、海洋気候模擬環境チャンバーや浮体動揺試験プラットフォームなどの実証設備も整備する。総投資額は 4,244 万元（10.1 億円）である。

（出典）氢能匯（氢能汇）

2026-07-27 高工氫電網

A：AI データセンター向け電源市場が拡大 SOFC など定置用燃料電池に新たな商機

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/2hrFCQ5TNgzpF-CT94gQWg>

AI データセンター（AIDC）の急速な拡大に伴う電力需要の増加を背景に、オンサイト発電設備への需要が急拡大している。固体酸化物形燃料電池（SOFC）、ガスタービン、ガスエンジン、熔融炭酸塩形燃料電池（MCFC）など複数の技術が採用され、それぞれ受注を伸ばしている。AI データセンター向け電源市場では、特定の技術が独占するのではなく、用途に応じて複数の技術が競合・補完する分散型電源市場が形成されつつある。

AI データセンターが燃料電池をはじめとする定置用発電設備にとって、自動車用途を上回る有望な市場となる可能性が指摘されている。また、米国では 2026 年以降、新設 AI データセンターに自家発電設備の併設が義務化されたこともあり、今後も関連設備市場の拡大が見込まれる。

主な企業動向

- **米 Bloom Energy**：2026 年第 1 四半期に AI データセンター関連で受注を獲得。韓国 KOSSES と SOFC 電極スタック自動化生産ライン設備の供給契約を締結。

- 米 Oracle (オラクル) : 最大 2.8GW 規模の SOFC システムを導入する初期契約を締結。
- 米 AEP : 最大 1GW の燃料電池供給契約を締結。
- Equinix : SOFC を累計 100MW 超導入し、米国 6 州 19 カ所のデータセンターで運用。
- 米 Fit Energy : 最大 380MW の SOFC システムを導入予定で、第 1 期 30MW 分を契約。
- 質子動力 : AI データセンター向け 400kW 級 SOFC システム「PS400」を開発。
- 慕帆動力 : AI データセンター向け 30MW ガスタービンを展開し、5 億元 (120 億円) 超を調達。2026 年内に 1GW の生産能力構築を計画。
- 米 GE Vernova : ガスタービン受注残は 116GW に達し、約 20% が AI データセンター関連。
- 独 Siemens Energy : 四半期で 102 台のガスタービンを受注し、約 25% がデータセンター向け。
- 三菱重工業 : 大型ガスタービン 35 台を受注し、前年比約 40% 増。
- 米 Caterpillar : データセンター向けガス発電設備の受注残が 8GW 超。
- フィンランド Wärtsilä : GW 級データセンター向けガスエンジン案件を受注。
- 濰柴動力 : 2026 年第 1 四半期のデータセンター向けエンジン販売が 500 台超と前年比 240% 超増加。
- 米 FuelCell Energy : MCFC を AI データセンター向け電源として展開し、販売パイプラインは 4GW に拡大。Fit Energy と最大 380MW の戦略提携を締結。(出典) 高工氢電網 (高工氢电网)

2026-07-27 電解槽産業網、中国石化プレスリリース

P : 中国石化、水素設備製造拠点を整備 PEM・ALK 電解槽計 2.75GW の生産能力を構築へ

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/mxnjFiUF_qLftejeI8YkKA

⇒ 中国石化プレスリリース <http://www.sinopec.com/group/000/000/072/72088.shtml>

中国石化は 2026 年 7 月、湖北省武漢市において、水素設備産業クラスター建設プロジェクトを始動した。同プロジェクトの中核拠点となる「数智水素設備イノベーションパーク」では、既存の品質検査・試験センターに加え、水素製造・水素充填設備の製造・試験拠点を新設し、完成後は年間 100 基の水素圧縮機スキッド、1GW の PEM 水電解装置、1.75GW のアルカリ水電解装置 (ALK) の組立・試験能力を備える。AI やデジタルツイン技術を活用し、研究開発から製造、試験、展示、応用までを一体化した設備製造基地を目指す。PEM と ALK の両技術を並行して展開することで、分散型から大規模集中型まで多様なグリーン水素製造需要に対応する。

中国石化は今後、水素利用の実証事業者から、水素設備の供給・生産を担う中核企業への転換を図り、中国のグリーン水素産業の発展を支える設備供給基盤の強化を進める。

(出典) 電解槽産業網 (電解槽产业网)

2026-07-28 北極星氢能網、国家電投プレスリリース

P : 国家電投、世界最大規模の単一ロットでグリーンアンモニアを韓国へ輸出

⇒ <https://news.bjx.com.cn/html/20260728/1506216.shtml>

⇒ 国家電投プレスリリース https://www.spic.com.cn/xttdt1/202607/t20260728_328277.html

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446407.shtml>

⇒ <https://www.ofweek.com/hydrogen/2026-07/ART-180820-8120-30696196.html>

国家電投集団は 2026 年 7 月、吉林省の「大安グリーンアンモニア実証プロジェクト」で生産したグリーンアンモニア 3,750 トンを、江蘇省連雲港から韓国向けに輸出した。これは世界最大規模の単一ロットによるグリーンアンモニア輸出であり、中国のグリーンアンモニアがライフサイクル全体の CO₂削減効果（グリーン価値）を国際基準に基づいて評価された代表的な輸出事例となる。

同プロジェクトは 2025 年に稼働し、80 万 kW の再生可能エネルギー発電を活用して年間グリーン水素 3.2 万トン、グリーンアンモニア 18 万トンを生産する世界最大級の施設である。独自開発の「再エネー水素ーアンモニア」統合制御技術により、厳寒環境でも 300 日以上安定運転を実現した。さらに、2025 年には世界初となる ISCC EU の RFNBO アンモニア認証（EU が定める再生可能エネルギー由来の非生物資源燃料〈RFNBO〉として、原料調達から製造・輸送までのライフサイクル全体で温室効果ガス削減基準を満たすことを認証する制度）を取得し、再エネ由来から輸送までの全工程を追跡可能な体制を構築した。（出典）北極星氢能網（北極星氢能網）



国家電投「大安グリーンアンモニア実証プロジェクト」のグリーンアンモニア貯蔵設備と連雲港での出荷作業

2026-07-28 国際氢能網

N：中国石化青島製油所、藍昆氢能と海上浮体式太陽光によるオフグリッド水素製造実証を推進

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446396.shtml>

中国石化青島製油所（青島煉化）は 2026 年 7 月、藍昆氢能と海上浮体式太陽光発電を活用した「再エネ直結・オフグリッド水素製造実証プロジェクト」を共同で推進することで合意した。プロジェクトでは、海上浮体式太陽光発電を公共送電網に接続せず、発電した電力を藍昆氢能の常圧水電解システムへ直接供給する独立運転方式を採用する。これにより、系統接続手続きや送電網の受入制約、大容量蓄電設備への投資を回避し、再生可能エネルギーによる低コストな水素製造を目指す。また、製造したグリーン水素を製油所で使用するグレー水素の代替として利用し、低炭素化を推進する計画である。

青島煉化は製油所における水素利用先と海洋資源開発の知見を有し、藍昆氢能は太陽光発電などの変動電源に対応した常圧・オフグリッド水素製造システムを保有している。両社はそれぞれの強みを

生かし、海上再生可能エネルギー、水素製造、グリーン化学を組み合わせた海洋グリーン水素の実証モデル構築を目指す。（出典）国際氢能網（国际氢能网）

2026-07-28 国際氢能網

N：海珀特、燃料電池大型トラック「H49」の生産ラインを増強

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446399.shtml>

⇒ https://weibo.com/2/detail/5325686256702956?utm_source=auto

海珀特は 2026 年 7 月、湖北省随州市にある商用車メーカー・新楚風製造拠点において燃料電池大型トラック「H49」の生産ライン改修完了・稼働開始式を開催した。今回の改修では、運転席、燃料電池システム、駆動用バッテリー・シャシーの各組立ラインを新設したほか、AGV（無人搬送車）、ガラス塗布ロボット、電動組立工具などの自動化設備を導入し、生産工程の再編と品質検査工程の拡充を実施した。これにより、生産効率と製造品質が向上し、年間 2,000 台超の燃料電池大型トラックの生産能力を確保する。

海珀特は 2022 年から新楚風と連携し、燃料電池商用車事業を推進してきた。「H49」は 100km 当たりの水素消費量 7.1kg という業界トップクラスの性能を達成しており、今回の生産ライン強化により量産・納車体制を本格的に整備する。

また、湖北省随州市曾都区政府は、水素エネルギー実証都市群への参画や関連企業の集積を支援し、地域の燃料電池商用車産業クラスター形成を後押しする方針を示している。

（出典）国際氢能網（国际氢能网）

2026-07-28 全球氢能網

N：江蘇省、研究開発から実証まで一体化した水素産業エコシステムを構築

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252657.html>

⇒ <https://www.china5e.com/news/news-1206992-1.html>

江蘇省は、長江沿岸の副生水素資源と製造業基盤を生かし、水素エネルギーを重点育成分野として産業集積を進めている。張家港市を中核に、「研究開発—製造—実証」の一体的なエコシステムを構築し、2024 年の水素関連産業の売上高は全国第 2 位となった。

上流では、江蘇省水素エネルギー技術イノベーションセンターが、海外依存度の高かった PEM 水電解用プロトン交換膜や燃料電池用膜電極の国産化を推進し、厚さ 6~12 μ m の燃料電池用超薄複合膜と 50~80 μ m の水電解用複合膜の量産技術を確立した。これらはプロトン伝導率 150~160mS/cm と輸入品に匹敵する性能を有する。

中流では、国富氢能が PEM 水電解装置や水素の製造・貯蔵・輸送・充填設備を手掛ける中核企業としてサプライチェーンを形成し、年間 500 セットの PEM 水電解装置を生産可能なスマート生産ラインを整備するとともに、省内調達率 80%以上を実現している。

下流では、燃料電池バスや港湾向け燃料電池トラック、水素混焼、熱電併給、グリーンメタノールなど多様な実証を展開している。国富氢能は国内初の 0～30%都市ガス混焼試験プラットフォームを構築し、江蘇鉅德氢能源は水素エネルギー熱電併給システムで EU の CE 認証を取得した。さらに、公共データプラットフォームを活用して製品開発を加速している。江蘇省は今後、水素冶金、水素船舶、洋上グリーン水素などの実証を拡大し、2027 年までに水素産業規模 1,000 億元（2.4 兆円）、水素ステーション 100 カ所、燃料電池車 1 万台の実現を見込んでいる。（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-28 全球氢能網

N：研易氢能動力、航空機向け液冷燃料電池システムの開発加速へ 数千萬元を調達

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252650.html>

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/i4PoLR8Kq8XL6-d995Xaw>

清研易氢能動力技術（南京）は 2026 年 7 月、数千萬元（2.4 億元以上）規模のエンジェルプラスラウンドの資金調達を完了した。調達資金は、航空機向け液冷燃料電池システムの開発・検証と、空冷燃料電池システムの商業化に充てられる。

同社は 2023 年設立の航空用水素エネルギーシステム企業で、清華大学の欧陽明高院士が育成したプロジェクトを母体とし、設計・製造・試験までの一貫した開発・製造体制を有する。液冷燃料電池システムは 30kW から 90～110kW へと高出力化を進め、将来的には 300kW 級への拡大を計画している。超薄型チタン製セパレータや軽量部品を採用し、出力密度 1.2kW/kg 以上、動作温度-40～55℃、適用高度 6,000m を実現する。一方、空冷燃料電池システムは 1～5kW の出力帯に対応し、動作温度-20～40℃で無人機向け用途を中心に展開する。

液冷燃料電池システムは、中国商用飛機（COMAC）や複数の eVTOL メーカーと共同開発を進めている。空冷燃料電池システムは、成飛の高高度無人機で 30 時間および 24 時間の連続飛行を達成したほか、2kW 級空冷燃料電池システムを搭載した VTOL 無人機の初飛行にも成功している。今後は低空経済向け市場の開拓を加速する。（出典）全球氢能網（全球氢能网）



（左）清研易氢の 30kW 液冷燃料電池システム／（右）清研易氢の空冷燃料電池システム

2026-07-28 中国能源網、朔州市プレスリリース

P：山西省朔州市、水素産業の実用化を加速 4年以内に燃料電池大型トラック 1,000 台を普及

⇒ <https://www.china5e.com/news/news-1207011-1.html>

⇒ 朔州市プレスリリース

http://www.shuozhou.gov.cn/xwzx/jrsz/szsyw/bmgz/202607/t20260727_780629.shtml

山西省朔州市は、エネルギー革命総合改革試行区の建設を契機に、水素エネルギーを軸とした新たなエネルギー産業の育成を進めている。豊富な風力・太陽光資源を活用した水電解による水素製造と、燃料電池大型トラックなどの普及を一体的に推進し、産学官連携による技術開発から実用化までの体制を構築している。

朔州双碳産業研究院では、上海交通大学との共同研究により、燃料電池システムの航続距離を 400km から 600km へ延伸する技術開発を進めている。また、朔州文景能源科技（文景能源）の水素ステーションは完成間近で、稼働後は燃料電池大型トラック 50 台と燃料電池バス 10 台への日常的水素供給が可能となる。

朔州市は、水素の製造・充填・貯蔵・輸送・利用を網羅する産業チェーンの構築を目指し、水素製造、水素精製、燃料電池、水電解装置を中核とする産業を育成している。文景能源は、すでに 100 セット規模の燃料電池生産体制を整備しており、今後は年間 5,000 セット規模へ拡張するとともに、2〜3 カ所の水素ステーションを新設し、4 年以内に燃料電池大型トラック 1,000 台の普及を計画している。（出典）中国能源網（中国能源网）

2026-07-28 高工氫電網

A：中国グリーンアンモニア産業、本格普及へ 輸出拡大と国内需要育成が課題

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/RRZ5yYJHwooPm9xhqNsgrg>

中国では、グリーンアンモニアが化学原料、エネルギー、貿易の三つの属性を兼ね備えたゼロカーボン燃料として、本格的な市場形成期を迎えつつある。風力・太陽光発電由来の電力で製造されるグリーンアンモニアは、液体水素の約 3 分の 1 のコストで貯蔵・輸送が可能であり、船舶や発電、化学分野など幅広い用途が期待されている。2026 年には中国の製造コストが 1 トン当たり 3,000 元

（72,000 円）以下となり、世界平均を約 40% 下回る価格競争力を持つとされる。2026 年第 1 四半期時点の国内生産能力は年間約 70 万トンで世界首位にあり、国華投資（氫能公司）の「グリーン港・水素都市」プロジェクトや深圳能源の鄂托克旗プロジェクト（合計年間 20 万トン）、中国核工業集団（CNNC）の一体化実証プロジェクトなどが建設を進めている。

一方で、中国のグリーンアンモニア輸出は依然として少数の海外大手企業の調達意向や契約条件に大きく左右されており、需要の主導権を十分に握れていない。国内では炭素排出量取引市場やグリーン燃料の認証制度、利用義務制度（消納政策）の整備が始まったばかりで、海運、発電、産業分野を中心とした本格的な内需市場はまだ形成されていない。このため、今後は安定生産と徹底したコスト低減を進めるとともに、中国独自のグリーン燃料認証制度や利用義務制度を整備し、国内需要を拡大して需要の主導権を自国で確保することが重要な課題である。国内市場を育成することで、国際市場

における価格交渉力を高め、海外市場や国際情勢の変化による影響を受けにくい持続的な産業発展につなげる必要がある。企業によるグリーンアンモニアの輸出に関する取り組みは以下のとおりである。

◆遠景能源

- 2026年2月、赤峰工場で生産したグリーンアンモニアを連雲港港経由で韓国の LOTTE Fine Chemical へ初出荷。
- 赤峰 152 万トン級グリーン水素・アンモニアプロジェクトは、年間 152 万トン規模で、世界最大のグリーン水素・アンモニアプロジェクト、かつ世界初の商業運転中のグリーン水素・アンモニアプロジェクトとされる。
- 第 1 期（年間 32 万トン）は 2025 年 7 月に商業運転を開始。
- 「グリーン電力―グリーン水素―グリーンアンモニア」のゼロカーボン産業チェーンを構築。
韓国ロッテ精密化学
- 遠景能源が輸出したグリーンアンモニアの最初の海外納入先。
- 世界的な特殊化学メーカーとして、中国製グリーンアンモニアの国際商業取引先となった。
中国能源建設集団
- 2025 年 12 月、第 1 期グリーン水素・アンモニア・メタノール一体化プロジェクトを稼働、第 2 期建設を開始。
- 世界最大のグリーン水素・アンモニア・メタノール一体化プロジェクトであり、年間グリーン水素 4.5 万トン、グリーンアンモニア 20 万トンを生産し、グリーンメタノールとの一体生産にも対応。
- 生産開始翌日に、150 トンの液体アンモニアを初出荷。
- 松原プロジェクトで生産したグリーンアンモニアは、2026 年 6 月にインド向け輸出貨物として利用された。

◆ベルギー海運会社 CMB.TECH

- 中国の液体アンモニア物流企業安徳福の一部株式を取得。
- 中国能建氢能公司与世界初の海運向けグリーンアンモニア販売契約を締結。
- 契約数量は 15.8 万トンのグリーンアンモニア長期供給。
安徳福
- 中国の液体アンモニア物流大手。
- CMB.TECH が一部株式を取得し、グリーンアンモニアの国際物流体制を強化。
中国能建氢能公司
- ベルギーCMB.TECH と 15.8 万トンのグリーンアンモニア長期供給契約を締結。
- 海運向けとしては世界初のグリーンアンモニア販売契約を実現。
ベルギー海運会社 CMB.TECH が運航するアンモニア燃料外航船「Antwerp」
- 世界初のアンモニア燃料外航船。
- 2026 年 6 月、南京江北新区・清江埠頭で 3 万 214 トンの液体アンモニアを積載し、インドへ出航。
（出典）高工氢电网（高工氢电网）

2026-07-28 氢能匯

N：中国石化、烏蘭察布—京津冀水素輸送パイプライン天津区間の入札開始

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/EqcLrNz-ipXYaZyOob91jQ>

⇒ <https://www.ne21.com/news/show-229433.html>

中国石化新星（内蒙古）西氢東送新能源有限公司は 2026 年 7 月、内モンゴル自治区烏蘭察布市から京津冀（北京市・天津市・河北省）地域へ水素を供給する「烏蘭察布市—京津冀水素輸送パイプライン実証プロジェクト」の天津市区間について、ルート計画の妥当性の検証、用地事前審査および立地選定に関する入札を開始した。天津市区間は静海区、滨海新区、西青区、津南区を経由し、総延長は約 99km で、1 カ所のステーションと 5 カ所のバルブ室を設置する計画である。

今回の入札では、専門家によるルート選定の評価・審査を実施するとともに、用地事前審査や立地選定を進め、節約・集約的な土地利用に関する報告書や関連資料を作成する。また、専門家審査を経たうえで、関係機関への申請手続きを進め、天津市自然資源主管部門から用地事前審査・立地選定意見書の取得を目指す。（出典）氢能匯（氢能汇）

2026-07-29 北極星氢能網

N：中国能建、甘肅省蘭州新区でグリーン水素製造実証を本格展開

⇒ <https://news.bjx.com.cn/html/20260729/1506272.shtml>

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252741.html>

中能建緑氢新能源（蘭州）は 2025 年 6 月に甘肅省蘭州新区化工園区でグリーン水素製造実証プロジェクトを稼働し、稼働開始以来の累計生産量は 30 トンを超えた。

同プロジェクトは総投資額 3,248 万元（7.7 億円）で、蘭州新区初のグリーン電力由来の水素製造プロジェクトである。オフピーク時間帯の電力を活用して 1 日 16 時間運転し、年間 500 トンの高純度（99.999%）グリーン水素を生産する計画である。製造した水素は化学工業に加え、交通、エネルギー貯蔵、食品・医薬など幅広い分野での利用を想定している。

甘肅省は「新能源+グリーン水素回廊」構想を推進しており、蘭州新区では水素の製造・貯蔵・輸送・利用を一体化した産業拠点の整備が進められている。（出典）北極星氢能網（北極星氢能网）



中能建緑氢新能源（蘭州）の蘭州新区グリーン水素製造実証プロジェクト

2026-07-29 国際氢能網

N：氢楓能源、湖北省・京港澳高速の大悟サービスエリア向け水素供給設備を納入

⇒ <https://h2.in-en.com/html/h2-2446406.shtml>

⇒ <https://finance.sina.cn/2026-07-29/detail-iniknezp2573855.d.html>

氢楓能源は 2026 年 7 月、湖北省孝感市大悟県の京港澳高速道路・大悟サービスエリアに整備されたガソリン・天然ガス・水素充填一体型ステーション向けに水素供給設備を納入し、据付・試運転を完了した。同社は、水素ディスペンサー、水素圧縮機、高・中・低圧水素貯蔵設備、荷降ろし設備など、水素供給システム一式を供給した。水素充填能力は 12 時間当たり 1,000kg で、高速道路を走行する燃料電池車への水素供給に対応する。大悟サービスエリアの水素ステーションは、湖北省北部の高速道路における水素供給拠点となり、京港澳高速道路湖北区間の水素輸送ルートの形成を支える重要インフラである。

湖北省は 2022 年に「水素エネルギー 12 条」、2024 年に「湖北省水素エネルギー産業発展加速行動方案（2024～2027 年）」を策定し、高速道路沿線の水素充填ネットワーク整備を推進している。本プロジェクトは、同省の幹線水素充填インフラ整備を象徴する案件と位置付けられている。

（出典）国際氢能網（国际氢能网）



湖北省・京港澳高速道路の大悟サービスエリアに整備された水素ステーション

2026-07-29 全球氢能網

N：新疆・伊吾県、副生水素を活用した水素製造・充填拠点を拡充

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252747.html>

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/bWbSSuwFiy60Kj9pAAsHpw>

新疆ウイグル自治区哈密市伊吾県では、豊富な風力・太陽光資源と石炭化学工業の副生水素を活用した水素産業の育成が進められている。伊吾疆納新材料有限公司が運営する納宇水素製造・充填ステーションでは、石炭熱分解で発生する粗水素を精製し、純度 99.97% の車載用水素を日量 1 トン生産している。累計水素充填量は 48 万 kg を超え、2 万 1,000 台以上の燃料電池大型トラックに供給している。当初は工業団地内の輸送車両向けだったが、現在は G7 京新高速道路や G331 国道にも供給範囲を拡大し、広域物流を支える水素供給拠点となっている。ステーションでは設備の 24 時間監視や三段階

の点検体制を整備し、安全性を確保するとともに、設備のデジタル化や設備増強を進めている。今後は水素ディスペンサーの増設や貯蔵設備の拡充、スマート運営システムの導入を進め、伊吾県の水素産業の発展と新疆における水素交通インフラの整備を支える方針である。(出典) 全球氢能網



伊吾疆納新材料有限公司が運営する納宇水素製造・充填ステーション

2026-07-29 全球氢能網

N：華電集団、中国初の高圧・長距離グリーン水素パイプラインが建設終盤

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252742.html>

華電集団傘下の内蒙古華電華蒙管道有限公司が投資・建設し、中国石油工程建設華北分公司（CPECC 華北分公司）が設計を担当する内モンゴル自治区の「達茂旗—包頭市水素長距離パイプライン」が建設終盤を迎えている。同プロジェクトは国家能源局の第1弾水素エネルギー実証事業に選定された、中国初の高圧・長距離グリーン水素専用パイプラインである。総延長は195kmで、白雲鄂博鋁区の巴潤工業園から包頭市昆都侖区までを結び、再生可能エネルギー由来のグリーン水素を都市部の工業需要地へ直接輸送する。完成後は包頭市の工業用グリーン水素需要を支えるほか、京津冀や陝西、寧夏、遼寧など周辺地域への供給拡大の基盤となる見通しである。設計では、高圧純水素輸送で課題となる水素脆化への対策として、希土類元素を添加した L360MH 鋼管を採用するとともに、水素脆化感受性や破壊靱性などを評価する安全基準を整備し、長距離純水素輸送を可能とする技術基盤を構築した。現在、パイプライン本体はほぼ完成し、平野部では清掃・耐圧試験が進められるなど、関連施設の建設も順調に進んでいる。(出典) 全球氢能網（全球氢能网）



達茂旗—包頭市グリーン水素長距離パイプラインのルート図

(青色：グリーン水素パイプライン、黄色：包白鉄道)

2026-07-29 全球氢能網

N：陝西氢能、300 億元超を投じ定辺県でグリーン水素産業基地を建設

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252740.html>

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/H7GsaOtBalsbO5qh0TnCbA>

陝西省榆林市定辺県政府と陝西氢能産業発展有限公司は 2026 年 7 月、「定辺県グリーン水素基地（製造・貯蔵・輸送・充填・利用）プロジェクト」に関する戦略的協力枠組み協定を締結した。総投資額は 300 億元（7,200 億円）超を見込み、両者は合弁会社を設立し、グリーン水素の製造・貯蔵・輸送・充填・利用を一体化した水素産業基地を整備する。第 1 期では約 15 億元（360 億円）を投資し、再生可能エネルギー発電設備と年産 1.2 万 t の水電解水素製造設備を建設する。さらに 2030 年までに県内で 3～5 カ所の水素ステーションまたは水素・電力・ガソリン・天然ガス複合エネルギーステーションを整備する計画で、将来的にはグリーンアンモニア・化学肥料製造や天然ガスへの水素混合、水素輸送パイプラインなどへ事業を拡大する方針である。

定辺県は風力・太陽光発電設備容量 6.5GW、年間発電量約 100 億 kWh を有する陝西省最大の再生可能エネルギー資源地域であり、豊富なグリーン電力を活用し、西北地域有数のグリーン水素生産・利用拠点の形成を目指す。（出典）全球氢能網（全球氢能网）

2026-07-29 全球氢能網

N：雷動智創、山西省初の大規模オフグリッド水素製造プロジェクト向け整流システムを受注

⇒ <http://h2.china-nengyuan.com/news/252735.html>

⇒

https://mp.weixin.qq.com/s/?_biz=MzkyMDg3MzA5NA==&mid=2247494728&idx=5&sn=2f997002829d8127830f2c43a246cf97&chksm=c0a43216c89cadcb402dbeff6ae389c58f04a9056222e2100e2914b2ac512e8f9fe2bc42c708&scene=27

雷動智創は 2026 年 7 月、中煤平朔採炭沈下地 60 万 kW オフグリッド再生可能エネルギー水素製造プロジェクト（第 1 期、グリーン水素・石炭化学統合部分）の整流システム（交流電力を水電解装置で使用する直流電力へ変換・制御する電源設備）12 台を受注した。同社が中煤集団の国家級グリーン水素実証プロジェクトに参画するのは、「鄂爾多斯 10 万トン液体太陽光プロジェクト」に続き 2 件目となる。プロジェクトは山西省初の大規模再生可能エネルギー水素製造事業で、平朔集団の露天掘り炭鉱跡地を活用し、鉱山跡地の生態系回復と再生可能エネルギー開発を一体的に進める。太陽光発電による完全オフグリッド方式でグリーン水素を製造し、石炭化学プラントへ供給することで、石炭産業の低炭素化を推進する。完成後は年間 3,000 万 Nm³以上のグリーン水素を生産する計画である。

整流システムは、水電解設備に安定した直流電力を供給する中核設備であり、特に再生可能エネルギーの出力変動が大きいオフグリッド型グリーン水素プロジェクトでは、電解装置の運転効率や水素製造量を左右する重要な機器と位置付けられる。雷動智創はこれまでも航天長征化学工程、陝西氢能、華電集団の調兵山プロジェクト、中煤集団の鄂爾多斯 10 万トン液体太陽光プロジェクトなど、大型グリーン水素案件で整流システムを相次いで受注しており、今回の受注は同社が大容量整流電源分

野における技術力と納入実績をさらに高め、中国の大規模グリーン水素プロジェクトにおける主要サプライヤーとしての地位を強化したことを示している。(出典) 全球氢能網 (全球氢能网)



中煤平朔探炭沈下地 60 万 kW オフグリッド再生可能エネルギー水素製造プロジェクトの完成イメージ

2026-07-29 氢能匯

N：貴州省、30 万 t/年メタノール改修・再稼働プロジェクトの環境評価を受理

⇒ https://mp.weixin.qq.com/s/OJRZYK-HmUool7oH6_okgw

⇒ <https://www.gzscjkkfj.cn/index.php?c=show&id=4447>

貴州省六盤水市生態環境局は 2026 年 7 月、貴州能源水城煤電化一体化有限公司が手掛ける 30 万 t/年メタノール改修・再稼働综合利用プロジェクトの環境影響評価を受理した。プロジェクトでは、約 6.7 億元を投じて年産 30 万 t のメタノール製造設備を整備し、コークス炉ガスと電石炉ガスを原料としてメタノールを生産する。

本プロジェクトは、市場低迷により長期間停止していた既存設備を改修・再稼働するものである。2023 年には貴州能源集団が資産再編を実施し、石炭・コークス・化学・発電を組み合わせた循環型産業基地の整備を開始した。今回の事業では、副生ガスを有効活用してメタノールを生産し、「石炭コークス化—副生ガス利用—メタノール製造」を一体化した循環型産業チェーンを構築することで、遊休資産の有効活用や資源循環の高度化、産業競争力の強化を図る。(出典) 氢能匯 (氢能汇)

2026-07-29 高工氢電網

A：中国、全国総合実証都市クラスター選定を前に地方水素政策が加速

⇒ <https://mp.weixin.qq.com/s/cZAFYI1bQLmT4CNjYPL0zg>

全国総合実証都市クラスター（グリーン水素の製造から利用までを一体的に実証・普及する国家プロジェクト）の新たな選定結果の公表を控え、中国では地方政府による水素関連政策が相次いで打ち出されている。各地では地域の特性を生かした施策が進められており、制度改革や需要創出を通じて、水素産業の本格的な市場形成を目指す動きが加速している。

地域	政策・計画	発表時期	主な内容
内モンゴル自治区	再生可能エネルギー由来水素産業安全管理弁法（意見募集案）	2026年7月	グリーン水素プロジェクトの立地、建設、運営に関する安全管理基準を明確化。化学工業団地外でのグリーン水素プロジェクトや水素製造・充填一体型ステーションの設置を認めた。また、グリーン水素製造事業については危険化学品安全生産許可の取得を不要とし、立地規制や参入要件を緩和することで、大規模なグリーン水素産業の形成を後押しする。
四川省	新エネルギー大型トラックの大規模普及推進計画	2026年7月	燃料電池大型トラックに対する省内高速道路通行料無料措置を2027年末まで延長するとともに、水素物流ルートを拡充する。水素物流ネットワークの整備と運行コストの低減を通じ、水素物流市場の拡大を図る。
浙江省	水素・グリーン燃料産業イノベーション発展行動計画（2026～2028年）（意見募集案）	2026年7月	2028年までに主要技術10件以上の実用化、先導産業区5カ所の整備、燃料電池車3,000台の普及、実証プロジェクト50件、産業規模500億元（1.2兆円）超を目指す。水素の製造・貯蔵・輸送・充填・利用に加え、グリーンアンモニア、グリーンメタノール、SAF（持続可能な航空燃料）を含めたグリーン燃料産業を一体的に育成する。
雲南省	2026年グリーン電力由来水素一体化実証プロジェクトリスト	2026年7月	グリーン水素、グリーンアンモニア、グリーンメタノールの一体型プロジェクトを重点支援する。用地、環境影響評価、系統接続などの手続きを関係部門が一体的に支援し、再生可能エネルギーの有効活用とグリーン水素プロジェクトの早期実現を促進する。
湖北省	燃料電池車高速道路通行料金補助政策	2026年5月	省内の高速道路を走行するETC搭載の燃料電池車を対象に、車籍を問わず高速道路通行料金を全額補助する。実施期間は2027年12月末まで。物流事業者の運行コスト削減と、燃料電池大型トラックの普及拡大、「江漢水素回廊」（湖北省内の主要都市を結ぶ水素物流ネットワーク）の形成を後押しする。
江蘇省	長江・沿海水素産業イノベーション協同発展試行実施方案（2026年度）・蘇州市水素産業支援政策	2026年5月	蘇州市・南通市・塩城市を中心に、技術開発、設備製造、実証プロジェクトなどを連携して推進する広域協力体制を構築する。蘇州市は企業育成、技術開発、人材育成、標準化、金融支援など10分野で支援策を実施する。2027年までに産業規模1,000億元（2.4兆円）、100カ所の水素ステーション、燃料電池車1万台の普及を目標とし、水素製鉄、水素船舶、洋上グリーン水素など新たな実証・応用分野の拡大を進める。

（出典）高工氫電網（高工氢电网）

2026.7.25 **finance.biggo**

N：中国・潍柴動力、ベトナムで 5 つの技術戦略を発表、東南アジアのグリーン大型車市場を狙う

⇒ <https://finance.biggo.jp/news/951e4b35-b430-4d32-b8b2-916f00e53a0e>

中国の産業用パワートレイン大手、潍柴動力（Weichai）は、ベトナム・ハノイで開催したグローバルパートナー会議において、バッテリー式電気自動車（BEV）、ハイブリッド車（HEV）、水素燃料電池、代替燃料エンジン、高度運転支援システム（ADAS）の 5 分野を網羅する包括的な技術戦略を発表した。同社はベトナムで 40 年にわたり事業を展開し、累計 16 万台以上のパワーユニットを販売してきた実績を持ち、同国を東南アジア全域への拡大に向けた戦略的拠点と位置付けている。主な発表製品には、大型トラック向け CT100 バッテリー、WEF300 燃料電池エンジン、WP15DI 水素燃焼エンジン、そして自律走行鉱山ソリューションが含まれる。この動きは、商用車のグリーン移行が進む東南アジア市場での競争を激化させるものであり、潍柴動力は単一サプライヤーとして低炭素パワートレインのフルラインナップを提供することで差別化を図る狙いだ。[\(つづきを読む\)](#)

2026.7.30 **CRDS**

A：国家エネルギー局、「エネルギー分野 省エネルギー・炭素排出量削減行動計画」を発表

⇒中国原文 [国家能源局关于印发《能源领域节能降碳行动计划（2026—2028 年）》的通知](#)

⇒ <https://crds.jst.go.jp/dw/20260730/2026073045983/>

本文：

（2026 年 7 月 10 日付中央人民政府発表に関し、科学技術イノベーションに関する内容の概要は以下のとおり）

省エネルギー・炭素排出削減の取り組みをより高い水準かつ質の高い形で推進し、エネルギー分野の役割を十分に発揮させるため、この行動計画を策定する。

2028 年までに、非化石エネルギーの消費割合を年平均約 1 ポイント引き上げ、現行のエネルギー効率目標水準を満たす石炭火力発電所の設備容量の割合を 15 ポイント高めることを目指す。ゼロカーボン・低炭素型炭鉱および油田を整備し、ゼロカーボン工業団地の建設を支援し、重点産業で著しい進展を実現する。

・省エネルギー・炭素排出削減技術のイノベーション強化

（1）技術・設備の研究開発と普及の強化

省エネルギー型設備の研究開発を強化し、生産、供給、貯蔵、輸送の全過程におけるエネルギー効率を向上させる。国家重大科学技術プロジェクトなどを活用し、重要な共通技術・設備の研究開発と技術課題の克服を支援する。初めて導入する設備に関する支援策を進めることで効率の高い技術・設備の導入と普及を後押しする。

（2）デジタル化・スマート化による支援の強化

エネルギーの生産、供給、貯蔵、販売、利用の各段階におけるデジタル化・スマート化を推進する。企業による炭素管理プラットフォームの構築を支援し、エネルギー消費量と炭素排出量のオンライン監視、算定、フレキシブルな管理を実現する。エネルギー分野における AI モデルの開発を奨励する。

(3) 低炭素・ゼロカーボン・炭素削減に関する先端技術の研究開発

化石エネルギーのクリーンかつ高効率な利用、再生可能エネルギーの大規模利用などの重要分野に重点を置き、戦略的な先端科学技術の研究開発を拡大する。超臨界 CO₂発電や CCUS（二酸化炭素の回収・利用・貯留）などの重要技術の確立を加速する。風力・太陽光発電を活用した水素製造、大規模かつ安全な水素貯蔵に関する重要技術を開発し、グリーン水素製造用触媒などの重要技術を確立する。

・省エネルギー・炭素排出削減政策の仕組みの整備

(1) 炭素排出量の統計・算定管理の強化

石炭の採掘・選炭、石油・天然ガスの探査・開発・輸送・貯蔵、電力の生産・送配電・貯蔵、水素の製造・貯蔵・輸送、石油精製などの分野・段階を中心に、炭素排出量の統計・算定を実施し、定期的な仕組みを段階的に整備する。製品のカーボンフットプリント基準の策定と排出係数の研究開発を加速し、電力、石炭、石油・天然ガスなどの業界の炭素排出量を継続的に監視する。

(2) グリーンエネルギー消費を促進する仕組みの整備

再生可能エネルギー消費の目標制度を確立し、再エネ電力消費比率責任制度を整備する。グリーン電力証書市場を継続的に拡大し、価格指数を公表する。原子力発電をグリーン電力・グリーン証書制度に組み入れる取り組みを進める。グリーン証書の算定、認証、表示などの基準を策定・公表し、国際基準との整合を加速する。グリーン証書を炭素排出量算定制度に組み入れる取り組みも推進する。

(3) 市場制度の整備

全国統一電力市場の構築を進め、地方の電力需給の時間帯や調整能力の違いを活用し、クリーンエネルギーの広域利用を促進する。グリーン証書とグリーン電力の取引制度を整備し、発電側と需要側が複数年契約や一括取引などの方式でグリーン電力取引を行うことを推進する。CCUS や再生可能エネルギーの非電力利用など、低炭素・ゼロカーボン・炭素除去プロジェクトを温室効果ガス自主削減プロジェクトの方法論に組み入れる具体的な対象を検討する。

【参考資料】

2026-07-24 JETORO ビジネス短信

A：遼寧省、「海洋経済発展」に関する5カ年計画を発表、2030年までに海洋生産総額8,000億元

⇒ <https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2026/3c227c6fa539bf2c.html>

中国・遼寧省政府は6月28日、「遼寧省第15次5カ年（2026～2030年）海洋経済発展計画」を発表した。同計画は、2030年までに海洋生産総額8,000億元（約19兆2,000億円、1元＝約24円）の達成を目指すとともに、大連市を中核とし、渤海エリア・黄海エリア（注1）が連携して発展する「一核引領、両翼共進」の海洋経済発展モデルを打ち出した。

同計画の重点施策は次のとおり。

1. ハイテク船舶・海洋工学機器製造拠点の建設
2. 港湾・海運サービスの高度化
3. 海洋新エネルギー産業の育成
4. デジタル海洋建設の推進

1.では、大型LNG（液化天然ガス）運搬船、液体アンモニア運搬船、エタン運搬船、二酸化炭素（CO₂）輸送船などの設計・建造能力の向上を重点課題とした。また、大連市を研究開発・設計から、実証試験、最終組立・製造、修理・改造までを一体化したハイテク船舶およびハイエンド海洋工学機器の製造拠点として整備する。2030年までに、省内の一定規模以上の船舶部品企業数（注2）を200社以上とすることを旨とする。

2.では、北東アジア航路の安定化に加え、地域的な包括的経済連携（RCEP）協定加盟国や南米、中東、アフリカ向けの国際海運ネットワークを拡充する。また、大連港を自動車輸出拠点化するとともに、大連国際クルーズ港およびヨット関連インフラの整備、大連太平洋湾臨港コールドチェーン産業基地（注3）の建設を進める。

3.では、大連市の200万キロワット級、丹東市の350万キロワット級の洋上風力発電プロジェクトを重点的に推進する。また、海水を利用した水素製造技術の研究開発と産業化を進めるほか、大連市と営口市で水素・アンモニアの製造・貯蔵プロジェクトを計画し、グリーン水素の製造・貯蔵・輸送・利用の一体的発展を加速する。

4.では、人工知能（AI）、デジタルツイン、モノのインターネット（IoT）の活用を進める。2030年までに、大連港大窯湾および営口港鮫魚圏を中核として、主要港湾エリアの管理・運営調整業務の自動化率を85%以上に引き上げる目標を掲げた。

同計画を受けた遼寧省および大連市の船舶・海洋工学機器、港湾物流、洋上風力発電・水素エネルギー分野の今後の発展動向が注目される。